

ニ在リテモ各個特別ノ運動場ヲ區劃シテ單獨ニ其中ニ運動セシメ會堂、教場等ニ於テモ亦タ所謂任切ヲ設ケテ獨坐セシメ教師僧侶看守ノ外ハ四人ヲシテ一人モ其眼中ニ入ルコトヲ得サラシメント欲スルニアリ、他派ハ則チ之レニ異リ分房ハ大體監房ヲ離隔スルヲ以テ足レリトシ一タヒ監房ヲ出タシタル以上ハ唯タ嚴重ナル視察ノ下ニ同囚ノ交際ヲ峻絶スルニ止メ會堂、教場、運動場等ノ如キハ左マテ器械的嚴密ニ之ヲ離隔スルヲ要セスト云フニアリ。一時ハ二派互ヒニ其旗色ヲ異ニシテ相讓ル所アラサリシカ近時獨逸等ニアツテハ一般ニ寬和派分房制ニ歸向ヲ一ニシタルモノ、如シ蓋シ會堂、教場、運動場等ニ於テ稀レニ屋外ノ光景ヲ眺メ或ハ同囚相見ルノ機會ヲ得セシムルハ反テ囚人ノ心神ヲ發揚舒暢セシムルノ効果アリ或ハ教場會堂等ニ於テ囚人ヲ雜居セシムルトキハ崇敬注意ノ念慮ヲ薄弱ナラシメ或ハ種々ノ手段ニ依リテ通聲交通スルノ弊アルヲ免カレスト云フ者アリト雖モ是ハ視察若シ嚴密周到ナルヲ得ハ則チ充分ニ之ヲ阻絶スルヲ得ヘク假

分房制施行期限

令ヒ全ク阻絶スル能ハサルニモセヨ瞬間ノ機會殊ニ不完全ノ方法(盜眼或ハ形容等)ヲ以テスルニ過キサルカ故ニ之レカ爲メ格別彼ノ所謂囚人ヲ不良社會ヨリ隔離セシメント欲スルノ旨義ニ戻ルトモ思ハレヌ且ツ經濟上ニ於テハ幾分カ餘分ノ費用ヲ節減シ之レカ爲メ分房制ノ實施ヲ容易ナラシムルノ利益アルヲ以テナリ
 分房制ハ之ヲ他ノ行刑制度ニ比スレハ其結果ハ一層嚴且ツ重ナルコト論ヲ俟タス是ヲ以テ之レカ施行上ニ於テハ多少制限ヲ設クル所ナクシハアルヘカラス施行期限ノ長短ニ就テハ諸説相同シカラス各國亦タ其軌ヲ一ニセス和蘭ニ於テハ五年トシ諾威ニ於テハ四年トシ獨逸ハ三年英國ハ二年佛國ハ一年ヲ以テ其最長期限トシ白耳義ニ於テハ實驗上精神及ヒ身體ニ缺クル所ナキ者ニ對シ十年間ニ至ルマテ分房ニ獨居セシムルヲ得ルコトヲ確認セリ然レモ之ヲ要スルニ各國ノ民情風俗等ニ應シテ考量シ據ツテ以テ其最長期限ヲ劃定セサルヘカラス、クローチ氏曰ク審究スル所歐洲人ニ對シテハ五年ヲ以テ最長期

限トナスコト最モ其宜シキヲ得タルモノ、如シト婦女ハ男子ニ比スレハ一般ニ比較的能ク分房拘禁ニ堪フルモノ、如シ其他分房拘禁ハ個人的心身上ノ關係ニ由ツテ慎重ニ取捨斟酌スル所ナカルヘカラス、精神及身體上健全ヲ欠ク所ノ囚人ハ或ハ分房ヲ中止シ或ハ始メヨリ之ヲ分房ニ付スヘカラス又年齢六十歳以上ノ老者十四歳以下ノ幼童及ヒ痼疾不具ノ輩ハ全然之ヲ分房ニ拘禁セサルコトヲ要ス

分房制ニ反對スル者口ヲ開ケハ輒チ曰ク分房制ハ囚人心身ハ健康ヲ損傷シ且ツ出獄後良民的生活ノ正路ニ復歸スル能力ヲ殘害スト果シテ是レアラン乎是レ分房制其物ノ罪ニアラスシテ之ヲ適用スル方法其宜シキヲ得サルナリ

分房制ニ於テ精神病者ノ生出ヲ見ルハ事實ナリ然レモ雜居制ニ於テモ之ヲ發見スルコト少カラス唯タ分房制ニ在ツテハ觀察常ニ周到ナルカ故ニ精神病者ハ僅カニ輕微ノ徵候アル時ニ當ツテ速カニ之ヲ發見スルコトヲ得從ツテ精神的療養ヲ施ス者或ハ常ニ多數ノ割合ナル

分房制反對論

ヲ見ルコトアルヘキモ敢テ之レカ爲メ分房制ハ雜居制ニ比シ比較的多數ノ精神病者ヲ生出ストハ言フヘカラス統計表ノ吾人ニ證明スル所ニ據ツテ之ヲ見ルニ疾病死亡ノ數ノ如キハ分房制ニアツテ反ツテ雜居制ニ於ケルヨリモ著ルシク其割合ノ僅少ナルヲ見ル或ハ曰ク分房制ニアツテハ手淫ノ弊ヲ防ク能ハスト分房制ニ於テ手淫ノ弊アルハ事實ナリ然レモ雜居制ニ於テモ亦タ此弊アルヲ免カレス(然カモ公然的ニ言タニ此弊アルノミナラス尙ホ他ニ言フヘカラスアル一種破倫的醜風ノ行ハルモノアルヲスラ防遏スル能ハス分房制ニ於ケル手淫ノ弊ハ嚴密ナル觀察ト懇切ナル訓誡トニ依ツテ之ヲ阻絶スルコト必スシモ至難ノ業ニアラサルナリ又分房制監獄ニハ常ニ幾十種類ノ作業アリ内役ニ適セサルモノハ外役ニ就ケ外役ニ適セサル者ハ内役ニ移シ役ノ内外ヲ論セス成ルヘク囚人ノ身分技能健康ニ適應シタル種類ノモノヲ撰ンテ之レニ課シ加之幾多ノ監獄官吏ハ常ニ監房ヲ出入シ友侶トナリ協議者トナツテ囚人ニ直接シテ其善後ノ方法ヲ訓導ス之

ヲ如何シ、良民的生活ノ正路ニ就ク、ノ能力ヲ殘害スト謂フヘケンヤ
 試ミニ彼ノ雜居制ノ結果、犯罪者ヲシテ益々其道義心ヲ絶滅セシメ愈
 々危険的ノ人物ニ化成シテ社會ニ放還スルモノニ比シテ之ヲ一考セ
 ヲ其利害ノアル所必スシモ智者ヲ俣ツテ後ニ之ヲ知ラサルナリ、但シ
 分房制ト雜居制ニ論ナク長期ノ受刑者ハ之ヲ放縱不羈ノ自由社會ニ
 放還スルノ前ニ當リ一旦先ツ多少ノ制限アル自由ノ境遇ニ轉移セシ
 ムルノ注意アルコト必要ナリ、則チ或ハ之ヲ假出獄ニ付シ或ハ紀律ノ
 比較的寛大ナル諸般外役ノ業務ニ從事セシムルコトヲ要スベシサム
 氏曰ク境遇ノ激變ハ犯罪ヲ餘義ナクセシムルノ弊アルヲ免カレスト
 階級制ノ創見アル所以ナリ

階級制

第三節 階級制 (Stufensystem)

雜居制及ヒ分房制ニ亞クモノ之ヲ階級制ト稱ス、階級制トハ分房、雜居
 及ヒ假出獄ハ三段ニ分ツテ刑ヲ執行スルモノ、即チ是レナリ、
 初級即チ第一級ヲ分房トス、此場合ニ於ケル分房施行ノ方法ハ外觀ハ

初級ノ期限

即チ彼ノ分房制ニ於ケルモノト同一ナルカ如シト雖モ實際ニ至ツテ
 ハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアツテ存ス、蓋シ階級制ニ於ケル初級ノ分
 房ハ刑ノ痛苦ヲ層重ナラシメンコトヲ以テ本旨トナスカ故ニ作業ノ
 如キハ成ルヘク單一ニシテ倦厭シ易スキモノヲ撰ンテ之ヲ課シ恩惠
 的特別ノ待遇ハ渾ヘテ之ヲ禁絶シ書信接見ノ如キモ務メテ之ヲ制限
 シ其他教誨、授業等感化上直接ニ必要ナル場合ノ外ハ常ニ最モ嚴密ニ
 社交的關係ヲ防遏スル等要スルニ罪囚ヲシテ寂寥ト嚴肅トニ由ツテ
 一層刑ノ痛苦ヲ感セシムル方法ニ之ヲ施行スルモノトス、而シテ其期
 限ハ通例六個月以上一箇年以下トナス、
 二級ハ即チ雜居トス、然レモ所謂雜居ト稱スルモノ多クハ唯タ晝間同
 一ノ工場ニ於テ混同就役セシムルニ止マリ夜間ハ即チ比較的、狹隘ナ
 ル監房十二乃至十五立方メートルノ廣サアル若クハ仕切リアル寢室
 ニ罪囚ヲ分禁スニ級ハ通例、尙ホ罪囚ノ性情、品行、身分、罪數犯數等ニ由
 テ尙更ラニ數段ニ之ヲ細別シ行狀ノ良否、作業ノ勉否ニ由ツテ昇降セ

階級制ノ要旨

シム即チ和蘭ニ於テハ更ラニ二級ヲ細別シテ懲罰級、再犯級及ヒ改良級ノ三段トナス之ヲ要スルニ二級ニ於ケル大體ノ狀況ハ彼ノ雜居制ニ於ケルモノト異ルナク級別如何ニ精密ニ視察如何ニ周到ナルモ到底以テ雜居制固有ノ弊失ヲ除却スル能ハサルニ至ツテハ則チ一ナリ而シテ二級ニアツテ行狀善良改過遷善ノ微顯著ナルモノハ即チ詮考シテ之ヲ假出獄ニ付ス其法或ハ一定ノ點數ヲ準トシ(所謂表點法)或ハ單ニ多數監獄官吏ノ證認スル所ニ基テ之ヲ取捨ス

階級制ノ要旨ハ囚人ヲシテ良民的生活ニ復歸スルハ順序ヲ得セシメント欲スルニアリ始メハ嚴遇シ後チニハ之ヲ寬待シ囚人ヲシテ徐々段階ヲ追フテ社會的規律ニ服従スルハ慣習ヲ馴致セシメント欲スルニアリ其旨趣ニ於テハ實ニ一點ノ間然スル所ナシト謂フベシ然レモ之ヲ實行スル方法ニ至ツテハ大ニ其宜シキヲ得ザルモノアリ犯罪ヲ防遏セント欲スル所以ノモノ偶々以テ之ヲ養成助長スルニ至ルヲ免カレス又徒ラニ脅嚇的分房ヲ施行スルノ結果ハ或ハ精神病ノ發生ヲ

促カシ或ハ偽善術ノ進歩ヲ求ムルニ至リ且ツ其期限ノ如キモ僅ニ一年ヲ以テ限度トナスカ故ニ縱シ分房ヲ以テ幾分ノ効果アリトスルモ其效果ハ忽チ雜居ニ由ツテ消滅シ去ルニ至ルベキコト論ヲ俟タズ罪囚雜居ノ弊失ハ前節(本章第一節)既ニ之ヲ詳述セリ縱令ヒ外觀紀律ノ整然見ルベキモノアリト雖モ裏面ノ實相ハ到底瀾瀾慘怛タルヲ免カレズ或ハ食物ヲ厚クシ或ハ給與工錢ノ額ヲ高ムル等諸般勸獎的優遇ヲ施スコト絶對的盡ク之ヲ不可トナスニハアラサレモ試ミニ彼レ犯罪ノ原因ニ就テ之ヲ討究セバ多クハ則チ一片慾望ノ念之レハ根源タルニアラスヤ之レハ根源タル慾望心ヲ利用シテ遷善悔悟ヲ促カサント欲ス未ダ以テ刑ノ至公至正ノ旨義ニ適シタルモノトハ言フヘカラサルナリ英國ハ他ノ諸國ニ比スレハ最モ多ク階級制ヲ稱用スルモノ、如シ然ルニ近時ニアツテハ有識者ノ間往々之ヲ非難スルモノアリ「ホワルド」協會ノ如キハ終ニ階級制有害ナルノ意見ヲ發表スルニ至レリ然ラハ則チ階級制モ亦タ終ニ其期望スル所ノ目的ヲ貫徹シ能ハザ

ルカ將タ或ハ其執行方法ニ於テ未ダ完全ヲ欠クモノアルヲ免カレサルカ何レカ其一ニ居ラサル可ラサルナリ我カ監獄則モ亦タ將來階級制ヲ採用スルニ至ルヘントノ議アルヲ聞ク之ヲ彼ノ雜居制ノ粗笨醜敗ナルモノニ比スレハ階級制ノ遙カニ改良進歩シタル行刑制度ナルコト勿論ナリト雖モ然レモ之レニ伴フ所ノ弊失亦タ前述ノ如ク少カラステラニ其趣向ノ美ナルニ眩惑セス宜シク前轍ニ鑑ミテ充分慎重ニ其實行ノ方法ヲ改良進歩セシムル所アルヲ要ス

階級制最後ノ級即チ第三級ヲ假出獄トナス

假出獄

第四節 假出獄

假出獄ナルモノハ此名稱ノ下ニ英國ニ於テ流刑附帶ノ獎勵法トシテ之ヲ執行シタルニ肇マリ尋イテ歐洲大陸諸國ノ立法上ニ之レカ採用ヲ見ルニ至レリ蓋シ假出獄ハ始メハ便宜的行政規則ノ一作用タルニアリシカ一タヒ行刑法ノ一部分トシテ法律ヲ以テ規定スルニ至リタルヨリ以來大ニ其性質ヲ變更シ裁判宣告ハ刑期ハ之レカ爲メ毫モ伸

縮スルコトナク行刑官署ハ唯ダ長期自由刑ノ最終幾部分ノ期間ニ對シテ或ル寛大ナル方法即チ假出獄ヲ以テ刑ヲ執行スルノ職權アルノミニ至レリ故ニ假出獄ヲ受ケタル者ハ如何ナル場合ニ論ナク決シテ自由人民トシテ之ヲ認ムヘキ者ニアラヌタトヒ之ヲ監外ニ放還スト雖モ常ニ嚴密ナル監督條規ノ下ニ動作セシメ違背スル者アレバ則チ直チニ之ヲ停止シ再ヒ監獄ニ拘禁シテ一層緊肅ニ其自由ヲ剝奪ス且ツ出獄中ノ日數ハ刑期ニ之ヲ算入セズ

行刑官吏ガ法律ニ基テ假出獄處分ヲナスハ恰モ猶ホ裁判官ガ刑法規定ノ範圍ニ於テ適當ト認メタル刑期ノ宣告ヲナスカ如シ彼レ裁判官ノ罪囚個人的關係ヲ省察スルカ如ク行刑官吏モ亦タ能ク之ヲ詳悉ス法律ヲ基礎トシテ正理公道ノ要求ヲ充タスニ至ツテハ此レト彼レト毫モ相異ル所アラス假出獄ヲ以テ行政便宜上ノ一手段トナスカ如キハ抑モ亦タ誤解ノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス

假出獄ノ處分ヲナシタル者ハ其刑期間之ヲ特別監視ニ付ス(刑法附則

假出獄ノ條件

第四十條、第四十三條、第四十四條及第四十五條特別監視ハ則チ假出獄ヲ以テ主刑ヲ執行スル所ノ條件ニシテ附加刑ニモアラス又行政取締ノ方法ニモアラサルナリ

假出獄ハ一定ノ要件ヲ具備シタル上ニ於テ之ヲ許可スヘキモノナルコト勿論ナリ而シテ其第一要件トスヘキ所ノモノハ或ル一定ノ期間、監獄ニ於テ嚴重ナル刑ノ執行ヲ終ヘタルモノナルコト即チ是レナリ英國ハ五年、獨逸ハ一年ヲ以テ其最短期限トシ共ニ刑期ノ四分ノ三以上ヲ經過スルコトヲ要ス而シテ其最短期限ハ一ハ長キニ過ギ一ハ短キニ失スルノ嫌ヒアルヲ免カレス、ホルツエンドルフ氏ノ如キハ最下、限、二、年ト定ムルヲ以テ中正ヲ得タルモノナリトセリ、我が刑法第五十三條ニ於テ唯ダ刑期四分ノ三ヲ經過シタル者ニハ假出獄ヲ許ルノ規定アルノミニシテ其經過期間ノ最下、限、ヲ明示セザルハ欠點ナリ故ニ單ニ法文上ヨリ之ヲ言ヘバ短刑期即チ一年以下或ハ六ヶ月若クハ三ヶ月ノ刑期ト雖モ尙クモ或ル條件(獄則ノ遵守、悔改ノ情狀)ヲ充タ

ス以上ハ之レニ對シテ假出獄處分ヲナスコト亦タ敢テ妨ゲナキモノ、如シ是レ豈ニ假出獄ヲ行フノ本旨ナランヤ第二ノ要件ハ行狀、端正、悔改ノ狀顯著ニシテ當局者ニ於テ假出獄ノ許可ヲ與フルノ價直アル者ト認め且ツ假出獄ニ由リ益端正ナル品行ヲ保チ能ク此恩典ノ旨趣ヲ服膺シ謹直精勵以テ良民社會ニ復帰スヘキコトヲ證明シ得ルコト則チ是レナリ是故ニ單ニ獄則ニ觸レ懲戒處分ヲ受ケタルコトナシト云フノ事實ノミニテハ未ダ以テ假出獄ヲ許可スルノ理由トナスニ足ラス之レニ反シ多少ノ犯則アルモ其行為ニシテ寬恕スヘキ事情アリ且ツ爾來真心悔改ノ情顯著ナルトキハ之ヲ以テ假出獄拒絶ノ理由トナスノ限リニアラサルナリ

第三ノ要件ハ假出獄ヲ受クヘキ者ニシテ出獄後、正實ノ職業若クハ信任スヘキ引受人ヲ得テ確乎タル良民的生計ヲ營ミ得ヘントノ認定アルコト則チ是レナリ此點ハ最モ省察スヘキ必要事項ナリト雖モ如何セン社會ハ尙ホ未ダ監獄ヲ信用スルコト甚ダ薄ク從ツテ出獄者ヲ嫌

忌スルコト甚タ深ク動モスレハ輒チ之レニ職業ヲ與ヘ之レニ保護ヲ加フルヲ欲セカ之レカ爲メニ一般ノ出獄者ハ言フヲ俟タヌ後改ノ公證アル假出獄者スラ往々窮苦ノ極終ニ犯罪ノ止ムベカラザル境遇ニ陥落セシムルニ至ルヲ免カレス若シ夫レ他日、出獄人保護會社ノ如キモノ盛ンニ行ハル、ヲ見ルニ至ラバ假出獄モ亦タ大ニ其適用ノ範圍ヲ擴充スルヲ得ヘシ我カ刑法ハ審クニ此第三ノ要件ニ冷淡ナルハミナラス寧ロ明文ヲ以テ反對ノ意思ヲ表白セルモノ、如シ刑法附則第四十七條ニ曰ク假出獄ヲ許スベキ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置スヘシト住所ナク引取人ナキ所ノ者即チ良民社會ニ復歸スベキ望ミナキ浮浪者ニ對シテ尙ホ法律ハ假出獄ノ惠遇アルベキコトヲ豫想シマタ至當トス假出獄ヲ許スノ旨趣果シテ何クニアル不條理モ亦タ甚シト謂ハサルヲ得ス

假出獄ハ行刑ノ一部分ナルコト前ニ之ヲ陳述スル所ノ如シ既ニ之ヲ以テ行刑ノ一部分ナリトセハ監獄署ニ於テ之ヲ申請シ其裁可若クハ

假出獄ノ効果

停止ハ高等監督官署タルハ内務省ニ於テ之レニ當ルハキコト固トヨリ當然ナリ然ルニ我カ刑法ハ申請權ヲ以テ之ヲ典獄ニ委任シタルニモ拘ハラス獨リ裁可權ニ至ツテハ内務及ヒ司法ノ兩大臣ニ之ヲ聯屬セリ(刑法附則第三十八條)假出獄停止權ハ監獄則施行細則第~~獨~~逸刑法第二十五條)モ亦タ其轍ヲ同フス我國行刑上ノ組織ハ一モ司法大臣ヲシテ之レニ干與セシムルモノアルヲ見ス獨リ假出獄ニ對シテノミ之レカ容隊ヲ求ム吾人ハ其如何ナル理由ニ基ツキ又如何ナル必要ニ出ツルカラ知ルニ苦マサルヲ得ス

假出獄ノ炳然タル効果ハ囚人ハ遷善悔悟ヲ促シ且ツ再犯防遏ノ手段トシテ最モ適當ナルニアリ何ヲ以テカ囚人ノ改良感化ヲ促スト云フ日ク前途假出獄ノ恩典ヲ受クルノ希望アルトキハ囚人ハ入監ノ當時ヨリ必ス先ツ此希望ヲ目的トシテ大ニ戒慎スル所アルヘシ戒慎ノ結果ハ囚人ヲシテ知ラス識ラス眞心遷善改悟スルニ至ラシムヘキヲ以テナリ何ヲ以テカ再犯防遏ノ手段トシテ最モ適當ナリト云フ曰ク囚

人ヲシテ此恩典ヲ停止セラレ、不幸ヲ見ルカ如キコトナキ注意ヲ以テ嚴重ナル監督條規ノ下ニ精勵刻苦セシムルノ結果ハ終ニ之ヲシテ全ク犯罪的念慮ヲ絶滅シ結局良民的生活ニ慣熟セシムルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ此恩典施行ノ範圍ハ濫用ヲ防ギ得ラル、限リ成ルベク之ヲ擴張スルヲ要ス我ガ刑法ニ於テハ唯ダ其第五十七條ヲ以テ刑期限内更ニ輕重罪ヲ犯シタル者ニ對シテ假出獄ヲ許サ、ルノ制限ヲ設ケタルノミニシテ獨逸等ノ如ク或ル種類ノ犯罪者例ヘハ財産ニ對スル再犯以上ノ犯罪者ニ對シテハ通例始メヨリ全ク之ヲ許可セサルカ如キ例ニ由ラス然レモ假出獄ヲナスニ當ツテ實際上個人的關係殊ニ罪質犯數刑期等ヲ省察シテ取捨斟酌ヲ加フルノ注意アルヘキハ當然ニシテ前記三要件ノ望ム所亦タ實ニ此ニアリト謂フヘシ

第四章 犯罪ノ豫防

第一節 出獄人保護事業

刑ヲ宣告シ刑ヲ執行スルハ國權ノ作用ニ屬シ國家ノ機關之レニ關與ス

犯罪ノ豫防 出獄人保護事業

而シテ刑ノ執行ヲ終ヘタル者テシテ秩序アル良民的生活ニ復歸シ之レヲシテ再ヒ犯罪ナカラシムルニ至ルハ則チ社會公共ノ責務タルヲ免カレス、然ルニ社會ハ常ニ出獄者ヲ嫌忌スルコト甚ク獨リ之ヲ收養保護スルコトヲ欲セサルノミナラス反ツテ全力ヲ擧ケテ之ヲ社會ヨリ排斥驅逐センコトヲ努メ其結果ハ終ニ改良ノ好希望アル出獄者マテモ再ヒ犯罪ニ由ツテ衣食ヲ求ムルノ餘義ナキニ至ラシムルモノ殆ント皆是レナラサルハナシ監獄改良事業ノ前途ニ横ハル所ノ一大障礙ナリト謂ハサルヲ得ス蓋シ社會ヲシテ出獄者ヲ嫌忌スルノ甚シカラシムルモノ監獄行刑法ノ不完全ナルコト實ニ之レカ主因タラスンハアラス監獄ニシテ若シ果シテ其本然ノ職務ヲ全フシ社會ヲシテ厚ク其事業ノ効果ヲ信任スルニ至ラシメハ出獄者ヲ嫌忌スル情モ亦タ從テ薄ラクヘク之レニ乘シテ國家機關ニ於テ少シク操縦揮擡スル所アラハ社會ヲシテ出獄者收養保護ノ責務ヲ全フスルニ至ラシメンコト必スシモ至難ノ業ニアラサルヘシト信ス我國ニ於テモ往々出獄者

保護事業ノ尙ホ未タ微々トシテ振ハサルコトヲ痛嘆スル者アリ吾人モ亦タ之ヲ痛嘆セサルニアラス唯タ夫レ退テ我カ監獄行刑ノ實況ヲ觀察スルトキハ吾人ハ尙ホ未タ獨リ社會ノ曠職ヲ酷咎スルノ地位ニ達セサルモノアルヲ憾ラム然リト雖モ今ヤ我國監獄改良ノ事業ハ着々其歩武ヲ進メツ、アルノ時機ニ會ス此時ニ方リ出獄者保護事業ノコト即チ亦タ一日モ忽諸ニ付スヘカラス社會有識先覺ノ士ハ言フヲ俟タス國家モ亦タ或ハ間接ニ或ハ直接ニ或ハ有形的ニ或ハ無形的ニ大ニ之レカ發達進歩ヲ勸奨保護スル所ナクンハアラサルナリ

フエーリング氏曰ク監獄ノ目的ハ監獄其レ自ラノ作用ノミヲ以テ成就シ得ヘキニアラス社會道德の事業殊ニ出獄人保護事業ノ整備セルヲ俟テ始メテ能ク其目的即チ犯罪防滅ノ効ヲ擧クルニ至ルヘシト是ヲ以テ歐米諸國監獄改良事業ニ着手スル所必ラス之レニ伴フテ保護事業ノ起ラサルハナシ保護事業ハ北米合衆國(フヰラデルフヰヤ)出獄人保護會社ニ於テ實行シタルモノヲ創始トシ次イテ英國ニ於テ(同題

フエーリング氏

協會 Society of Friends)之ヲ建設シ爾來和蘭(千八百二十三年)デチマルク(千七百九十七年)獨逸(千八百二十六年)佛國(千八百三十八年)魯國(千八百十九年)瑞西(千八百二十年)白耳義(年紀未詳)等ニ於テモ亦タ種々ノ名稱ノ下ニ公立若クハ私立ノ出獄人保護會社ヲ創立スルニ至レリ經驗ハ改良ヲ促カス始メハ其組織方法ノ極メテ不完全ナルヲ免レサリシ所ノモノモ年所ノ經過ト共ニ漸次之レカ發達進歩ヲ見ルニ至リ殊ニ近代ニ及シテハ一私人ニシテ(トーマス、ホイスタ、エリサベス、フリード)子ル。ローピン等諸氏獨力以テ此事業ニ熱注シタル者亦タ前後少カラス且ツ之レカ爲メニ費ヤシタル所ノ資財ノ如キ吾人ヲシテ實ニ其巨額ナルニ一驚セシメスンハアラス多額ノ資本ハ果シテ満足スヘキ良好ノ成績ヲ購得スルニ至リタルカクローチ氏曰ク保護事業ハ幾多ノ努力ト資本トヲ費シタル割合ニハ尙ホ未タ満足スヘキ効果ヲ見ルニ至ルコト能ハスト是レ蓋シ監獄行刑法ノ未ダ不完全ナルヲ免レサルニモ由ルヘシト雖モ主トシテマタ保護事業ノ組織方法其宜シキヲ

得サルモノアルニ歸因セサルナキヲ得ンヤ
著者曾ツテ出獄人保護事業ニ關スル鄙見ヲ開陳シテ之ヲ世ニ公ケニ
セルコトアリ鄙見ニ曰ク

前略保護ノ事業ハ或ハ會社組織ニ由テ之ヲ施行スルモノアリ或ハ
教會事業トシテ其宗務的管理ニ一任スルモノアリ或ハ一個人タル
有志者ノ計營ニ委託スルモノアリ或ハ彼此相混用スルモノアリ其
方法ハ即チ國又ハ地方ニ由テ相同シカラス然レモ出獄者ニ對シ或
ハ衣食ヲ給シ又ハ居住ヲ與ヘ或ハ職業ヲ授ケ又ハ職業ニ必要ナル
器具若クハ資本ヲ貸付スル等要スルニ良民の生活ヲ容易ナラシム
ルノ便ヲ與フルノ點ニ就テハ毫モ相異ル所アラサルナリ故ニ其方
法ノ何レタルトハ一ニ各地方ノ情況ニ應シテ便宜措置セシムル所
アリテ可ナリ若シ幸ニシテ我國ニ於テモ彼ノエリサベスフリ
リードネルローピン等ノ如キ熱心ナル有力者ヲ得ハ保護事業ヲ以
テ之ヲ一個人ニ委託スルモ亦タ妙ナラン佛教ナリ將タ耶穌教ナリ

其宗務團體ヨリ出獄者ヲ收養保護セント請ハミ之レニ一任スルコ
ト亦タ決シテ不可アラサルナリ然シ我國ニ於テハ今日俄カニ斯ク
ノ如キ熱心家ノ輩出シ得ヘシトモ思ハレサルヲ以テ差向キ先ツ會
社の組織ニ由ルノ外アラサルヘシト信ス而シテ若シ會社の組織ヲ
用フルトナレハ實際ハ兎モ角表面ニ現ハル、所ノ事況ハ成ルヘク
會社風ナラシメサルヲ主トシ社員即チ會社即チ一個人タル社
員ニシテ社員ト會社トハ其關係最モ親密ニシテ終始其運動ヲ一身
同體ナラシムルノ注意アルヲ要ス且ツ苟クモ社員トシテ加盟スル
所ノ者ハ獨リ金力ヲ以テ其事業ヲ助クルノミナラス自ら保護者タ
ル地位ニ立ツテ出獄人ヲ自家ニ引受クルノ義務ヲ負フコト必要ナ
リ少クモ社員中一部ハ人最モ此事業ニ熱心ナルヲ指定シ出獄人ニ
對スル直接ノ信友タリ又ハ相談相手タル者トシテ其保證人又ハ引
受人タル義務ヲ負ハシメ出獄人アルトキハ先ツ之ヲ己レニ引キ取
ルノ役目ヲ擔當セシムルコトヲ要ス之ヲ要スルニ會社即チ漠然タ

ル無形人トシテ一個人ニ對スルノ力ハ一個人トシテ一個人ニ對スルノ力ニ比スレハ其懇誼上ニ及ホス所頗フル深淺厚薄ノ區別ナキ能ハス況ンヤ出獄人ノ如キ頼ミ少ク而カモ疑心深キ者ニ對スルニ於テヲヤ感化上ニ於テモ亦タ會社ノ名ヲ以テスルト一個人ノ身ヲ以テスルトハ大ニ其効力ニ輕重ノ差アルヘキナリ

保護事業ノ範圍如何換言スレハ凡ソ何々ノ事項ニ向テ保護ヲ與フヘキカ曰ク之レニ衣食ヲ與ヘヨ曰ク之レニ居住ヲ與ヘヨ曰ク之レニ職業ヲ與ヘヨ曰ク之レニ生業ノ資本ヲ與ヘヨ曰ク生業ニ必要ナル器具材料ヲ貸付セヨ曰ク之レニ歸郷ノ旅費ヲ與ヘヨ曰ク之レニ信認ノ證券ヲ與ヘヨ曰ク其家族ヲ救恤其他相當ノ保護ヲ加ヘヨ曰ク其父兄ニ仲裁セヨ曰ク其郷黨ニ和解セヨ曰ク何曰ク何此ニ盡ク其事項ヲ列舉スルコト能ハサレトモ要スルニ出獄者トシテ良民的生活ノ本道ニ復歸セシムルニ必要ナルノ便利ハ成ルヘク多ク之ヲ與ヘサルヘカラス但シ之ヲ與フルニ當テハ成ルヘク金ヲ以テセス

シテ物ヲ以テセヨ物品ヲ以テセシテ成ルヘクカヲ以テセヨカヲ以テセシテ成ルヘク心ヲ以テセヨ心トハ何ソ仁慈是レナリカトハ何ソ職業是レナリ物品トハ何ソ衣食住是レナリ金ヲ與フルハ場合ハ最モ嚴シク之ヲ緊約セヨ

是等保護ノ事業一トシテ金ヲ要スルコトニアラサルハナシ故ニ之ヲ實行セント欲セハ先ツ相當ノ資金ヲ準備シ置カサルヘカラサルコト勿論ナリト雖モ然カモ時宜ニ依リ緩急ヲ斟酌シテ之ヲ施行スルニ於テハ事業ノ範圍ヲ伸縮スルコト固ヨリ隨意ニシテ從ツテ必ラスシモ多クノ資金ヲ準備セサルモ之レニ着手スルコトヲ得ヘキナリ即チ若シ保護會社ハ成ルヘク自ラ出獄者ヲ引キ受ケテ之レニ勞働ナリ又ハ職業ナリヲ與フヘキ者ヲ多ク網羅シテ社員トナシ若クハ專ラ職業勞働ノ紹介即チ口入ヲ爲スヲ主トシ止ムナクンハ備主ニ對シテ幾分ノ保證金ヲ出シ又ハ賃錢ノ幾分ヲ賠償(一人前腕前ナキ者ニテモ其生活ニ必要ナル丈ケノ賃錢ハ之ヲ與ヘサルヘカラ

ス而シテ之ヲ與フル者ハ其備主タルヲ要スルニ由リ備主ハ之レカ
爲メニ多少ノ損害ヲ蒙ムラサルヲ得ス故ニ保護會社ハ備主ニ對シ
私カニ此損害ヲ賠償シ被保護人ニハ之ヲ知ラシメサルナリ)スル等
差向キ保護ノ最モ急ナルモノ、ミニ止ムルノ方針ヲ以テ之レニ着
手スルトキハ左マテ多クノ資金ヲ作ルコトヲ必要トセサルヘシ各
府縣ニ於テ一會社ヲ設クルカ如キハ極メテ易々タルコトナルヘシ
ト信ス

之レニ居住ヲ與ヘヨトハ或ル一定ノ建物ヲ設ケテ之レニ寄食セシ
メヨト云フノ義ニハ非ラサルナリ所謂居住ヲ與ヘヨトハ下宿ナリ
借家ナリ普通生活ノ居住ニ必要ナル便利ヲ與ヘヨト云フノ義ナリ、
保護會社ノ附屬建物トシテ或ハ工場ヲ建テ或ハ寄宿場ヲ設クル
カ如キハ反ツテ最モ保護ノ事業ニ不適當ナルコト、云フヘク其弊
ヤ第二ノ監獄ヲ設クルニ同シク偶マ其ノ事業ノ結果ヲシテ保護會
社ハ監獄ヨリ出テ、監獄ヨリモ尙ホ監獄ナリトノ譏アルニ至ラシ

ムルヲ免レスコロ―チ氏曰ク、犯罪ノ傳播ヲ防遏スルカ爲メニ四人
ヲ別異セシムルコトハ監獄カ全力ヲ竭クシテ汲々タル所ナルニ非
スヤ然ルニ一朝出獄シタルノ故ヲ以テ直チニ之ヲ收養スルニ最モ
忌ムヘキ混同雜居ノ方法ヲ以テセントス予ノ苦心シテ養成シ得タ
ル所ノ赤子ヲシテ斯クノ如キ保護會社ニ托スルコト能ハスト當局
者宜シク反省スル所アリテ可ナリ

保護會社カ收養保護スヘキ所ノ出獄者ハ獨リ長期ノモノ、ミニ限
ルヘカラス短期四ト雖モ亦之レヲ收養スルコトヲ要ス否ナ短期四
ノゴトキモノコソ反ツテ大ニ保護ノ必要アルモノニシテ其効能モ
亦タ顯著ナルヘキナリ但シ其長期ナルモノト短期ナルモノトニ論
ナク保護スヘキモノハ先ツ之レヲ保護スルニ足ルヤ否ヤ且ツ能ク
保護ノ目的ヲ達スヘキ見込アルモノハナルヤ否ヤヲ精察シ十分取捨
撰擇スル所アルヲ要ス故ニ監獄ト保護會社トハ常ニ密接ナル聯絡
ヲ保チ且ツ會社ハ役員又ハ擔當者ハ平生監獄ニ出入シテ能ク各囚

ハ技能ナリ品行ナリ身分ナリ性質ナリ等ヲ勘査シ置クコト必要ナ
 リ保護會社ハ其信用スヘキ認メナキ者ヲハ保護スルカ如キコトア
 ル勿レ之ヲ他ニ紹介スルカ如キコトアルニ於テハ忽チ會社ノ信用
 ヲ害シ唯サヘ不快危虞ノ感情ニ支配セラレツ、アル所ノ社會ハ益
 々其感情ヲ強メ終ニ復タ會社ノ紹介ニ應スル者ナキニ至ルヘシ故
 ニ被保護人撰抜ノ事ハ此事業新創ノ今日ニ於テ殊ニ最モ慎重ノ注
 意ヲ要スヘキコトナリト謂フヘシ漫ニ其數ノ多カランコトヲ求ム
 ル勿レ先ツ社會ヲシテ此事業ニ對スル信用ヲ厚カラシムルコトヲ
 務メヨ云

經驗スル所ニ依リ殊ニ白耳曠ニ於テ失敗セシ事跡ニ徴シ之ヲ見ルニ
 出獄人保護ノ事業ハ決シテ政府ノ機關ヲ以テ之ヲ管理シ能ク其目的
 ヲ達シ得ヘキニアラス宜シク純粹ナル慈善事業トシテ之ヲ民間ノ有
 志ニ放任シ政府ハ唯タ之ヲ勸奨保護スルニ止ムルヲ以テ得策トナス
 モハ、如シ政府或ハ自ラ此事業ニ關係シ或ハ警察的ノ觀察監督ヲ加フ

ルカ如キハ決シテ其ノ宜シキヲ得タルモノニアラス(監視中ノ者ト雖
 凡保護會社ノ支配ニ屬スルノ間ハ假リニ監視ヲ免シ若クハ大ニ其制
 限ヲ寬恕スル所アルヲ要ス)巴丁司法大臣ノ訓令ニ曰ク出獄後倚賴ス
 ル所ナキ者ヲ收養シ之ヲ保護監督スルハ素ト慈善的公共ノ事業ニ屬
 ス若シ官司事業トシテ之ヲ行フトキハ終ニ其目的ヲ阻止スルニ至ル
 ヲ免カレス故ニ此事業ハ監獄其他ノ官署ニ於テ濫リニ之レニ干涉ス
 ルカ如キコトナク凡ヘテ民間有志者ノ計畫ニ一任スヘシ無賴ノ流民
 ヲ收養シテ社會犯罪ノ豫防ヲナシ社會ノ安固ヲ計ルハ實ニ民間有志
 者ノ慈善的本分ナリト謂フヘシ云々ト此事業ヲ以テ民間有志者ノ計
 營ニ一任スヘキコト固トヨリ其宜シキヲ得タルモノナリト雖凡殊ニ
 其未タ幼稚ナルノ間ハ政府モ亦タ成ルヘク權力勞力及ヒ金力ヲ以テ
 相當ニ之ヲ勸奨保護スルノ注意ナクンハアルヘカラス且ツ此事業ハ
 動モスレハ輒チ慈善的ノ範圍ヲ脱シテ職業的寧ロ投機的營利事業ニ
 陷ルハ弊アルヲ免カレサルヲ以テ當局者タルモノハ須ラクマタ慎重ハ

注意ヲ加フル所ナクハアルヘカラス、
 出獄人保護ノコトニ就テハ我カ政府亦タ夙ニ此ニ見ル所アリ二十二
 年七月改正監獄則發布ノ當時ニ於ケル内務大臣ノ訓令ニ曰ク
 今般勅令第九十三號發布ノ改正監獄則ニ於テハ舊則第三十條ノ規
 程ヲ廢セラレタリ然ルニ彼ノ刑餘頼ル所ナキ者ヲシテ其爲スニ一
 任スルトキハ遂ニ復タ罪ヲ犯スニ至ルノ恐レアリ依テ彼輩ヲ保護
 シテ自營ノ道ヲ得セシムルノ設計アルヲ要ス既ニ各地方ニモ往々
 其企アリト雖モ尙此際一層此ニ注意シ有志ノ慈善者ヲ獎勵シテ保
 護會社ヲ設立スルカ又ハ其他ノ方法ヲ立テ差向舊則第三十條ニ該
 當スル者ヲ措置シ漸次刑法附則第三十二條及同第四十七條ニ該當
 スル者ヲモ引取ラシメ夫々自營ノ道相立候様精々注意計畫セラル
 ヘシ云々

訓令發布後年所ヲ經ルコト此ニ殆ント五周歲然カモ尙ホ未タ一ノ完
 全ナル保護事業ノ組織實行セラル、モノアルヲ見ス

保護會社ノ事業ハ近來被保護人ヲ本國ノ所領地ナル未開墾ノ殖民地
 方ニ移住セシムルニ至リタルヨリ以來一層大ニ其規模ヲ擴張スルニ
 及ヘリ移住的保護ヲ加フヘキ所ノ者ハ(第一)未タ良心ヲ消滅スルニ至
 ラサル再犯以上ノ出獄者ニシテ其郷里ニ於テ生計ヲ營ムニ困難ノ事
 情アル者(第二)少壯有爲ノ出獄者ニシテ其犯罪ハ所謂少年血氣ノ餘勇
 ニ出テタル所ノモノナルモ歸郷以テ復タ親屬故舊ニ見ユルヲ憚ル等
 ノ事情アル者及(第三)官吏僧侶教師商賈等所謂世人ノ信用ヲ受クヘキ
 身分ニ於テ犯罪ヲナシタル者等ノ類即チ是レナリ斯クノ如キ者ハ即
 チ若シ之ヲ繋累ナキ新社會ノ地ニ轉住シ銳意以テ其新生活ヲ營マシ
 ムルヲ得ルニ至ラハ必ラス能ク保護事業ノ目的ヲ貫徹スルニ至ルヘ
 キナリ

保護會社ノ事業トシテ尙ホ一ノ特別ナル管掌ヲ要スル所ノモノアリ
 幼年出獄者保護ノコト即チ是レナリ幼年者ノ保護ハ放縱且ツ醜惡ナ
 ル教育ノ欠點ヲ矯正スルヲ以テ要務トスヘシ教育感化ハ適正ナル家

幼年者保護

族若クハ特ニ幼年者感化場トシテ設ケタル場所ニ於テ始メテ能ク其目的ヲ達スルヲ得ヘシ如何ナル場合ニ論ナク幼年者ト成年者トヲ同一ノ屋舎ハ勿論同一ノ組織同一ノ管理ノ下ニ之ヲ收養保護スルカ如キコトナキヲ要ス
フランゼーパツハ氏曾テ我國ニ適用セシムルノ目的ヲ以テ出獄人保護會社ノ規程ヲ草案セリ掲ケテ以テ讀者ノ參考ニ供ス

出獄人保護會社規則草案

出獄人保護會社規則草案

會社ノ目的

第一條 會社ノ目的ハ出獄人ニ對シ精神及身體上ノ保護殊ニ生業ヲ得ルノ道ヲ紹介シ其行狀ノ端正ヲ獎勵シ以テ良民社會ニ復歸スルコトヲ容易ナラシムルニ在リ

被保護人

第二條 會社ノ保護ヲ受クヘキ者ハ保護ヲ志願シ且保護ヲ與ルノ價直及之ヲ要スルノ必要アル男囚ニ限ル

被保護人ハ其恒ノ生業ヲ得ルカ又ハ確乎タル地位ヲ得テ真心改良スルカ或ハ他國ニ移住スルカ若クハ不都合ノ所爲アル迄ノ間ハ保護ヲ受ルヲ得ヘシ

放免囚ハ監獄本署ニ於テ刑ノ執行ヲ受タル者ト支署ニ於テ執行ヲ受タル者トニ論ナク凡テ會社ノ保護ヲ受クルヲ得ヘシ刑事被告人懲治人勞役囚ニシテ出獄シタル者モ亦之ニ準スルコトアルヘシ但幼年者ハ特別ノ方法ヲ以テ之ヲ保護スル者トス

社員及社友

第三條 支社ハ各區裁判所管内ニ之ヲ設ケ一定ノ社費(年金)ヲ拂ヒ若クハ保護者タルヲ承諾スルノ義務ヲ充ス所ノ者ヲ以テ社員トナス社員外ト雖モ職務上或ハ地位上會社ノ事業ニ利益ヲ與フル所ノ者ハ社友トシテ之ヲ待ツ可シ

役員會計及會議

第四條 各支社ニ役員ヲ置ク其數ハ適宜トス役員ハ會社ノ事務ヲ

專攝スルノ權利ヲ有ス役員ハ會社ノ事業ニ關シ會議ヲ召集シ又ハ之ニ協議ヲナシ若クハ之ニ報告ヲナスコトヲ得會議ハ社員ノ五分ノ一以上ノ請求ニ依テ之ヲ召集スルコトアルヘシ

支社ノ會計ハ各年度ノ初ニ於テ精算ヲナシ之ヲ中央管理部ニ報告スルモノトス會社ノ金庫ニ屬スル者左ノ如シ

第一 現在若クハ未來ニ得有スヘキ基本金及ヒ其利子社費及寄附金但シ此寄附金ハ保護ノ目的ニ適スル事業ニ就キ自由ニ之ヲ使用スルヲ得ヘシ

第二 給與工錢其他四人ニ屬スル貯蓄金但シ解放若クハ他ノ會社ニ移ス場合ニ於テ殘額アルハ之ヲ本人ニ交付スルカ或ハ市町村役場ニ轉送スルカ又ハ他ノ保護會社ニ送附スヘキ者トス

第三 中央金庫ヨリ交附セラレタル準備金但シ此金員ハ特ニ中央管理部ニ於テ指定シタル事業ニノミ費消スヘキ者トス

會社ノ保護事業

第五條 放免者ハ其住居セント欲スル地ノ會社ノ保護ヲ受ルヲ得ヘシ但シ其地若シ會社所在ノ地ニ非ルハ役員ハ此者ヲ其居住地ニ住居スル所ノ社員若クハ社友ニ寄托スルコトアルヘシ

社員若クハ社友ニ寄托スル場合ニ於テハ先ツ前以テ被保護人ノ品行、目的、職業等ヲ調査シ之ヲ報告スルヲ要ス受托者ハ之ニ由リテ被保護人到着ノ前ニ於テ豫メ相當ノ職業ヲ周旋シ置クモノトス

被保護人ハ直接ニ其放免地ニ寄托スヘシ故ニ被保護人ハ必要ナキ限ハ先ツ一旦會社所在地ニ至ルヲ要ス

第六條 他ノ府縣ニ在ル保護會社ニ移スコトハ中央管理部ノ指揮アルヲ要ス但シ中央管理部ハ必要アル場合ニ於テ之ヲ指揮ス

第七條 出獄後直ニ保護ヲ出願スル者ハ時宜ニ從ヒ之ヲ許可スルコトアルヘシ

保護事業ノ範圍

第八條 被保護人ノ保護ハ役員ヲシテ之ヲ引受ケ又ハ社員社友或ハ近親者ヲシテ保護人タラシムルコトアルヘシ保護人ハ時々會社ニ向ヒ其事業ノ成績ヲ報告スヘシ

一ノ保護人ヲシテ保護セシムル被保護人ノ數ハ相當ニ制限ヲ設ケ以テ其管督保護ニ不便ナカラシムルヲ要ス

被保護人ハ或ハ特ニ教育ヲ施スカ爲ニ之ヲ相當ノ家族又ハ感化院ニ送付スルコトアル可ク或ハ職業ヲ習熟セシムルカ爲ニ適當ナル技術家ノ下ニ送附スルコトアル可ク或ハ日傭工錢ヲ得セシムルカ爲ニ貧院養育院等ニ送付スルコトアル可ク或ハ就業證書ヲ交付シテ紹介スルコトアル可ク或ハ歸郷若クハ移住ヲ容易ナラシムルノ手當ヲナスコトアル可ク或ハ典物ヲ受ケ出サシムルコトアル可ク又ハ時宜ニ依リ必要ノ場合ニ於テ金錢ヲ交付スルコトアルヘシ

中央管理

第九條 支社ハ中央管理部ノ主管ニ屬ス中央管理部ハ一府縣内ノ會社ヲ總轄シ各支社ノ全般ニ關スル事項ヲ處理ス又管理部ニ於テハ現在基本金寄付金及ヒ其他ノ收入金ヲ以テ中央金庫ヲ組織ス

支社ハ年報ヲ作り毎年一月之ヲ中央管理部ニ呈出スヘシ中央管理部ニ於テハ毎年之ヲ編纂スヘキモノトス

救貧及ヒ教育事業

第二節 救貧及ヒ教育事業

犯罪ノ原因ハ多クハ貧困ト放縱トニ點ニ歸ス貧困ハ救貧組織ニ由ツテ幾分カ之ヲ濟治スルヲ得ヘク放縱ハ教育方法ニ依リテ多少之ヲ矯正スルヲ得ヘシ貧困ハ生活放縱ハ慣習ニシテ幾分カ之ヲ矯正濟治スルヲ得ルニ至テハ社會犯罪ノ行爲ハ著ルシク其件數ヲ減少スルニ至ルヘキナリ之ヲ既發ニ救フハ之ヲ未發ニ防クノ利ナルニ如カズ爲政家有識者タルモノ須ラク大ニ此ニ計營スル所ナクンハアルヘカラス

救貧組織ハ最モ懇切周到ナルヲ要ス然レモ之ヲ施行スルニ當ツテハ最モ慎重ノ注意ヲ加フル所ナカルヘカラス救貧法其宜シキヲ得ナルトキハ反ツテ犯罪者ヲ増殖ス宜シク時ト場合トヲ省察シ病者ハ直チニ之ヲ病院ニ送り孤兒ハ猶豫ナク之ヲ育兒院ニ致シ遊蕩無賴ノ貧民ハ嚴正ナル規律ヲ以テ組織シタル救貧授産場ニ之ヲ收養スル等要スルニ寛慢ニ流レス愛憐ニ失スルカ如キコトアルヘカラス其他或ハ生命財産等ノ保險法ヲ設ケ或ハ癡疾者老年者等ノ保護法ヲ行ヒ或ハ又家屋家財營業資本等特別貸附ノ方法ヲ實施スルカ如キ何レモ皆ナ救貧法ノ宜シキヲ得タルモノト謂フヘシ而シテ若シ適當ナル救貧法ヲ施行スルニ至ラハ一面ニハ又彼ノ寺院若クハ一個人カ濫リニ乞丐等ニ金穀ヲ惠與スルノ慣習ヲ除却スルニ至ラシムルコト必要ナリ畢竟今日ニ於テ到ル所乞丐浮浪ノ徒ノ徘徊スルヲ見ル所以ノモノ職トシテ之レニ金穀ヲ惠與スル者アルニ由ラズンバアラス濫與ハ則チ乞丐ヲ作り乞丐ヲ作ルハ則チ犯罪者ヲ養成スルモノト毫モ異ナラス

教育ト稱スル者必スシモ學校ニ於テスルモノ、ミニアラス家庭組合職工所等ニ於テモ亦タ相當ノ教育ヲ施シ家長社長若クハ所長之レカ司宰者トナツテ其子弟職工ヲ薰陶シ之レニ德育ヲ授ケ智育ヲ與ヘ紀律秩序及ヒ清潔等要スルニ之レヲシテ良民的生活ニ必要ナル慣習ニ馴致セシムル所アルヲ要ス克己制欲ノ念ヲ固カラシメ知足安分ノ旨ヲ悟ラシムルコトハ宗教感化ノ力ニ如クモノナシ宗教及育ノ事一日モ之ヲ忽諸ニ付スヘカラサルナリ

警察

第三節 警察

警察制度ハ良否ハ犯罪ノ増減ニ關係アルコト最モ少カラス蓋シ犯罪者ノ多クハ猶ホ彼ノ相場師ノ如ク獨リ利得アルヲ知ツテ損失アルヲ知ラス偶々之ヲ知ル者アルモ結局比較的利スル所多クシテ失フ所少キヲ確認ス是レ即チ社會遂ニ犯罪ノ絶滅ヲ見ル能ハサル所以ニシテ若シ彼レ犯罪者ヲシテ一行一動犯罪ノアル所忽チ責罰ノ必到ヲ免カレサルヲ認識スルニ至ラシメハ犯罪ノ絶滅少クモ之レガ減少ヲ見ル

ニ至ルヘキコト期シテ俟ツベキナリ、是レ即チ警察機關ノ職任ニシテ其組織及ヒ運用ノ完整敏活ナルヲ得ルニ至テハ是ニ於テ乎始メテ大ニ犯罪防制ノ効果ヲ見ルヲ得ヘシ

監獄構造法

總論

第五章 監獄構造法

第一節 總論

若シ夫レ監獄ノ目的ニシテ唯ダ罪囚ヲ繫禁若クハ懲苦スルノ一事ニアラシメハ之レカ構造ノ如キモ敢テ深ク(殆ンド全ク)其方法ヲ探求スルノ必要アラサルナリ中世以前ニアツテハ凡ヘテ繫禁及ヒ懲苦ヲ以テ監獄唯一ノ目的トセリ、繫禁ハ堅牢ヲ要シ懲苦ハ其堅牢ヲシテ狹隘暗黒成ルヘク其精神身體ヲ窘迫スルコトノ辛酷ナランコトヲ望ム、是ヲ以テ往時ニ在ツテハ曾テ監獄構造法ノ談アルナク廳舎伽藍船艦堂宇城塞倉庫等苟クモ繫禁懲苦ノ目的ヲ達スルモノハ便宜スヘテ之ヲ利用セサルハナク甚シキハ或ハ地窖獸檻等ヲ以テ之ニ代用セリ斯クテ十八世紀以降獄制改良ノ論漸ク起リ監獄ハ獨リ嚴重ナル取締ニ因

數種ノ構造法及其利害

ツテ罪囚ノ自由ヲ管束スルノミナラス、別異以テ罪惡傳播ノ弊ヲ防ギ規律、役業、教誨等以テ遷善悔悟ノ道ヲ施シ衣食居住亦タ以テ其健康ヲ保全セシムルノ設備ナカルヘカラサルノ理、闡明セラル、ニ及ヒ此ニ始メテ監獄構造法ヲ講究スルノ必要ヲ見ルニ至リ到ル所、監獄新築ノ工事ヲ起スニ當ツテ先ツ種々ノ新案顯出セサルハナク殆ンド當局者ヲシテ採擇ニ苦シマシムルノ狀況アルヲ致セリ

監獄構造法ノ形狀ニ數種アリ或ハ十字形ト稱シ或ハ扇面形ト稱シ或ハ長延形、花狀形、八角形、馬蹄形、H字形、星光形、圓輪形、正角形、方狀形、算木形等ト稱スルモノ即チ是レナリ而シテ諸形各々其固有スル所ノ利害アリ取締ニ可ナルモノハ即チ視察ノ便ヲ欠キ視察ニ便ナルモノ動モスレハ即チ衛生ニ不可ナルアリ或ハ衛生ニ適スルモ經濟上ニ失アルヲ免カレス經濟ニ可ナルモノ多クハ即チ規律ノ上ニ欠點アリ其各種類ノ利害ヲ詳述スルカ如キハ今姑ク之ヲ省略スルモ近時專ラ適當ナル建築法トシテ稱用スル所ノモノハ十字形、扇面形及星狀形ノ三種

拘禁制ト構造ノ關係

ニシテ其他ノモノハ殆ンドマダ之ヲ顧ザルニ至リタルモノ、如シ
 監獄ハ大要先ツ其採ル所ノ拘禁制ニ適スル方法ニ於テ之ヲ構造セサ
 ルヘカラス分房制ニ適スルモノハ即チ雜居制ニ適セス雜居制ニ適ス
 ルモノヲ以テ之ヲ折衷若クハ階級制ニ應用スヘカラス故ニ監獄ヲ構
 造セント欲セハ先ツ第一ニ其監獄ハ如何ナル拘禁制即チ晝夜分房ノ
 制ヲ採ルカ絶体的雜居制ヲ採ルカ將タ折衷即チ晝間雜居、夜間分房ノ
 制ヲ採ルカ若クハ階級制即チ一部ハ晝夜分房ヲ用ヒ一部ハ夜間分房
 ヲ行ヒ一部ハ晝夜雜居ニ處スルノ方法ヲ採用スルカヲ研究セサルヘ
 カラス

構造法ト經濟上ノ關係

良品ハ高價ナリ分房制ハ即チ監獄ノ目的ヲ達スルニ最モ適當ナル良
 法ニシテ若シ其效用ノ著ルシキ所ヲ以テ之ヲ他ノ拘禁制ニ比較セン
 カ分房制ハ恰カモ汽車ノ如ク折衷若クハ階級制ハ猶ホ馬車ノ如ク雜
 居制ニ至ツテハ即チ辻駕籠ノ用ヲモ爲ス能ハスト謂フヲ得ヘシ辻駕
 籠ノ價ヲ以テ馬車ヲ求ムヘカラス馬車ノ價ヲ以テ汽車ヲ得ント欲ス

ルノ至難ナルハ固トヨリ言フヲ俟タス然レトモ俚諺ニ之レアリ曰ク
 廉ナル物用ヲ成サス又曰ク一錢ヲ吝ンテ百錢ヲ失フ殊ニ監獄改良家
 ノ泰斗ホワルド氏曰ク”犯罪ノ國家及ヒ社會ニ損害ヲ與フルヤ實ニ大
 ナリ然レドモ若シ果シテ犯罪及ヒ犯罪者ヲ減少セシムルヲ得ルトモ
 ハ一時多額ノ資ヲ捐テ、完全ナル行刑法ヲ執行スルコソ反ツテ彼ノ
 不完全ナル行刑法ノ下ニ犯罪ヲ養成シ犯罪者ヲ増加スルモノニ比シ
 テ遙カニ經濟節約ノ旨義ニ適スルモノナリト謂ハサルヲ得スト”苟ク
 モ眞個ニ獄制改良ノ事業ニ熱注シ完全ニ監獄終局ノ目的ヲ貫徹セシ
 メントナラハ宜シク國家百年ノ長計ノ爲メニ完全ナル行刑法即チ分
 房制ヲ執行スルニ適當ナル監獄ヲ構造スルノ決心ナカル可ラス一時、
 割合ニ幾分カ多額ノ資ヲ捐ツルカ如キハ固トヨリ毫モ顧慮スル所ニ
 アラサルナリ歐米諸國亦タ此ニ見ル所アリ一面ニハ分房制ヲ實行セ
 ント欲スルノ熱心益々強ク一面ニハ成ルヘク多費ヲ要セスシテ之レ
 カ施行ニ適スルノ構造法ヲ求メント欲スルノ工夫愈々密ニ其結果終

ニ曾テ豫想シ且ツ實驗シタルカ如ク驚クヘキ巨額ノ經費ヲ要セスシテ完全ナル分房制施行ノ監獄ヲ構造シ得ヘキ方法ヲ案出スルニ至レリ然レモ要スルニ分房制ハ他ノ拘禁制ニ比シ尙ホ幾分カ多額ノ建築費ヲ要スルハ固トヨリ免カレサル自然ノ數ナリト謂フヘシモ尤唯ガ一概ニ分房制ハ多額ノ建築費ヲ要スルカ故ニ不得策ナリトハ謂フベカラズ實驗スル所建築費ノ多少ハ必スシモ拘禁制ノ如何ニ拘ハラサルモ比シテ割合ニ多額ノ建築費ヲ要シタル事例少カラズ

雜居制ノ不可ナル固トヨリ論ヲ俟タス若シ國家經濟上到底止ムナクンハ則チ折衷若クハ階級制ヲ採用シ之レニ據ツテ監獄ノ構造ヲ設計スルコト亦止ムヲ得サルナリ幾分カマタ廉價ヲ以テ比較的稍々完全ナル行刑ノ目的ヲ貫徹スルヲ得ヘシ唯タ憾ムラクハ分房制ニ就テハ既ニ其構造法ノ一定シタルモノアリト雖モ折衷若クハ階級制ニ就テハ未タ一定ノ準則ノ據ルヘキモノアラサルヲ蓋シ歐洲一般ノ歸嚮、既ニ分房制ヲ採用スルニアルカ故ニ他ノ拘禁制ニ適スル監獄構造法ニ就テハ之ヲ研究スルコト甚タ冷淡ニシテ今日ニ於テハ殆ント之ヲ

ラチホール監獄

プレッツェン
ゼー監獄

捨テ、顧ミサルカ如キニ至リタルヲ以テナリ

普國ラチホールニ於テ千八百四十五年乃至五十一年ニ建造シタル監獄ハ則チ階級制ヲ施行スルニ適應セシムルヲ以テ目的トシタル者ニシテ其制ニ依レハ分房翼分房ヲ三棟トシ房數三百八十、各房ノ廣サ十二、二立方メートル、二棟ノ管理翼ヲ以テ之レニ接續セシメ管理翼ハ講堂ニ充テ階下管理翼ノ前端尙ホ平行線ニ二棟ノ寢房翼ヲ三階ニ設キ事務所トナシ管理翼ノ一端ヲ連結セシム場ヲ設ク其數總テ六ヶ所アリ建築費ヲ要スルモノ凡ソ百八十萬馬克凡我八十二萬若シ之レヲ拘禁人員五百二十四人ニ算當スルハ一四ニ就キ凡ソ三千四百卅五馬克凡我五百四十ヲ要シタルノ割合ナリ(第一圖)此他レンツアルヒ及ヒ伯林ノプレッツェンゼーニ於テ建築シタルモノ亦タ階級制ニ準據シタルモノニシテ殊ニ其プレッツェンゼーニ於ケルモノハ大ニ模範トスルニ足ルモノアルヲ以テ特ニ其圖案ヲ掲ケテ之ヲ示ス(第二圖)プレッツェンゼー

四千三百九十人ノ豫算ニシテ其建築費ハ總計六百二十八萬七千馬克即チ之

一四三就キ四千五百二十馬克(凡我千八百三十四圓餘)ノ多キヲ要セリ之

ヲ要スルニ分房制ト雜居制トハ全ク其管理法ヲ異ニスルモノナルカ故ニ之ヲ交互折衷スル所ノモノ即チ階級制ニアツテハ少クモ先ツ分房監ト雜居監トハ切然其翼合ヲ劃別シ全ク殊別ノ管理ヲ執行スルニ適セシムルノ設備アルコト必要ナリブレツツエンゼー監獄ニ在ツテハ殊ニ深ク此點ニ注意スル所アリシモノ、如シ

第二節 監獄構造ニ關スル一般ノ原則

是レヨリ以下監獄ノ構造ニ關シ一般ニ最モ着目スヘキ重要ノ原則ヲ列舉シテ之ヲ敷演スヘシ尤モ其多クハ重モニ分房制監獄ノ構造ニ適セシムルヲ目的トシタルモノナリト雖モ移シテ以テ雜居制若クハ階級折衷制ノ監獄ニ適用セシムルニ足ルモノ亦タ固トヨリ少カラサルナリ

監獄ニ於テハ男女ニ依リ峻嚴ニ之レカ區別ヲ立テ全然其規模ヲ別異スルヲ要ス男監ハ二百人以上五百人以下ヲ其拘禁囚員ノ限度トスヘシ是レ蓋シ個人的遇囚ノ旨義ヲ貫徹スルノ必要ニ出ツルモノニシテ

監獄構造ニ關スル一般ノ原則

拘禁人員ノ定

多數ニ失スルトキハ典獄其他ノ監獄官吏ニ於テ到底各囚人ノ個人的關係ヲ詳悉シテ之レニ適應スルノ處遇ヲ爲ス能ハス又少數ニ失スルトキハ建築費及ヒ管理費ヲ支出スル上ニ於テ非常ニ不經濟ナルヲ免カレサルヲ以テナリ監獄ト雖モ管理上必要ノ機關即チ學校炊所等ヘカラス而シテ是等ニ關スルノ費用ハ通例監獄建築費ノ四割ヲ占メ其費額ニ於テハ即チ大監獄ニ於ケルモノト格別ノ差額了ラサルナリ女監ハ百人ヲ以テ其拘禁囚員ノ限度トスヘシ此限度ヲ超ユルトキハ女性ノ吏員ヲシテ之レカ直接ノ管理ニ任セシムルコト甚タ困難ナラサルヲ得ス拘置監ハ地方ノ必要ニ依リ豫メ一定ノノ限度ヲ立ツルコト能ハスト雖モ是レ亦タ成ルヘク五百四ヲ超過セシメサルノ注意アルヲ要ス

監獄ノ位置

監獄建設ノ位置ハ大市街ノ中央ヲ避クヘキハ勿論其將來ノ擴充區内及ヒ盛大ナル工業地近接ノ地方モ亦タ之レニ適セス其最モ之レニ適スルモノハ鐵道ニ沿フ所ノ町村ニシテ成ルヘク停車場近接距離凡ソ一キロメートル凡我二ノ地方トス尤モ大都會地ニ要スル所ノ監獄ハ其附近ノ内外ナルヲ要ス頻繁ナル交通ニ便スルカ爲メニ最近

第一篇 第五章 第二節 監獄構造ニ關スル一般ノ原則

教誨堂

リナ書籍室、會議所又ハ食堂トシ使丁詰所兼用ス。等ハ階下ニ設ケ尙ホ地下層ニ於テハ物置、浴室、新入領置庫、新入室、放免室、領置庫、懲罰室等ヲ設備スルヲ可トス。事務所ノ廊下ハ幅三メートルトシ其床ハ堅石若クハ地氈ヲ以テ疊ミ所内ノ牀ハ木板ヲ張ルヘシ。教誨堂(第五圖)ハ分房制ニアツテハ一四毎ニ坐席(函狀ニ仕切)ヲ設ケ四人ヲシテ演壇及ヒ此ニ坐スル所ノ教誨師ノ外前後左右堅ク相接シ相見ルコトヲ得ザラシム。教誨堂ハ兼テ之ヲ就學室(學校)ニ用フルヲ便トス。

炊所、浴室、倉庫等

炊所及洗濯所ノ構造

經理用諸建造物(炊所、浴室、倉庫、洗濯所、蒸室等)ノ類ハ牆壁ヲ以テ區處シタル特別構内ニ之ヲ設ケ其牆壁ト周壁ノ間ニハ相當ノ距離(凡五)ヲ存シ以テ視線ヲ遮ギリ巡回線路ヲ害スルカ如キコトナカラシムルヲ要ス。經理構内ハ病監ニ近接スルヲ避ケ且ツ此ニ出入スル所ノモノハ凡ヘテ他ノ部分ヲ經過スルコトナカラシムヘシ。炊所及洗濯所ノ高サハ四メートルヲ超過スヘカラス天井ハ鐵柱ヲ以

浴室ノ構造

テ支ヘ穹窿ニ建造スヘシ土床ハ透明ニシテ幾分カ滑カナル堅キ匾石ヲ敷設シ水ノ漏泄ヲ防クヘシ用水ハスヘテ容易且ツ急速ニ放流セシムルノ裝置ヲ設ケ洗濯所ニハ簡便適當ナル乾燥器械ヲ具備スヘシ。浴室ハ監房翼若クハ其地下層内ニ設クヘカラス宜シク監房ヨリ容易ニ達シ得ラルヘキ附屬建物ノ内ニ之ヲ建設スルヲ要ス。浴室ニハ混浴ニ供スル相當ノ大サアル槽桶ヲ備フルノ外尙ホ少キ水量ト短キ時間ヲ以テ多數ノ人員ヲ沐浴セシムルノ便利アル灌注浴ノ裝置アルヲ可トス。不潔ノ役業ニ從事スル者ヲシテ頻々入浴セシムルノ必要ナルハトス。論ヲ俟タス其他ノ者ト雖モ一般ニ少クモ平均一週一回ハ入浴セシムルヲ要ス。

灌注浴ノ裝置

(灌注浴ノ裝置)地盤高キ所ニ水槽ヲ備ヘ槽ヨリ二條ノ管ヲ焚爐ニ通シ管端ノ螺旋ニ由テ槽水ヲ煮沸セシム。至三十五度ハ二十五度乃第三管ハ水槽ヨリ浴室ノ各部ニ通シ各部ニ設ケアル所ノ嘴狀形ノ管口ヨリ温湯ヲ灌注ス。灌注ノ時間ハ三分乃至四分ヲ以テ全身ヲ沐浴セシムルニ十分ナリ水量ハ毎回六十リヲ要シ石炭費消ノ高ハ二百

病監

二十回ニ付キ凡ソ百五十^一キログラム^二我ニ百六十八^三ハ凡ソ以テ足レ
 リトス浴室ハ油引ノ綿布ヲ覆フテ區劃スヘシ
 病監第六圖ハ監房事務所等ト離隔シタル位置ニ於テ成ルヘク牆壁ヲ
 以テ區處シタル別構内ニ設クルヲ可トス、病監ノ規模ハ凡ソ在監人員
 ノ百分ノ五乃至百分ノ八ニ該當スル人員(病囚)ヲ容ル、ニ足ルヲ程度
 トシ雜居室ノ外、尙ホ相當必要ノ獨居室ヲ設置スヘシ獨居室ハ四十立
 方^一メーテル、雜居室ハ一四ニ就キ二十五立方^二メーテル以上ノ空氣ノ容
 量アル廣サナルヲ要シ窓戶ノ如キハ檢束ニ差支ヘナキ限リハスベテ
 成ルベク衛生ニ適セシムルノ工夫ナカルヘカラス、病監ニハ病室ノ外
 尙ホ醫務所、藥局、看守所、浴室、廁圍^一消毒^二鐵等ヲ以テ常ニ十分^三洗濯室^四簡易
 燥器^五ヲ備^六及ヒ二三ノ癡狂室ヲ設備シ前面ノ空地ハ庭園ノ營造トシ患
 者ヲシテ屋外運動ヲ爲サシムルノ用ニ供ス其他屍室ハ構内片隅ノ地
 ニ之ヲ設クルヲ要ス

監獄ニ於ケル
勞働力

監獄ニ於テハ經理用ト工業用トニ論ナク渾ヘテ蒸氣機關ノ裝置ヲ避

用水供給

クルヲ要ス、蓋シ監獄ニ於テハ廉價ナル勞力ノ餘レルモノアルヲ以テ
 之ヲ利用セハ能ク彼ノ蒸氣力ノ作用ニ代價セシムルヲ得ヘシ
 用水ハ地盤高キ所ニ設置シタル貯水槽ヨリ手力ノ使用ニ依ル唧筒ヲ
 以テ之ヲ各必要ノ場所ニ供給スルノ方法ヲ採ルヘシ水槽ハ凡ソ常ニ
 一萬リ^一テトルノ水量ヲ保ツニ足ルノ容積アルヲ要ス^二非常等ノ場合ニ
 水^三量ヲ保タルニ足ル^四ヘシ^五防火栓ハ相當ノ場所ニ數個所之ヲ設置スヘシ
 排泄物ハ氣密ニ閉蓋セル鐵函車ノ内ニ之ヲ集メ毎日監獄構外ニ之ヲ
 輸送スヘシ汚水ハ常ニ敏活之ヲ外部ニ疏通シ去ラシムルヲ要ス
 點燈上、最モ便利ナルモノヲ瓦斯トナス唯タ瓦斯ハ費用ヲ要スルコト
 少カラス燈火、動搖シ空氣ヲ不潔ナラシムルコト亦タ其欠點タリ油燈
 亦タ惡臭ヲ放チ眼力ヲ害シ且ツ危險ノ虞アル等ノ欠點少カラス唯タ
 經費ノ上ニ於テ節減ヲ得ルコト其長所タリ現今ニ在テハ一般ニ瓦斯
 ヲ稱用スルモノ多シト雖モ油燈亦タ其取扱上ニ慎重ノ注意ヲ施スト
 キハ一概ニ之ヲ排斥スヘキニアラス但油燈ナルトキハ火止石炭油ヲ

汚物排泄

點燈

採温

用フルヲ可トス近時マタ往々電氣燈ヲ用フルモノアリト雖モ多費ヲ要スルカ爲メニ未ダ其擴張ヲ見ルニ至ラサルモノ、如シ
監房ニ於テ若シ冬期暖室ノ必要アリトナラハ宜シク中央集熱法ヲ採用スヘシ病室工場事務所等ニ於テハ局所暖室法ヲ適當トスハ中央火爐ニ設置スヘシ

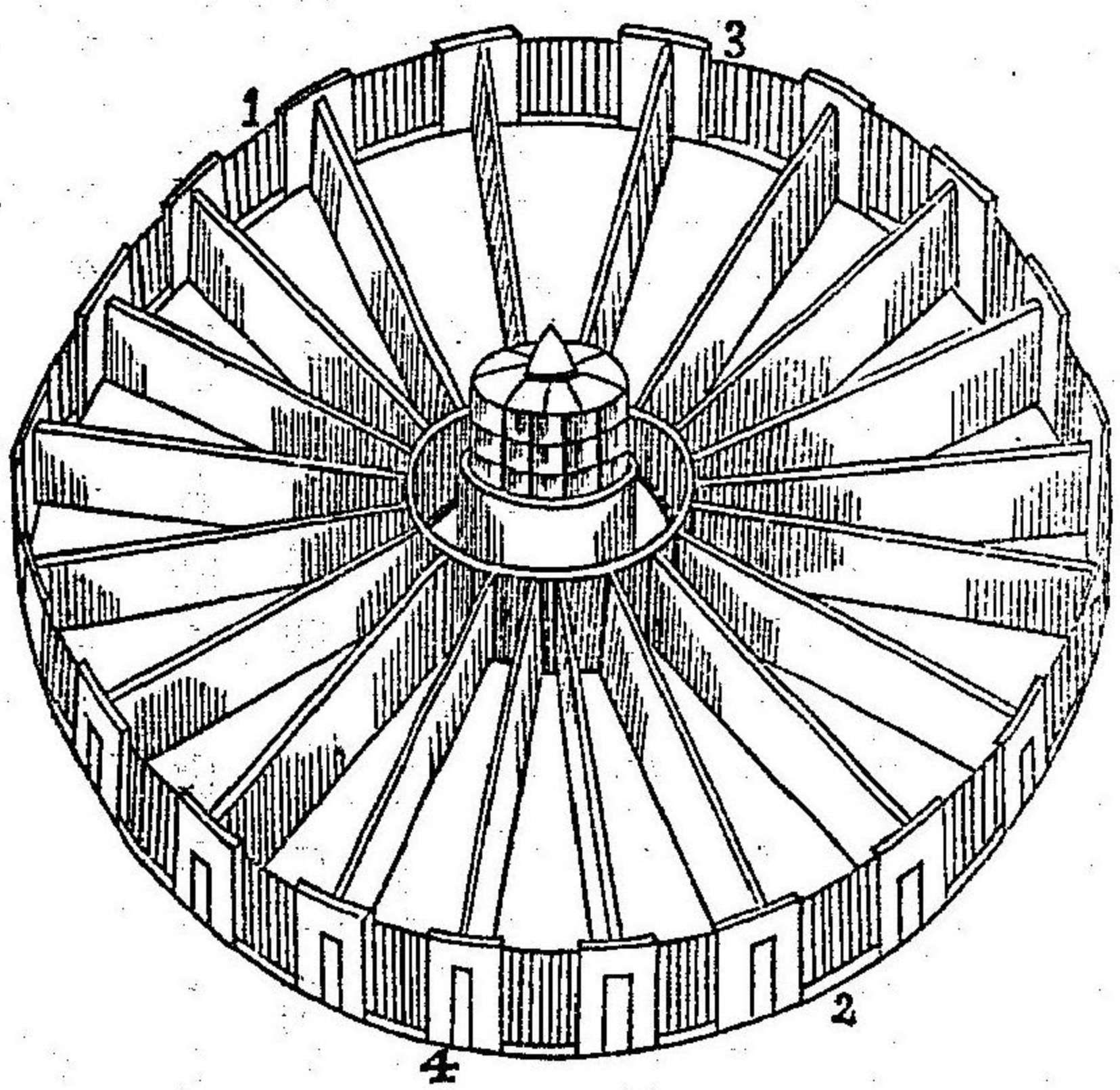
分房制大監獄ノ構造法

第三節 分房制大監獄ノ構造

分房制大監獄ノ建造物ハ一ノ中央集熱點ヨリ其母屋内部ノ全体及ヒ附屬營造物ノ設置シタル周壁圍内ノ外景ヲモ通觀シ得ヘキ方法ニ排列スルノ注意アルヲ要ス(第三圖第四圖第五圖)中央集熱點ハ即チ中央看守所ニシテ監房及ヒ事務所ノ翼舍ハ扇面狀若クハ十字形ヲ成シテ此ニ接合シ經理及ヒ病監構内モ亦タ此位置ヨリ視察ニ便ナラシムル様其建物ヲ配置スヘシ十字形ハ三翼ヲ以テ監房トシ一翼ヲ以テ事務所トシトナスカ故ニ之ヲ扇面形(四翼ヲ以テ監房トシ一翼ヲ以テ事務所トナス)ニ比スレハ能ク空氣及ヒ光線ヲ通シ且ツ各翼ノ間隔絶シタル距

離アルヲ以テ容易ニ四人相互ノ交通ヲ遮斷スルヲ得ルノ利便ヲ有ス
若シ其監房ハ二翼アルヲ以テ十分トナス場合ニ於テ空氣及ヒ光線ヲシテ各翼均一ニ享受スルヲ得セシメンガ爲メニハ事務所ノ翼舍ハ宜シク南東ヨリ北西ノ方位ニ向ケテ建設スルヲ要ス病監ハ入口ヨリ左側ニ當ル所ノ構内ニシテ其前面ヲ南東ニ向ケ成ルヘク多ク光線ヲ享有セシムルノ構造ニシ經理用建物(炊所洗濯所等)ハ右側ニ區處シタル構内ニ之ヲ設ケ其前面ハ南西ノ方位ニ向ケシムヘシ經理構内ニハ工業又ハ用度ニ關スル物品ノ倉庫ヲ附設スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ倉庫ハ相當ノ距離ヲ以テ周壁ト並行セシメ其間ニ直平ノ視察線路ヲ造成スルノ注意アルコト必要ナリ運動場ハ各翼ノ間ニ於ケル其他ノ空地ニ簡單ナル楕圓形ノ回廊ヲ造ツテ之レニ供シ四人ヲシテ五歩ノ距離ヲ以テ相前後シテ此ニ運動セシムヘシ
嚴重ナル分房制ヲ施行スルニ別其的運動場ヲ設ケ一四毎ニ運動セシム其構造ノ圖式左ノ如シ

運動場
中央ノ塔ハ看守見張所
(1)(2)廊下(3)(4)入口



中央看守所ハ地平層ヨリ屋根ニ至ル迄開放シテ構造シ尙ホ隅角ニ大窓ヲ穿テ以テ日光ノ照射空氣ノ交換ヲ充分ナラシムヘシ技術上ノ裝飾ヲ慮リ塔字形若クハ圓字形ニ中央看守所ヲ造築スルハ無用ナリ唯

監房廊下及各翼ノ構造

ダ翼舎トノ權衡ヲ量リ簡單ニ其廊下ト同一ノ高サニ構造スルヲ以テ足レリトスヘシ中央看守所モ亦少廊下ト同ジク空氣ノ貯藏所タルヲナシ徒ラニ新鮮ナル空氣ノ流通ヲ阻翼舎ノ回廊ハ中央看守所ノ壁ニ沿フテ其外部ヲ圍繞シ尙ホ管理翼舎ノ壁ニ沿ヒ第二階ノ回廊ヨリ中央看守所ノ中央ニ向テ視察臺ヲ突出セシメ以テ看守長ヲシテ常ニ此ニ在ツテ戒護事務ヲ視察セシム翼舎ノ湊合スル所ノ隅角ニハ二個ノ一階造設ケス下層ヲノ場所ヲ設ケ其一ヶ所ヲ浴室トシ他ノ一ヶ所ヲ被服類領置所若クハ共同就役場ニ供スヘシ中央看守所ノ地下層ニ於テハ中央集熱法ニ用フル所ノ火爐ヲ設置スヘシ地下層ハ天井ヲ弓形トナシ床ハ地上ノ第一階ト均シク地氈青ヲ以テ固ク之ヲ敷設スルコトヲ要ス又中央看守所ノ地平層ニ階梯ヲ設ケ以テ各翼舎ノ地下層ニ通セシムヘシ

監房翼ニハ中間ニ四メートル乃至四メートル半ノ廊下ヲ設ケ其兩側ヲ以テ監房トナス廊下ハ地下層ノ基底ヨリ屋上層ニ至ル迄盡クバノ

ブチツツシ即チ打チ通フシトナスノ構造トス。地下層ヲ設クモ亦タ是ヲ以テ地下層ノ基底ハ地下七十五センチメートルヨリ深カラサルヲ要シ建築ノ位置ハ最モ乾燥質ノ地勢ニシテ地水ハ基底以下少クモ五十センチメートルニ至リテ始メテ湧出スルノ土地ヲ撰定スルコト必要ナリ。二階以上ノ上層ニハ監房ノ前部ニ幅〇九〇メートルノ回廊(第七圖)ヲ設ケ高サ一メートルノ鉄欄干ヲ以テ之レニ附ス。此回廊ニハ監房翼ノ地下層及ヒ中央看守所ノ地平層ヨリ直線ニ階梯(第八圖)ヲ以テ之レニ通ス。各層ノ片側ニ設クル所ノ監房ノ數ハ十八房以上二十二房以下トナシ。每層其中央看守所ニ接近シタル一房ヲ看守室トシ。翼端ノ一房ヲ洗濯室ニ供充スヘシ。總ヘテノ廊下及ヒ地下層ニ於ケル監房ノ床ハ下地ニ煉瓦ヲ疊ミ其上ニ「アスハルト」又ハ硬質ノ礮石ヲ敷クヘク。其他ノ監房ノ床ハ氣候及ヒ價格ノ關係ニ依リ木材「アスハルト」又ハ堅牢ナル鋪石ノ内其何レヲ撰用スルモ可ナリ。回廊ハ鉄柱ヲ以テ支ヘタル穹窿ノ平面ニ木材ナリ。礮石ナリ。將タ「アスハルト」ナリ。便宜之ヲ敷設スヘシ。

監房ノ構造
分房ノ構造
晝夜分房監

シ。地平層ニ於ケル監房翼ノ尾端ヨリ庭園ニ通スル口ニハ二重ノ戸扉ヲ設ケ一ハ鉄製ノ格子戸トシ一ハ板戸トシテ密閉ス。監房翼ノ屋根(第九圖)ハ火災ノ危険ヲ慮リ成ルヘク木造ノ結構ヲ避クルヲ要ス。シウス「テルウエーグ」兩氏ノ考案ニ係ルモノハ全ク木材ヲ用ヒザルノ趣向ニシテ即チ最上層監房ノ穹窿ハ廊下ノ壁ヨリ外部ノ壁ノ方ニ傾キテ屈曲シ「ホルツセメント」ヲ以テ屋背ヲ被覆シ前ニ亞鉛製ノ樋ヲ設ク。廊下ノ兩側ノ壁ハ兩側ノ屋背ヨリ「メーテル」餘之ヲ高クシ其上ニ穹窿ノ構造ヲ設ケ柱ヲ以テ之ヲ支ヘ同シク「ホルツセメント」ヲ以テ屋背ヲ覆ヒ又亞鉛製ノ樋ヲ設クルモノ是レナリ。

第四節 監房ノ構造

分房(第十圖)ハ晝夜分房及夜間分房。休憩室ニ充ツ中ノノ二種ニ分テ其廣サニ於テ著シク區別スル所アリ。分房制施行ノ幾分ノ四徒ハ晝間混同作業ニ從事セシムルハ此便法ヲ採ラシト例、惣員ニ對スル見做ス。即チ晝夜分房ニアツテハ四人ヲシテ就業衣食スベテ絶ヘズ。此ニ起臥セシムルコト。

夜間分房監

トナルガ故ニ其廣サモ亦タ之ニ應シ凡ソ長三八メートル幅二二メートル高三メートルニシテ地積八三平方メートル空氣ノ容量ハ少クモ二十五立方メートルアルヲ要ス但短期四月以内ヲ拘禁スル所ノ分房ニアツテハ空氣ノ容量凡ソ十六立方メートルアルヲ以テ十分トシ監獄則草案ニ依レハ短期四月ノ分房地積モ亦タ之レニ準シテ限縮スルヲ得ヘシ夜間分房ニ於ケル空氣ノ容量ハ十五立方メートルニテ十分トシテ設アリヲ以テ足レリトスヘク房戸ノ幅ハ六十センチメートル以下タルヘシ房壁ハ作業等ノ際ニ於テ衝突毀傷ノ虞ナカラシメ且ツ清潔ニ拂拭スルノ便ヲ得セシメンカ爲メニ其下部凡ソ高サ二メートルマデニセメント煉石灰ヲ塗り尙灰色ノ染油ヲ布抹スルヲ要ス毎年之代分房ニハ成ルヘク簡單ナル信號裝置ヲ備ヘ四人ヲシテ用ヲ受持看守ニ通スルノ便ヲ得セシムヘシ信號電機ヲ備フヘシトノ説アレモ樓又ハ旅店等ノ裝置ニ勞弊シ難キニシテ上窓第十三圖ハ一平方メートルノ大サトシ高サ二メートルノ位置ニ之ヲ設ケ其下半部ハ密閉シツヤ酒

信號器

扉窓

扉扉

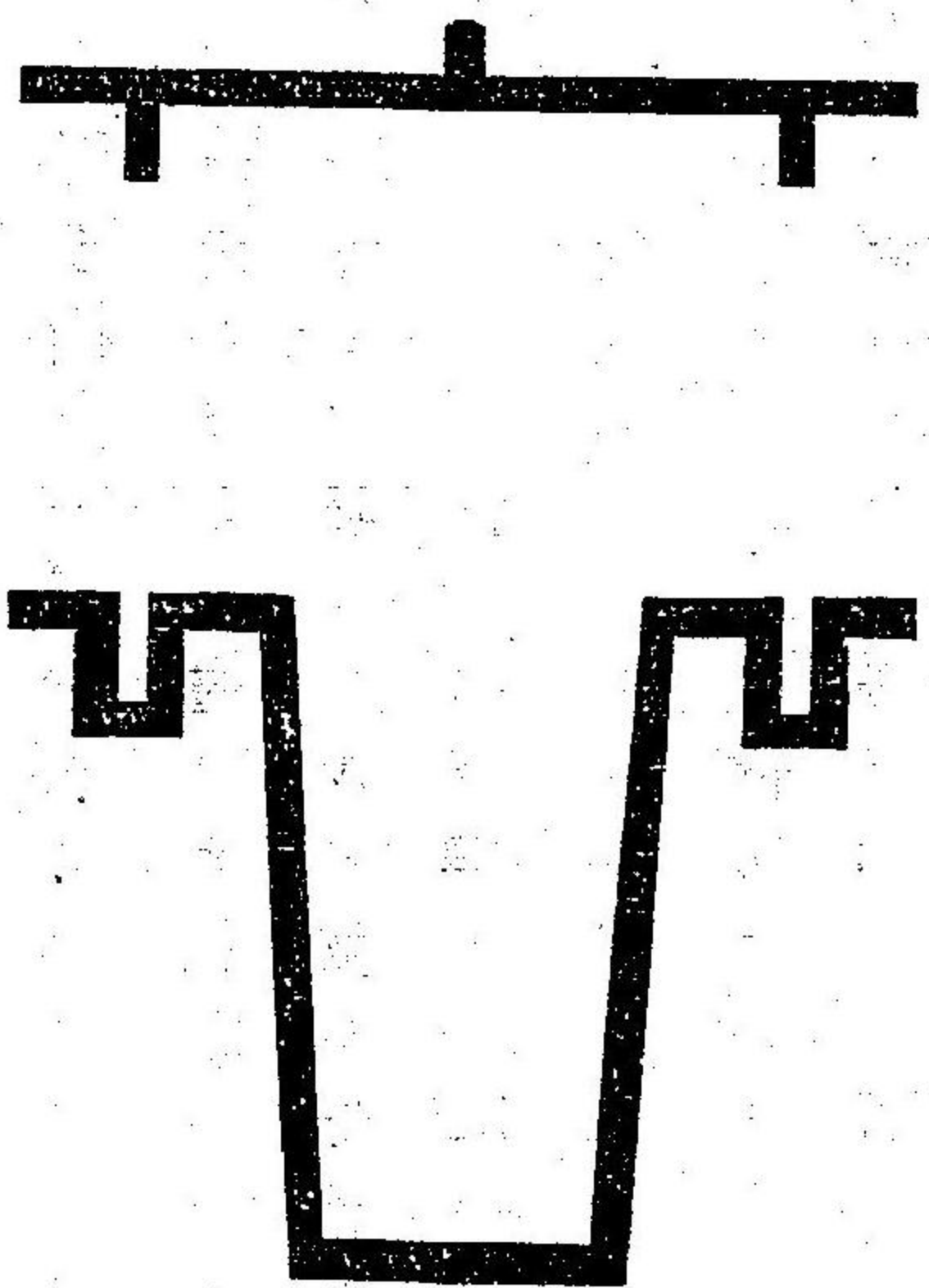
房内換氣法

用フ上半部ハ垂開シテ直角ヲナスニ至リ之ヲ開閉スルハ鎖門ニ密着スル棍棒ヲ下ヨリ操縦スルニ依ラシム格子ハ常ニ外部ノ方ニ附シ縦ノ棒ハ百三十五ミリメートル以下横棒ハ五十センチメートルノ間隔ヲ置クヘシ監房ノ戸第十四圖ハ内外何レニ向ツテ開閉スルノ裝置トナスヘキヤニ就テハ議論未ダ一定スル所アラスト雖先ツ外部ニ開クノ裝置トナスヲ適當トスルモノ、如シネ著監獄構造法等ヲ參觀スルベ戸口ハ高一九〇メートル幅〇七五メートルトシ戸ハ木材ヲ用ヒ相當ノ厚サヲ保チ内面ハ厚サ一ミリメートルノ鐵板ヲ張り尙ホ觀察孔漏斗狀ニ之ヲ造リ成ルベク廣ク房ノ内部ヲ觀望スルニ便トシ蓋ハ及回轉シ得ル圓板ヲ付シ尙之レニ硝子ヲ鑲入シ置クスルニ便トナス及堅牢ナル錠前ト門トヲ附着スヘシ

房内ノ空氣ハ頻々窓ヲ開クコトニ依テ能ク流通スルコトヲ得ヘシト雖尙ホ之ヲ完全ナラシメンガ爲メニ其前部ニ方形又ハZ字形ノ二孔ヲ穿ツコト必要ナリ即チ其一ハ房戸ノ上部他ハ便器置場ノ上部ニ當ル位置ニ之ヲ設ク便器ハ戸口ヨリ左方ニ當ル隅角ニ之ヲ排置ス便

所ノ構造如何ハ久シク困難ナル疑問ノ一ニ屬シ或ハ据付便所ノ設備ヲ可トスルアリ或ハ疏通法ノ利便ヲ説クモノアリシト雖モ現今ニ於テハ一般ニ清潔及ヒ經濟上ノ點ヨリ運搬シ得ベキ便器ヲ採用スルノ適當ナルヲ認ムルニ至レリ便器ハ左圖ノ如ク磁器ヲ以テ之ヲ製シ二三センチメートル乃至四センチメートルノ溝ヲ有シタル縁ヲ設ケ常ニ水

剖開シタル
便器ノ圖



ヲ以テ之レニ充タシ蓋ヲ此ニ箱入シテ密閉スルカ故ニ毫モ臭氣ヲ飛散スルノ虞ナシ便器ノ置場ハ「セメント」ヲ以テ固メ且ツ地瀝青ノ漆ヲ

塗リタル石造ノ臺座ヲ以テ構造シ其上ニ鑄鐵、磐石若クハ假漆ヲ塗リタル木材ヲ以テ造リタル臀座ヲ備ヘ臺座ノ上ニシテ臀座ノ下ニ當ル所ニ之ヲ設ク

拘置監

第五節 拘置監

拘置監ノ位置

拘置監ノ構造

拘置監ハ裁判所ノ關係、最も多ク被告人ノ之レニ往復スルモノ極メテ頻繁ナルコトナルカ故ニ其建設ノ位置ハ必ス裁判所ニ近接シタル地域ナルヲ要ス但シ其監房ノ窓ハ街路ヨリ眺觀スルヲ得ザラシムルノ構造トナシ且ツ私有地トノ間ニ相當ノ離隔ヲ設ケ拘禁者ト監外人トノ交通ヲ防グノ注意アルコト必要ナリ、拘置監ハ其全體ヲ分房ノ構造トナスノ必要ナルハ論ヲ俟タサレモ幾分カマタ雜居房ヲ備ヘ以テ分房ニ適セス又ハ一時多數ノ入監者アル場合ニ其幾分ヲ雜居セシムルノ用ニ供スヘシ翼舎及ヒ監房ノ構造ハ上來、陳述スル所ニ依テ之ヲ斟酌スベシト雖モ要スルニ男女ノ翼舎ハ峻嚴ニ之ヲ劃別スベク或ハ層ヲ分チ或ハ房ヲ接シテ一翼舎ノ内ニ男女ヲ拘禁スルガ如キコトアル

ヘカラス

留置場

留置場ノ構造

留置場ノ大サハ其既往數年間ノ最多人員ト將來増殖ノ豫想アル人口數ヲ準トシテ之ヲ量定シ警察官署ニ密接シタル位置ニ於テ外間ト相當ノ距離及ヒ其交通ヲ遮斷スルヲ得ルノ方法ニ構造スヘシ若シ男女ヲ各別ノ建物ニ離隔拘禁スルコト能ハズンバ一棟内反對ノ部分ニ於テ其出入口ヲ設テ全然相接觸スルヲ得ザラシムルコト必要ナリ留置場ニ於ケル拘禁ハ通例短日數ニ過キサルニ依リ其分房ハ容積十一乃至十二立方メートルヲ以テ充分トスヘシ分房ノ外尙ホ多少ノ雜居房ヲ設備スヘク其他若シ出來ベクンバ尙ホ十六乃至二十五立方メートルノ容積アル二三ノ分房ヲ設ケ稍々長期ノ囚人ヲ拘禁スルニ充ツルヲ得バ最も可ナリ經理用ノ建物ハ成ルヘク最も必要ナルモノ、ミニ限リ其他ハスベテ之ヲ省略スルヲ要ス食料ハ若シ近傍ノ飲食店ニ受負ハシムルコト、ナサハ炊所ノ如キハ即チ之レカ建設ヲ省クヲ得ヘシ

第六節 留置場

懲治場

懲治場ノ構造

第七節 懲治場

懲治場即チ不論罪ニ係ル幼年ノ犯罪者ニ對シテ強制教育ヲ執行スルカ爲メニ設クル所ノ監舎ハ其採ル所ノ主義即チ家族制學校制若クハ混同制等ニ由ツテ其構造ヲ異ニセサルヘカラスト雖モ要スルニ如何ナル場合ニ論ナク決シテ普通ノ監獄ト聯接シテ之レヲ建造スルカ如キコトアルヘカラス蓋シ懲治ノ事ハ行刑トハ全然其趣ヲ異ニシ又々異ニセサルベカラサルヲ以テナリ懲治場ニ於テモ男女ハ全ク其拘禁ノ場所ヲ異ニスルヲ要ス而シテ其規模男ハ二百人乃至二百五十人、女ハ二十五人ヲ限度トシテ設計スヘク構造ハ概シテ監獄ノ如ク之ヲ嚴重ナラシムルヲ要セス懲治場ニモ亦タ相當ノ居室寢室工場教場教誨堂事務所經理用建物等ヲ設ケ官宅モ亦タ密接シテ之レニ附屬シ其他懲治者一人ニ就キ凡ソ五、六乃至六、七アルニ該當スル所ノ耕地ヲ備ヘ農業ノ用ニ充ツルコト最も必要ナリ農業ヲ懲治人ニ教フルコトナキ所ノ定論ナリ懲治場ノ構造及組織ハ殊ニ最も質素簡樸ヲ旨トシ

兒童ヲシテ他日、出場ノ後復歸スヘキ自家ノ生活ニ比シテ比較的、毫モ善良ナルモノニアラストノ感想ヲ起サシムルコト必要ナリ

結論

第八節 結論

監獄構造ノ完成ヲ慮ラスシテ適正ナル行刑拘禁ノ目的ヲ貫徹センコトヲ期スルハ本ニ倚ツテ魚ヲ求ムルヨリモ尙ホ困難ナリト謂ハサルヲ得ヌ世間或ハ之ヲ悟ラス卒然治獄ノ外觀ヲ觀察シ或ハ犯罪増加ノ事實ヲ認識シ漫ニ其罪ヲ刑及ヒ行刑ノ方法組織ノ不完全ナルニ歸シ甚シキハ即チ中古時代ノ野蠻慘刻ナル體刑若クハ追放ノ刑ヲ復興シテ自由刑ヲ廢シ若クハ之カ適用ヲ制限スベシト主張スル者アルニ至ル想ハサルノ甚シキモノト謂フヘキナリ往時ノ監獄ハ唯ダ畏嚇的拘禁ヲ目的トシタルモノニシテ行刑威化ヲ以テ目的トスル近代ノ監獄トハ其目的ニ於テ既ニ雲泥ノ相異アリ之ヲ譬フレハ彼レハ固形物ヲ入ル、ヲ目的トシ此レハ即チ流動物ヲ容ル、ヲ以テ目的トス彼レ固形物ヲ入ル、ニ適スルモノヲ以テ此ノ流動物ヲ容ル、所ノモノニ充

テント欲ス其用ヲ成ス能ハサルハ論ナキナリ歐米諸國ニ於テハ夙ニ此ニ見ル所アリ獄制改良論ノ起ルト同時ニ監獄構造ノ方法ニ就テモ亦タ深ク研究スル所アリ之カ爲メニハ音ダニ幾多ノ思考力ヲ費シタルノミナラス併セテ又驚クヘキ巨額ノ經費ヲ擲ツテ以テ之カ犧牲ニ供シ吾人ヲシテ實ニ彼ノ良制ハ高價ヲ以テ購ハサルヘカラザル所以ヲ事實ノ上ニ認識セシムルニ至レリ然ルニ觀ツテ一方ヨリ之ヲ見レバ斯ク多額ノ費用ヲ支出シタルコト反ツテ亦世人ヲシテ獄制改良ニ絶望少クモ脚踰途巡スルニ至ラシメタルノ影響ナキニ非ヌ是ヲ以テ近來成ルヘク其經費殊ニ建築費ノ節減ヲ求メ世人ヲシテ良制モ亦タ割合ニ低廉ノ價格ヲ以テ購ヒ得ラルベシトノ確信ヲ起サシムヘシトノ論盛シニ起リ其結果トシテ即チ上來總述スルガ如キ所ノ構造法ヲ案出シ尙ホ之レニ依ツテ着々其實効ヲ事實ノ上ニ表顯セシムルニ至リ且ツ其手段トシテ監獄ハ成ルヘク罪囚ノ技能勞力ヲ利用シテ之ヲ構造スベシトノ原則ヲ立テ英國、獨逸、瑞典、伊太利等到處此原則ニ依テ顯

著ナル通常建築費ノ五分ノ二乃 經費節減ノ實例ヲ吾人ニ示スモノアルニ及ベリ今左ニ讀者ノ參考ニ供スルカ爲メ今日ニ至ル迄如何ニ多クマタ幾何相當ノ建築費ヲ支出セシヤヲ表示シテ以テ本論ノ局ヲ結ブ

監 名	建築年 紀	定人員	建築費	備考
東京集治監	二十一年度乃至二十三年度	一〇〇〇	一〇八〇六八五	九七二 雜居制
警視廳監獄	二十二年度乃至二十六年度	三〇〇〇	八九七九一六	四四九 雜居制
石川島支署	二十一年度乃至二十三年度	三〇〇六	四三五六九四	一四二 雜居制
大阪府監獄署	二十四年度乃至二十六年度	一八二二	一七四〇五三	九二 雜居制
兵庫縣監獄署	二十四年度乃至二十六年度	一八八九	七二四六三	六〇 雜居制
静岡縣監獄署	十六年度及二十三年度	一七〇	一〇六二九	九五 雜居制
長野縣監獄署	二十二年度乃至二十四年度	九〇八	五七二二三	六三 雜居制
鳥取縣監獄署	二十三年	一〇〇〇	九一六〇〇〇	九一六〇 折衷制
ミルバンク	千八百二十五年	三六	八六四〇〇〇	二四〇〇〇 階級制
ヨーク	(英國) 千八百二十五年			

ロケット	(佛國) 千八百二十九年乃至三十六年	三〇〇〇	二〇〇九〇三〇	五〇三 折衷制
ゲンフ	(瑞西) 千八百二十二年乃至二十五年	五〇	二〇〇〇〇	四二〇 階級制
ローザンス	(瑞西) 千八百二十一年乃至二十六年	一〇四	四一七四五六	四〇一 階級制
ラーパルン	(紐育) 千八百二十年乃至二十五年	七〇〇	一九二四〇〇	二七三 夜間分房制
シンクシグ	(紐育) 千八百二十五年	一〇〇〇	八五〇〇〇	八五〇 夜間分房制
スタニスラウ	(澳國) 千八百七十八年乃至八十二年	八〇〇	一七二八〇〇	二二四 雜居制
ヒラデルヒヤ	(米國) 千八百二十二年乃至三十六年	五八六	三二八二五〇	五六〇 分房制
ラノンベル	(佛國) 千八百四十年	一三〇〇	二八八六五〇	二二三〇 分房制
ペントンビル	(英國) 千八百四十一年乃至四十二年	五三〇	一八〇〇〇〇	三三六二 分房制
モアビート	(獨逸) 千八百四十六年	五〇〇	一八六〇八四五	三三二二 分房制
レーウエン	(白義) 千八百六十九年	六三六	一五一四三三三	二三八二 分房制
クリスチャニス	(諾威) 千八百七十五年乃至七十九年	二五二	九三三〇〇〇	三六三三 分房制
フライブルヒ	(獨逸) 千八百七十五年乃至七十九年	四六六	一八九〇〇〇	四〇五六 折衷制

ナムーウル	千八百七十六年	一四二	六五七三六	四六六分	房制
ラビトール	千八百四十五年乃	三三四	一八〇〇〇〇〇	三四三三折	表制
レンヌブルヒ	千八百七十年乃	四五〇	二〇八、二五〇	六四三三折	表制
プレツチエンゼイ	千八百六十九年乃	一三九〇	六八七〇〇〇	四三三三折	表制
ナンテル	千八百七十八年乃	一八〇〇	二二〇〇〇〇〇	六六六七折	表制

第六章 監獄管理法

第一節 監獄ノ定義及ヒ其種類

監獄トハ法律ニ依リ國權ヲ以テ臣民自由ノ行動ヲ拘束スルカ爲メニ指定シタル所ノ公ケノ建物ヲ指シテ之ヲ稱ス而シテ其自由ノ行動ヲ拘束スル所以ノモノ或ハ治罪審判ノ爲メニ或ハ處罰ヲ實行スルカ爲メニ或ハ債務履行ノ確保ヲ期スルカ爲メニ或ハ保安及ヒ教育上懲治檢束ノ目的ヲ達スルカ爲メニ之ヲ行フモノナリトス

治罪審判ノ爲メニスルモノ之ヲ未決監ト稱シ處罰ヲ實行スルカ爲メ

監獄管理法

監獄ノ定義及ヒ其種類

監獄ノ定義

監獄ノ種別

ニスルモノ之ヲ已決監ト稱シ債務履行ノ確保ヲ期スルカ爲メニスルモノ之ヲ民事監ト稱シ懲治檢束ノ目的ヲ達スルカ爲メニスルモノ之ヲ懲治監ト稱ス監獄則第一條ニ曰ク

監獄ヲ別テ左ノ六種トス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場

ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘖瘡者ヲ懲治スル所トス
 ト是ニ由テ之ヲ見レハ集治監、假留監及ヒ地方監獄ハ已決監ニシテ拘
 置監及ヒ留置場ハ未決監ニ屬シ懲治場ハ則チ懲治檢束ノ爲メニ設ケ
 タルモノナルコト知ルヘキナリ而シテ彼ノ民事監ニ就テハ監獄則中、
 別ニ之ヲ規定シタルモノナシト雖モ商法、既ニ債權者ノ申立ニ由リ債
 務者ヲ警察署所屬ノ留置場ニ拘留スルノ規定、商法施行條例第四十五
 條乃至第四十九條參看アル以上ハ監獄ノ一種トシテ民事監ナルモノ
 ノ設ケアルヘキコト事理ノ當サニ然ラシムル所ナリ此他、尙ホ監獄則
 中ニ明文ノ規定ナキモノニシテ監獄ノ一種ト見做スヘキ所ノモノア
 リ則チ刑法附則ニ依リ住居ナク引取人ナク又ハ住居地ニ歸着ノ資力
 ナキ被監視者ヲ拘禁スルノ所刑法附則第三十二條ニシテ通例之ヲ別
 房ト慣稱スルモ術語上、寧ロ監視監ト稱スルノ適當ナルヲ信ス、監視監
 ハ獨逸等ニ所謂勞役場(Arbeitshaus)ナルモノト大ニ相類似スル所アリ
 ト雖モ勞役場ハ獨リ附加刑ヲ執行スル所タルノミナラス併セテマタ

監視監

留置場

單ニ警察ノ取締上、一時或ル種類ノ人物ヲ監禁スルカ爲メニモ之ヲ用
 フルコトアルカ故ニ此點ニ於テ則チ我カ監視監ト少シク其趣ヲ異ニス
 ルモノアルヲ見ル故ニ監視監ハ處罰即チ附加刑ヲ執行スル所ノ已決
 監ノ一種トシテ之ヲ見ルモ敢テ不可アラサルヘシト信ス、勞役場ハ我
 房、警察署内ノ留置場及ヒ保護場ヲ合併シタル
 カ如キモノニシテ或ハ之ヲ警察監獄ト稱ス
 留置場ハ警察署及ヒ裁判所構内ニ之ヲ設ク而シテ警察署内ニ在ル所
 ノモノハ或ハ時トシテ處罰ヲ執行スルカ爲メニ之ヲ用フルコトアリ
 ト雖モ是ハ變例ニシテ本則ニアラス本則ハ一時刑事被告人ヲ留置ス
 ル所即チ未決監ノ一種トシテ之ヲ見ルヘシ
 目的、同シカラサレハ之ヲ管理スル方法モ亦タ相異ラサルヲ得、是レ
 即チ監獄ハ其種類ニ由ツテ各別ニ之ヲ建設セサルヘカラサル所以ニ
 シテ近來、歐米諸國ノ採ル所ノ方針亦タ此ニアリ到ル所、少クモ未決監、
 已決監及ヒ懲治場ハ各々獨立シテ之ヲ建設シ、獨リ場所及ヒ建物ニ由
 ツテ之ヲ區別スルノミナラス其管理者及ヒ管理法ノ如キモ亦タ全ク

其人ヲ異ニシ其趣ヲ殊別ナラシメサルハナシ尤モ或ハ未決監ニ於テ極メテ短期ノ自由刑ヲ執行スルモノアリト雖モ是ハ經費檢束地理其他便宜上必要止ムヲ得サルノ變例ニシテ據ツテ以テ得ル所ノ利ハ據ツテ生スル所ノ失ヲ償フテ餘リアルカ故ニ敢テ深ク咎ムルニハ足ラサルナリ監獄則第十四條ニ曰ク

各種監獄ノ區劃

地方監獄、拘留監、懲治場ノ一區劃内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ

ト一區劃内ニアルモノハト言フ上ヨリ之ヲ見レハ成ルヘク各種獨立シテ之ヲ建設セシメンコト我カ監獄則ハ精神ナルカ如シト雖モ之ヲ顯彰スルコト甚タ曖昧模稜タルヲ免カレサルヲ以テ變例反ツテ原則ヲ制シ實際ニ於テ一モ其精神ノ行ハルモノアルヲ見ス皆タ其精神ノ實行セラレサルノミナラス、墻壁ヲ以テ區劃スヘシト謂ヘル變例規程ノ實行スラ尙ホ之ヲ見ルコトノ稀有ナルハ殊ニ以テ遺憾ニ堪ヘサル所ナリトス拙著日本監獄法講義五頁ニ曰ク

前略監獄ハ其種類ニ由ツテ各々其管理ノ目的及ヒ方法ヲ異ニスルモノナルカ故ニ其所在ノ位置モ亦タ切然之ヲ獨立セシムヘキモノタルハ論ヲ俟タス若シ強テ其位置ヲ同一ナラシムルトキハ勢ヒ互ヒニ其目的ヲ阻格シ且ツ其管理ノ規制ヲ侵犯シ若クハ制肘セラルハニ至ルヲ免レス例ヘハ拘留監ハ裁判所トノ交通頻繁ナルカ故ニ其位置ハ成ルヘク裁判所ニ接近スルヲ要シ地方監獄ハ諸般ノ關係殊ニ衛生上經濟上等ヨリ成ルヘク運輸交通ノ便殊ニ鐵道アル村落地若クハ小都會ナルヲ要シ懲治場モ亦タ彼ノ學士メツツ氏ノ所謂人土地ヲ開拓シ土地人ヲ開拓スノ主義ニ基ツキ殊ニ感化上成ルヘク都會ヲ離レ田舎殊ニ農業地方ナルヲ要スル等其種類ノ異ルニ從ヒ其位置則チ建設地ノ上ニ就テモ各々特別ノ利便ヲ有シ之ヲ混一併合スルノ不利ナルコト知ルヘキナリ(中略)監獄則ノ精神ハ獨立的隔離ニアルコトハ本條ノ明文中心一區劃内ニアルモノハト謂ヘルハ一字ニ據ツテ之ヲ知ルヲ得ヘシ且ツ前段陳述スル所ノ理由ニ據ツ

テ之ヲ見ルモ監獄ハ其種類ノ異ルニ從ヒ經濟其他ノ關係ノ許ルス以上ハ成ルヘク其建設ノ位置ヲ異ニスルコト蓋シ本則ノ趣旨ニ適シタルモノナリト思考ス云々

刑名ノ異ルニ從テ種々ニ之レカ執行ヲ區別スルコトノ困難ナル事由ハ前章既ニ之ヲ陳述スル所ノ如クナリト雖モ苟クモ刑法ニ於テ種々ノ刑名ヲ存スル以上ハ道理上之レカ執行ヲ殊別セサルヘカラサルコト明ラカニシテ從テ其執行ノ場所ヲ異ニセサルヘカラサルコト亦タ論ヲ俟タス然ルニ此點ニ就テハ歐米諸國亦タ理論ノ要求ヲ充タスコト甚タ不十分タルヲ免カレス白耳義ノ如キスラ尙ホ同一監獄(Penitence-house)ニ於テ懲役ト禁錮ノ兩刑ヲハ執行シ軍律處斷ノ囚人モ亦タ此ニ之ヲ拘禁ス我カ監獄則集治監ニ於テ徒流及ヒ舊法懲役終身ノ刑ヲ執行シ地方監獄ニ於テ拘留以上懲役ニ至ル四種ノ刑此他婦女ニテ執行スルノ規定アルハ深ク怪ムニ足ラサレ然カモ以テ事理ニ適シタルモノトハ謂フヘカラス

軍獄及民獄

監獄ハ尙ホ種々ノ點ニ就テ之ヲ區別ス先ツ大體ノ上ニ於テ軍獄及ヒ民獄ノ區別アルヲ知ルヲ要ス軍獄トハ則チ陸海軍刑法ニ依ツテ處斷スヘキ者ヲ拘禁シ及ヒ之レニ依ツテ處斷シタル軍人軍屬ノ刑ヲ執行スルノ所ニシテ民獄トハ全ク其目的及ヒ組織ヲ殊別ニス民獄ハ則チ普通監獄則ヲ以テ管理スル所ノモノニシテ本書記述スル所總ヘテ是ヲ以テ目的トナス

或ハ男女ニ由ツテ之ヲ男監女監ニ別チ或ハ年齢ニ由ツテ之ヲ幼年監成年監ニ別チ或ハ規模ニ由ツテ之ヲ大監獄小監獄ニ別チ或ハ位置ニ由ツテ之ヲ本監獄本署支監獄支署ニ別チ或ハ拘禁法ニ由ツテ之ヲ雜居監獄分房監獄及ヒ折衷階級監獄ニ別チ或ハ經費上之ヲ中央監獄國庫費監獄地方監獄地方費監獄ニ別ツヲ通例トス

男女及ヒ年齢ニ依ツテ監獄ヲ區別スルノ實際ニ必要ナルハ論ヲ俟タス歐米諸國ニ於テハ多クハ全ク相獨立シテ之ヲ建設スルモノ、如ク少クモ一構内ニ在ルモノハ墻壁等ヲ以テ峻嚴ニ之ヲ區處ス(多クハ未

決監ニ於テ監獄則ニ曰ク

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年
齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

四 滿十六歲以上二十歲再犯ノ者

五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ
年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

幼年監成年監
ノ別異

是ニ由テ見レハ我國ニ在ツテハ年齡上唯タ僅カニ監房ヲ別異スルノ
ミニ止マリ別ニ幼年監及ヒ成年監ノ設備ヲ豫期セサルコト知ルヘキ
ナリ是レ甚大ノ缺點ト謂ハサルヲ得ス幼年ト成年ヲ別ツコトノ峻嚴
ナルハ猶ホ男ト女トヲ別ツノ峻嚴ナルカ如クナルヘシトハ監獄學上
ノ定論ニシテ獨リ罪惡ノ感染ヲ防クノ必要アルノミナラス性理上、マ
タ或ル一種醜穢ナル情交ノ相感應スルモノアルヲ制遏スルノ必要ア
ルハ夙ニ實驗上ニ於テ確認スル所ナリトス監房ノ別異ハ唯タ僅カニ
肉体ノ相接觸スルヲ防制シ得ルノミニシテ以テ情意ノ互ヒニ相交通
スルヲ禁遏スルニ足ラス情意既ニ相通ス故ニ罪惡ハ傳染情交ノ感應
ハ到底監房ノ別異ヲ以テ之ヲ阻絶スル能ハサルコト論ヲ俟タス且ツ
夫レ幼年者ノ遇待ハ成年者ノ遇待トハ全ク其趣ヲ異ニセスンハアル
ヘカラス然ルニ若シ同一屋舎ノ内ニ之ヲ拘禁スルトキハ勢ヒ其管理
ノ方法ヲ混淆シ終ニ遇囚ノ要旨ニ戻ルノ結果ヲ見ルニ至ルヲ免カレ
サルハ蓋シ事理ノ當サニ然ルヘキ所ナリト謂フヘシ幼年囚管理ノ方

男監女監ノ別異

一監獄管理ノ囚員

法ニ就テハ識者ノ最モ心カヲ傾注スル所ニシテ現ニ監獄管理法中最モ必要部分ノ一ニ屬ス蓋シ幼年囚ハ犯罪者ノ嫩芽ナルヲ以テ之ヲ嫩芽ニ苜ルコト犯罪ノ防遏即チ監獄ノ目的ヲ達スル上ニ於テ最モ有効且ツ有益ノ手段タルヘキヲ以テナリ此點ニ就テモ亦タ幼年監ト成年監トハ全然之ヲ離隔セシムルハアルヘカラス少クモ同構内ニアツテハ墻壁等ヲ以テ峻嚴ニ之ヲ區別セサルヘカラスコト明ラカナリ

男監女監ノ區別ハ我カ監獄則モ亦タ明ラカニ之ヲ嚴隔スヘキコトヲ規定セリ所謂嚴隔ナル文字ハ最モ緊縮ニ之ヲ解シ少クモ墻壁等ヲ以テ峻嚴ニ相區處スル所アルヲ要ス歐洲諸國殊ニ獨逸佛國等ニ於テハ全然獨立シタル女監ノ設備アルモノ少カラス

個人的遇囚ノ旨趣ヲ貫徹セシメントナラハ一監獄一典獄ノ下ニ管理スヘキ所ノ囚人ハ豫メ其員數ヲ制限スル所ナカルヘカラス囚員多數ニ涉ルトキハ典獄ハ勿論之レニ屬スル幾多ノ僚屬ト雖モ亦タ一々囚人個人的ノ關係ヲ知悉シ能フヘカラス之ヲ知悉スルコト能ハサレハ

則チ從ツテマタ個人的遇囚ノ目的ヲ貫徹シ能ハザルコト勿論ナリ是ヲ以テ一監獄拘禁ノ囚員ハ分房監獄ニ在ツテハ凡ソ五百人ヲ以テ限度トシ雜居監獄ニ於テモ亦タ凡ソ千人ヲ超過スヘカラサルヲ定則トス而シテ一方ニハマタ囚員寡少ニ失スルトキハ經濟其他管理上諸般ノ不便利少カラサルコト明ラカナル故ニ最寡數ニ就テモ亦タ限度ヲ立テ一監獄拘禁ノ囚員ハ凡ソ五十人ヲ降下セサルヲ要ス而シテ拘禁囚員二百人以上千人以下アルモノヲ大監獄ト稱シ二百人以下五十人以上ノモノヲ小監獄ト稱ス我國ニアツテハ唯タ囚員凡ソ五十人以下ノ少數ヲ拘禁スル所ノ監獄ハ地勢上等ノ關係ヲ計リ成ルヘク之ヲ廢止スヘシトノ内規アルノ外其他別ニ最多限及ヒ最寡限ノ規定スルモノナキハ欠點ト謂ハサルヲ得ス是ヲ以テ我國ニ於テハ到ル所千人以上ヲ拘禁スルノ大監獄アルヲ見サルハナキノミナラス多キハ則チ四千内外ノ大多數ヲ拘禁スルモノアリ斯クノ如クニシテ如何ン能ク個人的遇囚ノ旨趣ヲ貫徹シ得ヘケンヤ況ンヤ一監獄ノ内全ク殊

別ナル種々ノ四類ヲ集禁スルニ於テヲヤ縦令ヒ萬能力ノ人材ヲ得テ之レカ管理ノ局ニ當ラシムト雖モ到底能ク治獄ノ目的ヲ貫徹シ得ヘキニアラサルナリ

典獄直接ノ管理ニ屬スル所ハモハ之ヲ本監獄ト稱シ其建設ハ位置ヲ異ニシ典獄間接ノ管理ニ屬スル所ハ者之ヲ支監獄ト稱ス通例大監獄ハ即チ本監獄ニシテ支監獄ハ即チ小監獄ナリト雖モ然カモ必スシモ規模ノ大小ニ依ツテ本支ヲ別ツノ標準トナス能ハス我カ地方官々制ノ規定等ニ據ツテ之ヲ見レハ地方廳各々唯タ一人ノ典獄ヲ置クニ止マリ從テ監獄モ亦タ各地方一箇所ヲ以テ本則トシ典獄ハ則チ此ニ在勤シ除外例トシテ須要ノ地ニ支署即チ支監獄ヲ設置スルコトヲ許ルス而シテ其拘禁人員等ニ就テハ別ニ制限スル所ナキカ故ニ或ハ便宜多數ノ四員ヲ支監獄ニ拘禁スルコトアルモ亦タ計ルヘカラス之ヲ要スルニ監獄本支署ノ區別ハ管理上左マテ實際ノ必要アルヲ見サルナリ拘禁制ニ依ル分房監獄若クハ雜居監獄ノ區別ニ就テハ前章既ニ詳悉

スル所アルヲ以テ此ニハ之ヲ略ス我國ニ於ケル所ノ監獄ハ殆ント一體ニ皆ナ雜居監獄ナリト謂フヲ得ヘシ

中央監獄及地方監獄附監獄費用國庫支辨ノ理由

第二節 中央監獄及地方監獄附監獄費用國庫支辨ノ理由

國庫費ノ負擔ニ屬スルモノ之ヲ中央監獄ト稱シ地方費ノ支辨ニ係ルモノ之ヲ地方監獄ト稱ス我國ニ在ツテハ即チ監獄則所謂集治監及ヒ假留監ハ中央監獄ニ屬シ地方監獄以下各種ノ監獄ハ總ヘテ地方費監獄ニ屬ス今遡ツテ我カ監獄ノ制度ニ就テ之ヲ觀ルニ維新以來多少ノ沿革アリト雖モ要スルニ治獄ニ關スルノ事項ハ一ニ中央政府ノ所管ニ歸シ其費用ノ如キモ亦タ渾ヘテ國庫ノ負擔スル所ナリシカ明治十三年財政整理ノ必要ニ因リ其十一月發布ノ布告第四十八號ヲ以テ地方監獄ニ關スル費用ヲ移シテ之ヲ地方稅ノ支辨トナスニ至レリ尤モ此ノ事タル實ニ已ムヲ得サルノ政策ニ出テタルモノナルハ該布告ニ於テ歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加シ云々トアルニ依ツテ明ラ

カニ之ヲ知ルヘシ然ルニ今ヤ畜タニ此必要ノ消滅シ去ルニ至リタルノミナラス地方費支辨ノ結果行刑上及ヒ國家經濟上種々弊失ノ堪フヘカラサルモノアルニモ拘ハラス尙ホ之ヲ國庫支辨ノ舊ニ復スル能ハサルコト實ニ最大悞事ナリト謂ハサルヲ得ス是レ則チ近時國庫支辨問題ノ起ル所以ニシテ曩キニ政府カ帝國議會ニ對シテ該法案ヲ提出シタル際ニ於テ其理由トスル所實ニ左ノ如シ

監獄費國庫支辨ノ理由

監獄費及監獄建築修繕費ハ從前總テ國庫支辨ニ屬シタルモノナリシカ明治十三年布告第四十八號ヲ以テ其府縣監獄費及府縣監獄建築修繕費ヲ地方稅ノ支辨ニ移スコト、ナスニ至レリ爾來今日ニ至ルマテ既ニ十有餘年ヲ經過シ其費額ハ地方稅費目中常ニ最モ多額ヲ要スルモノ、一ニ屬ス今廿四年度地方稅ノ支出ニ就テ府縣監獄費及建築修繕費ノ割合ヲ見ルニ同年度地方稅支出總額ハ千六百七十七萬九千六百七十三圓九十七錢四厘ニシテ其內監獄費及建築修繕費ノ總額ハ三百二十七萬四千八十七圓五十九錢六厘ナルヲ以テ

其割合ハ一割九分五厘殆ント二割ニ該當セリ尙ホ各府縣ニ就テ之ヲ見ルニ二割乃至三割ノ多額ヲ占ムル所ノモノ少カラス是ニ由テ之ヲ觀レハ十四年度以來監獄費地方稅支辨トナルカ爲メニ往々國庫支辨ノ舊ニ復セント欲スルノ議論アルハ事理ノ當サニ然ラシムル所ナリト謂フヘシ

抑モ監獄ニ關スル諸般ノ經費ハ其性質元ト國庫ノ支辨ニ屬スヘキモノタルコト勿論ナリ蓋シ犯罪ハ國法ニ對スルノ所爲ナルヲ以テ犯罪者ヲ拘禁シ若クハ之ヲ刑罰スルノ費用ハ宜シク國法執行ニ關スル費用即チ裁判所ノ費用等ト同一途ニ出ツヘキモノタルヲ以テナリ現ニ今日ト雖モ唯タ其費用ヲ以テ之ヲ地方稅ノ支辨ニ屬セシムル迄ニシテ其事業ニ至テハ依然國家ニ於テ之ヲ管理シ且ツ禁治監ニ入ルヘキ徒流刑囚ノ費用ハ總テ國費ヲ以テ之ヲ支辨セリ今日地方稅經濟ノ上ニ於テハ土木ニ教育ニ衛生ニ勸業ニ其他種々ノ用途ニ向テ多端ノ經費ヲ要スルカ上ニ監獄費ノ如キハ囚徒ノ人

員ニ應シテ必要ノ費額ハ必ラス之ヲ支出セサルヲ得サルモノナルカ故ニ地方ニ依リテハ殆ント地方税ノ負擔ニ耐ヘサルノ情况アルモノ少カラス彼ノ息納處分ノ夥多ナルヲ以テ之ヲ見ルモ一般人民ノ地方税苛重ノ負擔ニ苦ミツ、アルノ一斑ヲ知ルヘキナリ今各府縣ニ於テ地方税不納ノ爲メ公賣處分ヲ受ケタル者ノ數ヲ調査スルニ明治二十年度ニアツテハ總計二十九萬二百四十六人ノ多キニ達セリ豈ニ驚クヘキ數ニ非スヤ斯ク地方税負擔ノ苛重ナルカ爲メニ地方ノ事業トシテ充分發達セサルヘカラス又改良セサルヘカラスル事業ノ如キモ未タ充分改良發達スル能ハサルノ憾ナキ能ハス是ヲ以テ成ルヘク地方税ヲ輕減シテ地方ノ事業ヲ改良發達セシムルノ便ヲ與フルコト亦タ最モ緊要ノ事ト謂フヘシ

且又既往數年ノ經驗ニ徴シテ之ヲ考査スルニ府縣監獄費ハ國庫支辨ニ移サ、ルヘカラサルノ必要アリ何トナレハ該費用ノ地方税支辨ナルカ爲メニ治獄上及經濟上等ニ於テ不便利且ツ不利益アルヲ

免レサルコト尠ナカラサレハナリ即チ第一各府縣ノ間ニ囚徒待遇上ニ於テ衡平ヲ欠キ其結果ハ地方ニ依リ行刑ノ方法區々ニ涉リ均ク國法ニ因リ同一ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ府縣ヲ異ニスルカ爲メニ其刑罰ニ寬嚴輕重ノ差ヲ生スルニ至ルヲ免レス第二各府縣ニ於テ監獄費ノ負擔上ニ衡平ヲ欠クノ弊アリ即チ都會若クハ交通便利ナル地方其他乞食浮浪ノ徒ノ多ク輻湊スル所ノ地方ニ於テハ多ク盜難等ノ損害ヲ受ケタル上ニ於テ更ニ犯罪者ノ爲メニ多額ノ監獄費ヲ負擔セサルヲ得サルニ至ル第三府縣各々其經濟ヲ異ニスルカ爲メニ例ヘハ控訴若クハ上告者等アル場合ニ於テハ獨リ此輩ヲ控訴院所在地等ノ監獄ニ護送シ其拘禁中ノ費用ハ凡テ出發地方ノ府縣ヨリ之ヲ支辨セサルヲ得サルノミナラス該犯人若シ死亡スル等ノ異動ヲ生スルコトアルトキハ忽チ計算上ニ關係ヲ及ホスヘキヲ以テ一々其異動ニ應スルカ爲メ或ハ文書ヲ往復シ或ハ金圓ヲ送付スル等ノ繁ヲ生シ從テ費用ヲ要スルコト亦決シテ尠ニアラ

ス且近來犯罪人中控訴上告等ヲナスモノ漸次其數ヲ加フルノ狀況ナルカ故ニ若シ今後ニ尙ホ監獄費ヲ以テ之ヲ地方稅支辨ニ屬セシムルコト今日ノ如クンハ益々冗費ヲ要シ且ツ繁雜ナル手數ヲ加フルニ至ルヘキナリ

又監獄ノ如キハ其收禁スヘキ人員ニ應シ其府縣ノ收監人員ヲ目安トシテ之ヲ設計シタルモノニシテ嚴正ナル刑罰ノ執行ト懲戒感化ノ効ヲ奏セントナラハ罪質、年齡、犯數、品行等ニ由テ囚人別異ノ法ヲ實行セサルヘカラス然ルニ一朝或地方ニ於テ非常ニ囚員ノ増加ヲ來シタルカ爲メニ止ムヲ得ス囚人別異ノ法ヲ攪亂スルカ如キコトアルトキハ忽チ嚴正ナル刑罰執行ノ上ニ影響シ終ニ懲戒感化ノ目的ヲ失フニ至ルヲ免レス斯ノ如キ場合ハ往々實際ニ見ル所ナリト雖モ其費用ノ地方稅經濟ニ屬スルノ間ハ縱令ヒ或ル地方ニ於テ非常ニ囚員ノ増加ヲ來スコトアリトスルモ其餘レルモノヲ他管ニ送りテ彼レ此レ相融通シ常ニ適度ノ囚員ヲ拘禁シ置ク等ノ便宜ヲ得

ルコト能ハサルナリ又女囚ノ如キハ各府縣ニ於テ其員數ノ寡少ナルカ爲メニ諸般待遇ノ法、完全ナル能ハス若シ府縣監獄費ヲ以テ之ヲ國庫ノ支辨ニ移ストキハ或ハ數府縣ノ間ニ一ノ完全ナル女監ヲ設ケ其近府縣ノ女囚ヲ集禁シテ適當ナル管束ヲナスコトモ得ヘキナリ又懲治場幼年監ノ如キモ其費用ヲ國庫支辨ニ移ス以上ハ或ハ一ノ特別ナル監舍トシテ之ヲ創設シ此種類ノ犯罪者ニ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ所遇シ所謂犯罪ノ嫩芽ヲ芟除スルノ道ヲ得ルニ至ルヘシ其他又府縣監獄費ヲ國庫支辨ノ舊ニ復スルトキハ各府縣ノ囚徒ヲ彼レ此レ相融通シテ拘禁スルノ便ヲ得ルニ由リ場合ニ依テハ管理上及經濟上ノ爲メ物價ノ廉直ニシテ囚徒ノ拘禁ニ便利ナル地方又ハ相當ノ役業アル地方ノ監獄ニ於テ重罪長期ノ囚徒ヲ集禁スルコトヲ得ヘク又監獄諸般ノ需用品ノ如キモ適當ナル地方ノ監獄ニ於テ之ヲ製造セシメ廉價ヲ以テ其需用ヲ充タスノ便利ヲ得ヘキナリ

歐洲各國監獄
費途

蓋シ監獄ハ國法ニ悖犯スルノ行為アル者ニ對シ國權ヲ以テ之ヲ監禁
シ及ヒ刑罰ヲ執行スル所ナルカ故ニ之ヲ建設シ維持シ且ツ管理スル
ハ任務ハ宜シク行政及ヒ警察ノ全權ヲ掌有スル所ノ國家其物ニ屬ス
ヘキハ事理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ管タニ事理ノ當サニ然ルヘキ所
ナルノミナラス斯クノ如クニシテ始メテ實際上亦ク能ク行刑ノ旨義
ニ適ヒ治獄改良ノ目的ヲ貫徹スルヲ得ヘシ泰西諸國ニ在テハ獨リ理
論トシテ一般ニ之ヲ是認スルノミナラス西班牙ヲ除クノ外到ル所大
概之ヲ實行セリ但シ佛國瑞典諾威白耳義等諸國ニ於テハ尙ホ地方監
獄ノ建築修繕費若クハ未決監ニ關スル幾分ノ費用ヲ以テ之ヲ地方費
ノ負擔ニ歸セシムルモノアリト雖モ佛國ニ於テハ未決監及ヒ一年刑
以下ノ囚人ヲ拘禁スル所ノ地方監獄ニ限リ其建築修繕費ヲ以テ地方
費ノ負擔トナシ瑞典ニ於テハ未決監ニ限リ其費用ノ幾分ヲ地方ニ負
擔セシメ諾威ニ於テモ亦タ監獄建築修繕費ヲ以テ地方費ノ支辨トナ
シ白耳義ニ於テハ中央獄ノ費用ハ一切國庫ニ於テ之ヲ支辨シ地方監

監獄官吏

第三節 監獄官吏

獄修繕及在監人ノ要具又ハ事務管督員費用等ニ限リ地方費ヲ以テ之
ヲ支辨ス未タ我國ノ如ク地方監獄費ノ全体ヲ以テ之ヲ地方費ノ支辨
ニ屬セシムルモノアラサルナリ監獄費國庫支辨ノ問題ニ就テハ清浦
氏著監獄費國庫支辨論等類ヲ參觀スルヲ要ス他日若シ幸ニ監獄費國庫支
辨ノ舊ニ復スルヲ見ルニ至ラハ中央監獄及ヒ地方監獄ノ區別ハ從
テマタ消滅シ少クモ經費上ノ區別ニアラスシテ地理上若クハ管轄上
ヨリ區別スルノ名稱タルニ至ルヘキナリ

監獄官吏ノ位置ハ直接ニ國務ニ服スル所ノ文官ニシテ大体之ヲ別テ
高等官判任官及ヒ判任官待遇トス但判任官待遇官吏ノ俸給ハ或ハ國
庫ヨリ之ヲ支出シ或ハ地方費ニ於テ之ヲ負擔ス
監獄ハ國權ニ依リ國法ヲ執行スル所ノ官衙タリ故ニ監獄官吏ハ直接
的國務官吏ノ位置ヲ有セシメサルヘカラサルコト論ヲ俟タス然ルニ
歐米諸國ニ於テハ往々尙ホ未タ變例ヲ襲用スルモノ少カラス即チ魯

國及ヒ米國ニ於テハ其地方監獄ノ官吏ハ凡ヘテ公務官即チ地方公共ノ事務ノ州郡町村公會等ニ任スル所ノ官吏ト謂フノ義ナリトス而シテ既ニ直接的國務官吏ナル以上ハ其俸給若クハ恩給等モ亦々總ヘテ國庫ヨリ之ヲ支出スルヲ當然トス然ルニ我國ニ於テハ一面監獄官吏ヲ以テ國務官トナスニ拘ハラズ其一部即チ地方監獄ニ屬スル判任待遇官吏ノ俸給ヲ以テ之ヲ地方費ノ負擔タラシム蓋シマターノ變例タラズンハアラサルナリ西班牙ニ於テハ監獄官吏ノ俸給ハ或ハ國庫ヨリ或ハ地方費ヨリ之ヲ支出ス其組織稍々我國ニ於ケルモノト相類似スルモノアルヲ見ル

監獄官吏ノ名稱及地位

監獄官吏ハ名稱ハ典獄書記看守長監獄醫及ヒ看守トス而シテ典獄ハ高等官^{五等}乃トシ書記及ヒ看守長ハ判任官トシ監獄醫ハ其中央監獄(國庫費監獄)ニ奉職スルモノヲ判任官トシ其地方監獄ニ奉職スルモノヲ判任官待遇トシ看守ハ總ヘテ之ヲ判任官待遇トス監獄官吏ハ他ハ文官ヲシテ之レニ兼任セシメ得サルニ非ラス然レモ

實際我國ニ於テハ各監獄總ヘテ專任ノ官吏ヲ配置シテ之レニ在勤セシムルコト實ニ事体ノ宜シキヲ得タルモノナリト謂フヘシ方ノ三小監獄ニ於テ或ハ警察官吏ヲ以テ兼^任佛國ノ如キモ亦々總ヘテ監獄官吏ハ獨立專任ノ官吏トシテ之ヲ大小各種ノ監獄ニ配置セリ獨リ獨逸聯邦ノ諸國ニアツテハ小監獄ノ署長典獄ハ多ク判事檢事郡長或ハ警察官等ヲ以テ之レニ兼務セシメ大監獄ニ於テモ亦々專務ノ監獄醫及ヒ教誨師ヲ置クモノ殆ント稀レナリ治獄上ノ一欠點タルコトハホルツエントル^フ氏等モ亦々之ヲ痛論セリ

教誨師

悔過遷善ノ道ヲ講スル所ノ者之ヲ指シテ教誨師ト稱ス(監獄則第三十條)教誨師ノ職務ハ治獄上最モ必要機關ノ一ニ屬ス然ルニ我國ニ在ツテハ官制改正ノ結果ニ依リ教誨師ヲ以テ之ヲ監獄官吏ノ班列ヨリ除外スルニ至レリ吾人ハ甚タ其理由ノ存スル所ヲ知ルニ苦マサルヲ得ス或ハ曰ク教誨師ナルモノハ所謂出世脫俗ノ僧職ニ任スヘキ所ノモノニシテ普通官吏トハ大ニ其撰ヲ異ニスルモノアルカ爲メナリト改

監獄官吏ノ權
利及實務等

過遷善ノコト何ソ必スシモ僧職ノ掌ル所ナリトセンヤ矧ンヤ我カ監獄法規ノ規定ニ依ツテ之ヲ見レハ教育ノ事亦タ教誨師ノ主管スル所ナルニ於テヲヤ(看守及監獄傭人分掌例第二十八條)縱令ヒ又悔過遷善ヲ以テ僧職ノ掌ル所ナリトスルモ既ニ採ツテ以テ之ヲ國家的行刑ノ官務トス之レニ任スル所ノ者須ラク國務官吏トシテ之ヲ待遇セサルヘカラサルコト事理ノ最モ親易キ所ナルニ非スヤ但シ其官等及ヒ俸給ノ如何ノ如キハ別ニ所見アレ此ニハ之ヲ略ス

監獄官吏享有スル所ノ權利及ヒ負擔スル所ノ實務其他任免賞罰等ノコトニ就テハ政テ他ノ一般文官ト異ル所ナシ尤モ判任待遇ノ官吏ニケテ之ニ適用スル所アリ判任待遇ノ監獄醫ハ恩給ノ恩ヲ得ル能ハス蓋シ同一監獄醫ニシテ獨リ判任待遇ノ監獄醫ハ恩給ノ恩ヲ得ル能ニ權衡ノ宜シキヲ得タルニ至ラシメテ早晩歐洲諸國ニ於テハ近來監獄官吏ヲ以テ終身官タラシムヘシトノ論漸ク勢力ヲ占ムルニ至リ既ニ伊太利ニ於テハ之ヲ實行シ其他ノ諸國モ亦タ實際ニ於テハ着々此方針ヲ取ルモノ、如シ然ルニ瑞西ニ於テハ典獄ノ位置ヲ交迭

スルコト頻繁ニシテ殆ント典獄ヲシテ始メヨリ一時假寓ノ位置タルニ過キサルノ感アラシム米國モ亦タ政府ノ變更ニ伴フテ常ニ典獄ヲ交迭スルヲ例トス米國ニ於ケル監獄改良事業ノ漸次退歩ノ傾向アルヲ見ル所以ニシテ既ニ前章監獄歴史ノ條下ニ之ヲ詳述セリ

典獄直接ノ補助官トシテ往々副典獄ナルモノヲ設ケテ之ヲ大監獄ニ配置スルモノアリ英國佛國瑞西白耳義及ヒ伊太利ノ如キ即チ是レナリ我國ニ於テモ曾テ副典獄ノ設ケアリシカ今日ニ在テハ全ク之ヲ廢止スルニ至レリ但シ北海道集治監ニ於ケル分監長ナルモノハ表面上或ハ副典獄ノ如キモノナリト雖モ實際ニ於テハ大監獄ノ署長即チ典獄トシテ之ヲ見ルヲ得ヘシ但分監長ハ高等官トシ其官等ハ八等ヨリ六等ニ至ル其他又歐米諸國ニ於テハ精神的教養ノ事分ツテ之ヲ德育(教化)及ヒ智育教育トシ僧侶及ヒ教師ノ官職ヲ設ケテ各別ニ之ヲ分掌セシムルヲ例トス

監獄ニハ監獄官吏ノ外尙ホ一定ノ吏員ヲ置テ其事務ヲ補助セシム之

軍隊補助

ヲ總稱シテ備員ト名ツク授業手、女監取締、押丁、其他普通ニ所謂備員ナルモノ即チ是レナリ今日ニアツテハ教誨師モ亦タ備員トシテ之ヲ認メサルヲ得ス但集治監ニハ押丁ヲ置カス地方監獄亦タ之ヲ置クハ一ノ便宜的變例タルニ過キス(廿七年内務省訓令第一號第三項)獨逸ニ於テハ監獄官吏及附屬備員ノ外、尙ホ軍隊ヲシテ監獄外部ノ警護ニ從事セシム此場合ニ於テハ士官及ヒ兵卒モ亦タ監獄事務補助吏員ノ一部トシテ之ヲ見ルヘキナリ蓋シ軍隊補助ノコトハ監獄管理上利便ヲ得ルコト少小ニアラス我國ニ於テモ或ル一二ノ監獄(集治監)ニ少數ノ憲兵ヲ配置スルモノアリ吾人ハ尙ホ其範圍ヲ擴張シテ少クモ多數ノ拘禁囚ヲ有スル所ノ大監獄(殊ニ北海道集治監、大坂府監獄ノ如キ)ニハ多少ノ軍隊ヲ派遣シテ其外部ノ警護事務ヲ補助スルニ至ラシメンコトヲ希望ス

普國ニ於テハ典獄ノ外、監獄官吏ヲ別ツテ高級官吏及ヒ下級官吏ノ二種トナシ、理事、書記、教師、教誨師及ヒ監獄醫ヲ高級官吏トシ、看守長、監長、看守、授業手及ヒ女監取締、女看守ヲ下級官吏トス而シテ其下級官吏ナルモノハ恰カモ我國ニ於ケル普通備員ノ如キ資格ヲ與ヘ純然タル官吏トシテ之ヲ待遇セサルモノ、如シ

制度如何ニ完全ナルモ構造如何ニ整備スルモ若シ監獄官吏其人ヲ得ルニ非サレハ終ニ能ク其効ヲ全フシ能ハサルヘキハ論ヲ俟タス是ヲ以テ監獄官吏ハ其高級タルト下級タルニ論ナク總ヘテ一面ニハ成ルヘク其位置及ヒ支給俸給、恩給、遺族扶助等ヲ安全且ツ優厚ニシ、一面、大ニ其健康及ヒ能力ヲ精驗スル所ナカルヘカラス其位置ヲ低クシ其支給ヲ薄クシテ之ヲ待タン乎、到底完全ナル高等人物ヲ得テ此ニ就任セシメ能フヘカラス將タ又健康及ヒ能力ノ精驗ニ欠クル所アラン乎、監獄ハ終ニ朽敗賤劣ナル老物、廢人其他アラユル下等人物ノ養育院タルニ至ルヲ免カレス

官吏採用法

第四節 官吏採用法

監獄官吏ハ特別ノ技能ト熟練ヲ要ス是ヲ以テ其任用法ノ如キモ亦タ

特別ノ規定ヲ設ケテ之レニ適用スル所ナクハアルヘカラス是レ即チ典獄及ヒ集治監分監長並ヒニ看守長ニ就テハ特別任用例ノ規定アリ(廿三年勅令第百十二號同第百十三號及同第二百二十七號參看看守ニ對シテモ亦タ特別採用規則(明治二十六年內務省訓令第二十六號)ノ適用アル所以ナリ然ルニ獨リ書記ハ任用ニ就テハ普通文官ハ任用トモ異ル所アラズ欠點ト謂ハサルヲ得ス監獄官吏ノ任用ニ就テハ歐洲諸國ニ在ツテ殊ニ最モ慎重ノ注意ヲ用フル所アルモノ、如シ普國、バイエルン、白耳義等諸國ノ如キハ典獄ハ通例、理事書記等ヨリ之ヲ推薦スルノ方針ヲ取り理事及ヒ書記ハ先ツ相當ノ資格アル志願者ヲ試驗シテ之ヲ見習トシ三箇月以上實務ニ練習セシメタル上ニ於テ更ラニ再ヒ精密ナル試験ヲ執行シ及第シタル者ハ則チ試補トシテ之ヲ任用シ欠員アルヲ俟テ始メテ本官即チ理事若クハ書記ニ任命ス伊太利ニ於テハ監獄官吏修養練習ニカテ盡スコト最モ深ク本官トシテ採用スルノ前、先ツ學生年齡ハ十八歳以上三十歳以下トナシ高等中學ノ科程ヲ

看守ノ採用

卒業シタル者ナルヲ要ストシテ少クモ六箇月以上監獄ニ於テ學術及ヒ實務ニ練習セシメタル上ニ於テ試験ヲ行ヒ及第シタル者ヲ以テ試補トナシ實務專修ノ後更ラニ一箇年以上ヲ經テ最後ノ試験ヲ執行シ其及第者ヲ以テ始メテ之ヲ本官書記ニ任用ス普國ニ於テハ近來專ハラ軍人ヨリ監獄官吏ヲ採用スルノ方針ヲ取レリ蓋シ軍人ハ獨リ監獄官吏ノ具備スヘキ諸般必要ノ能力ヲ修養シアルノミナラス一方ニハマタ恩給等ノ點ニ於テ大ニ國庫ニ節減ヲ與フル所アルヲ以テナリ戒護官吏(殊ニ看守)ハ之ヲ本務ニ任用スルハ前ニ於テ必ラス先ツ之レニ一定ノ教習ヲ施スコトヲ要ス但シ如何ナル種類ノ階級ヨリ之ヲ撰擇スルヲ要スヘキカ將タ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ教習シ任用スルヲ適當トスヘキカノ問題ニ就テハ尙ホ未タ區々ノ意見アルヲ免カレス曩キニストツクフアルムニ於テ開設シタル萬國監獄會議ニ於テモ深ク此問題ニ就テ討議スル所アリシカ終ニ一定ノ決議ヲ見ルニ至ラス或ハ曰ク看守ハ須ラク軍人ヨリ之ヲ採用スルヲ要ス或ハ曰ク職工ヨ

リ之ヲ任命スルヲ要ス或ハ曰ク教會出身ノ篤志家ヨリ之ヲ撰擇スルヲ要スト蓋シ軍人ハ紀律執行ノ職ニ適スルモ作業督勵ノ任ニ適セス職工ハ作業督勵ノ任ニ適スルモ紀律執行ノ職ニ適セス教會出身ノ人物ハ献身以テ能ク改良感化ノ難務ニ熱注スル所アルモ紀律ヲ執行シ作業ヲ督勵スルハ其短所タルヲ免カレヌ要スルニ全キヲ或ル限局シタル一種ノ階級ニ求ムルコト至難ナリト謂ハサルヲ得ス獨逸等ニ於テハ專ハラ軍人ヨリ採用スルノ方針ヲ取ルモノ、如シ蓋シ看守ニ要スル勇壯活潑ニシテ事ニ對シテ恐怖スルコトナク剛毅果斷ニシテ能ク紀律ヲ守リ命令ニ服従スルノ資性ハ軍人ノ特有スル所ナルカ故ニ之ヲ用フルトキハ少クモ此點ニ於テ更ラニ訓練養成スルノ勞ヲ省クノ利便アルヲ以テナリ之ヲ要スルニ少壯有爲成ルヘク或ル種類ノ工業ニ經驗ヲ有シ且ツ規定ノ兵役ヲ了シタル教育アル人物ヨリ之ヲ採用スルコト必要ナリト信ス

第五節 看守教習法

看守教習法

看守教習訓練ノ方法ニ就テハ或ハ試験ノ上一旦採用シタル上ニ於テ更ラニ若干ノ間教習ヲ施シ之レカ卒業ヲ俟ツテ始メテ事務ニ從事セシムルアリ(第一)或ハ先ツ志願者ヲ召募シテ之ヲ教習所ニ入學セシメ若干ノ間教習ヲ加ヘタル後ニ於テ之ヲ試験シ更ラニ其及第者ヲ撰拔シテ之ヲ採用スルモノアリ(第二)或ハ特設看守學校ノ卒業生中ヨリ之ヲ任用スルモノアリ(第三)或ハ或ル特定シタル中央模範監獄ニ於テ試用ヲ終ヘ其適任者ト認メタル者ヲ採用シテ之ヲ各監獄ニ分遣スルモノアリ(第四)我國ニ於テハ則チ第一種ノ方法ニ依リ第二種ハ則チ普國等ニ於テ之ヲ實行シ第三種ハ則チ伊太利リニユ一チアルヒレ一ウエン等諸國ニ於テ之ヲ行ヒ西班牙ニ於テハ專ハラ第四種ノ方法ニ由ツテ之ヲ實行セリ看守學校設立ノコトハ普國等ニ於テモ之レカ必要ヲ論スル者亦少カラス尤モクロ一子氏ノ如キハ之レニ反對スルノ意見ヲ有ス氏ノ所説ニ曰ク

前略蓋シ紀律ノ張弛ハ看守ノ良否ニ關スルコト大ナルカ故ニ成ル

クロ一子氏看

ヘク適當ノ人物ヲ得テ其職務ニ訓練養成スルニ至ラシメント固トヨリ必要ナリト雖凡然カモ必スシモ彼ノ伊太利等ニ於テ實行スル所ノ如ク特ニ看守學校ナルモノヲ首府(羅馬)ニ設ケ幾多ノ時日ト少カラサル費用トヲ此ニ費ヤシ若干ノ看守候補者ヲ卒業セシメテ之ヲ各監獄ニ分遣スルノ方法ヲ用フルニモ及ハサルヘシト信ス(中略)看守學校ノ旨趣若シ果シテ看守學士或ハ看守博士ヲ養成セント欲スルニアラストナラハ寧ロ最初適格ト信認スヘキ人物ヲ精選シ之ヲシテ直チニ生産的實務ニ從事セシメ其傍ラニ於テ漸次之ヲ教養シ終ニ以テ忠實老練ナル良看守タルニ至ラシムルヲ得策ナリト信ス之ヲ要スルニ予ノ主義トスル所ハ成ルヘク少數適格ノ看守ヲ用ヒテ實務ノ舉カルヲ期シ務メテ冗費ヲ省キ冗員ナカラシメ適格ノ看守ニ向ツテハ出來得ラル、丈ケ多クノ俸給ヲ給與セント欲スルニアリ薄給ヲ以テ彼ノ繁勞劇甚ノ職務ニ從事スル所ノ看守ニ備ハラシコトヲ求ム是レ我カ監獄社會ノ通弊ニシテ實際亦タ止ムヲ

得サルノ事情アリト雖凡然カモ此通弊ノ去ラサル間ハ如何ニ試験ヲ嚴ニシ如何ニ教習訓練ノ方法ヲ精密ニスルモ到底豫期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘキナリ寧ロ學校教習ノ費用ヲ移シテ之ヲ俸給増加ノ費途ニ充ツルコト反ツテ人物養成ノ策ヲ得タルモノナリト謂ハサルヲ得、概括シテ之ヲ言ヘハ予カ本問ニ對スルノ意見ハ實ニ左ノ如シ

(第一)看守志願者ハ成ルヘク現役滿期ノ下士兵卒等ノ内ヨリ之ヲ採用スルヲ要ス

(第二)最初六個月ハ見習トシテ之ヲ用ヒ實務ニ從事セシメツ、尙ホ事ニ就キ物ニ當テ懇々諭示教導スル所アルヲ要ス

(第三)見習試査ノ期間ニ於テ到底適任ナル看守トナルヘキ見込ナキ所ノ者ハ容赦ナク之ヲ解職スルコトヲ要ス

我カ看守採用規則ノ規定スル所ニ據レハ看守ハ適當ノ資格(第二條)ヲ備ヘタル志願者ノ内ニ就キ總ヘテ看守精勤證書ヲ有スル者(註ニ曾テ

限ニ在ラス此試験ノ上其合格者中ヨリ之ヲ採用スルモノトス、試験ハ体格及ヒ技藝ノ二科ニ別ツ(第三條及第四條)其所謂技藝ト稱スルモノハ普通輕易ノ筆算及ヒ刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法、監獄則、監獄則施行細則等ノ大要ニ通スルノ能力トス、是ヲ以テ見レバ看守志願者ハ別ニ或ラザルモノ、如シ然レモ看守試験ハ固ト合格試験ニシテ競争試験ニアルヲ注意アルヘキハ而シテ新タニ採用スル所ノ看守ハ先ツ教習シテ後本務ニ從事セシムルヲ要ス(二十三年十月内務省訓令第七一〇號看守教習規則標準)教習ノ期間ハ二箇月トシ一定ノ學科及ヒ實習(第三條)ノ外尙ホ見習トシテ教官(書記又ハ看守長又ハ先任看守ノ指導ヲ以テ實務ニ膺ラシムルモノトス但シ教習ノ方法順序ハ監獄ニ由テ各々其趣ヲ異ニスルモノ、如シ

看守教習ノ順序

看守教習ノ順序ハ凡ソ下記ノ如クナルヲ要ス最初先ツ專ハラ獄務ニ直接必要ノ規程ヲ教習シ次ニ受持看守(工場又ハ監房)ノ助勤トシテ其指導ノ下ニ實務ニ就ケ次ニ看守長特別監督ノ下ニ門衛、夜勤、訊問押送、(裁判所)立番等ノ職務ニ獨立從事セシメ其終ハルヲ待ツテ最後ニ庶務ニ屬スル諸般ノ事項例ヘハ名籍、行狀錄報告表等ノ記牒、領置、搜檢、洗濯押送等ニ關スル手續若クハ監房配置、食物配與等所謂内勤的事務ニ習練セシムルモノトス
授業手、女監取締、押丁等ニ就テハ別ニ一定ノ採用規則ナルモノアルヲ見ス但女監取締ハ行狀善良ニシテ四十歳以上若クハ監獄官吏ノ婦女ナル者ヲ必要トス

俸給及給助

第六節 俸給及給助

看守ハ俸給ハ通例八圓以上十圓以下トナス但教習中ノ看守ハ六圓ヲ給ス又勤続九年以上ニ及フ者ハ十二圓、十二年以上ニ渉ル者ハ十五圓マテ之ヲ増俸スルコトヲ得
看守給助ハ退職給助、傷、瘻、給助、死亡給助、療治料、祭祀料ノ五種ニ別テ勤續滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給スルモノ退職給助ト稱シ職務ノ爲メ負傷

スル者ニ終身之ヲ給スルモノ傷痕給助ト稱シ職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給スルモノ死亡給助ト稱シ職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給スルモノ療治料ト稱シ奉職中死亡スル者ニ之ヲ給スルモノ祭祀料ト稱ス而シテ其額ハ種類及ヒ情狀ニ依ツテ相同シカラス則チ退職給助ニアツテハ(一)勤績滿五年ノ者ハ一時金二十圓乃至三十圓ノ額ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓乃至五圓ヲ増給シ(二)勤績滿十年ノ者ハ年金二十五圓以上三十圓ノ額ヲ給シ滿十一年以上ハ一年毎ニ金五十錢乃至一圓ヲ増給ス傷痕給助ハ分ツテ二等トナシ(一)二等傷ヲ辨身不具トナリ自用ハ年金三十圓乃至四十圓ヲ給シ二等傷用ヲ辨身不具トナリ自用ハ年金二十圓乃至三十圓ヲ給ス死亡給助ハ(一)寡婦又ハ相續ノ孤兒アルトキハ年金三十圓乃至五十圓(二)寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシモノアルトキハ一時

賞與

五十圓乃至百圓(三)相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ廢篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五十圓乃至百圓ヲ給ス療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ同シカラス祭祀料ニアツテハ(一)奉職一年未滿ニシテ死亡スル場合ニハ一時金拾圓乃至十五圓滿一年以上一年毎ニ金三圓乃至五圓ヲ増給シ(二)職務ノ爲メ死亡スル場合ニハ前項ノ外一時金五十圓乃至百圓ヲ給與スル者トス(十五年七月太政官達第四十一號) 巡查看守給助例參觀其他職務上特ニ精勤スル場合ニ於テハ豫算定額内ニ於テ相當ノ賞與金ヲ給スルアリ尙ホ又(一)反獄ヲ鎮制スルニ當テ其功勞著シキ場合(二)自己ノ監守ニ非ラサル在監人ニシテ逃走スル者ヲ捕獲シ其功勞著シキ場合(三)監獄内ノ水火風震及ヒ流行病ニ付其功勞著シキ場合及ヒ(四)自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ性命ヲ救援シタル場合ニ於テハ警察賞與規則二十一年十月内務省訓令第二十一號)ニ據リ功勞ノ適度ニ應シ金十五圓以下ヲ賞與スルノ規定アリ

看守休職

看守休職ノ期間ハ月俸三分ノ一ニ該當スル額ヲ給與スルモノトス(明

普國看守ノ俸給

治廿三年勅令第二百二十八號及全第二百二十九號參看普國ニ於ケル看守俸給ノ額ハ通例凡ソ八百マルク「馬克」ハ凡ソ四十六錢餘以上千二百マルク以下トシ別ニ官宅ハ無稅ニテ之ヲ貸與シ若シ貸與セサルトキハ相當ノ借家料ヲ給與スルモノトス其他恩給、遺族扶助等ノコト亦タ之レニ準シテ總テ比較的頗フル優厚ナルモノ、如シ

典獄ノ俸給

女監取締ノ俸給ハ四圓以上十五圓以下トシ押丁ハ俸給ハ四圓以上八圓以下トシ總ヘテ日給トス普國ニ於ケル女監取締ノ俸給ハ通例六百マルクトス典獄ノ俸給ハ監獄及ヒ地方ニ由リテ其額ヲ異ニス則チ北海道集治監典獄ハ年俸千八百圓、東京及三池集治監典獄ハ千四百圓、宮城集治監及ヒ警視廳典獄ハ一千圓、大坂、京都ノ二府及ヒ神奈川、宮城、新潟、兵庫、廣島、長崎、熊本七縣並ヒニ北海道集治監分監長ハ八百圓但大阪府典獄ハ千圓ヲ給スルコトヲ得其他各縣ノ典獄ハ六百圓トス

書記看守長等俸給

書記看守長及ヒ判任監獄醫ノ俸給ハ普通判任官ノ例ニ依ル則チ通例月俸十二圓以上六十圓トシ特別ノ場合ニ於テハ十二圓以下六圓迄ノ

額ヲ給シ又六十圓以上七十五圓マテ増額セシムルコトヲ得ルモノトス然ルニ今日ノ實際ニ於テハ書記看守長ノ官等ハ之ヲ他ノ普通判任官ニ比シ割合ニ甚ク低ク從テ其俸給ノ如キモ極メテ薄少ノ平均額タルヲ免カレス適格ノ人物ヲ得ルノ道ニ非ラサルコト論ヲ俟タズ殊ニ判任待遇ノ監獄醫ノ如キ其俸給ニ一定ノ規程ナク且ツ地方議會ノ自由討議ニ屬スル豫算額内ニ於テ之ヲ支給セサルヘカラサルカ故ニ甚シキハ則チ十圓以内ノ薄給ヲ以テ之ヲ任用スルノ止ムヲ得サルモノ少カラス監獄衛生ノ我國ニ於テ未ダ長速ノ進歩ヲ見ルニ至ル能ハサルハ偶然ナラサルヲ知ルヘキナリ

獨逸諸國ニ於

判任官以上ノ監獄官吏ニ就テハ一般文官ト同シク總ヘテ官吏恩給法(二十三年六月法律第四十三號)官吏遺族扶助法(二十三年六月法律第四十四號)等ヲ以テ之レニ適用シ別ニ監獄官吏トシテノ特別給助法ノ規定セラル、モノアルヲ見ス

獨逸諸國ニ於ケル典獄以下監獄官吏ノ俸給普國ニ在ツテハ典獄三千

ケル典獄以下
ノ俸給

二百四十

六百馬克乃至四千八百馬克官無稅監獄醫俸給若ク九百馬克乃至二千二百馬克特別ノ場合ニ於テハ三教師千五百馬克乃至二千二百馬克若クハ官舍稅宅料ヲ教誨師二千四百馬克乃至三千六百馬克官無稅宅料ヲ給スハ書記及ヒ理事千八百馬克乃至三千三百馬克官無稅宅料ヲ給スハ看守長千二百馬克乃至千六百五十馬克パーテンニ在ツテハ典獄六千二百馬克以下無稅官教師千八百馬克乃至三千六百馬克官無稅教誨師千八百馬克乃至四千五百馬克官無稅書記及ヒ理事二千馬克乃至四千二百馬克官無稅看守長千四百馬克乃至二千二百馬克官無稅ニシテハンブルヒニ在ツテハ典獄ニ對シ俸給八千四百馬克凡我三千八百六十四圓餘ノ外尙ホ無稅官舍ヲ以テ之レニ附屬セシム

監獄諸般ノ事務ハ總ヘテ之レニ熟達シ且ツ任命セラレタル責任アル行政官吏若クハ準官吏ヲシテ之ヲ掌理セシムルヲ本則トス然ルニ實際ニ於テハ往々官吏若クハ準官吏ニアラサル者則チ四人僧侶慈善家、受負人又ハ保護會社員等ヲシテ之レニ關與セシムルノ變例ヲ用フル

ノ場合ナキニアラス僧侶ハ則チ四人ニ對シテ福音ヲ普及シ之レカ感化ヲ助成セシメンカ爲メニ慈善家又ハ保護會社員ハ他日四人ヲ救濟收養スルノ便宜ヲ得ンカ爲メニ受負人若クハ其代理者授業手ハ作業上、囚人ヲ督勵指導スル所アランカ爲メニ或ハ監房ヲ訪問シ或ハ工場ニ臨監シ或ハ關係書類ノ調査ヲ爲ス紀律ノ體面ヲ保ツニ不可ナキニアラサレモ治獄終局ノ目的ヲ達スル上ニ於テハ便宜上、マタ必要止ムヲ得サルコトナリト謂ハサルヲ得ス但必要止ムヲ得サルノ事項ハ成ルヘク之ヲ限制スルノ注意アルヲ要スルコト勿論ナリ歐米諸國ニ於テハ一時大ニ之レカ制限ヲ寬舒スル所アリシカ爲メニ弊害亦タ從テ百出シ終ニ近來成ルヘク緊縮ニ之ヲ制限スルノ方針ヲ採ルニ至リタルモノ、如シ其他マタ囚人ヲ獄務ノ一部ニ使用スルコト一時ハ我國ニ於テモ亦タ之ヲ實行シ國事犯其他或ル特別ナル罪質ノ囚人ヲ擢拔シテ教授取締等ノ任務ニ當ラシメ或ハ傳告者誘工者等ノ名義ヲ付シテ殆ント官吏的ニ之ヲ待遇セシコトアリト雖モ今日ニ於テハ既ニ全

ク之ヲ禁絶セリ歐米諸國殊ニ佛國獨逸米國奧本利等ニ於テハ今尙ホ之ヲ慣用スルモノ少カラス然レモ其有害ナルコトハ既ニ監獄學上動カスベカラサルハ定論ニ屬スゼーバツハ氏曰ク普國ニ於テハ四人ヲシテ或ル輕易ノ管理事務ニ助勤セシムルコトアリ然レモ余ハ之ヲ以テ行刑至正至嚴ノ旨義ニ戻ルモノナリト信ス蓋シ斯クノ如キ便法ヲ用フル所以ノモノハ所謂經費節減ノ目的ヲ達スルガ爲メタルニ外ナラズシテ決シテ以テ模範トナスヘカラス云云ト

第七節 監獄官吏ノ職務

監獄官吏ノ職務

〔甲〕 典獄

典獄ハ監獄ノ首長トナリ監獄長官(内務大臣又ハ地方長官)ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理スルノ職務ヲ有ス(集治監、北海道廳、警視廳地方官々制)而シテ其職務ノ重ナルモノヲ擧グレバ則チ左ノ如シ

(一) 營造物ノ保全及ヒ監内檢束規律ノ勵行ヲ統督ス

(二) 部下ノ吏員ヲ督勵シ之ヲシテ適法ニ關係諸般ノ事務ヲ執行シ且ツ吏員ヲシテ其事務ニ訓練養成セシムルノ責任ヲ有ス

(三) 個人的遇囚ノ旨義ニ依リ苛酷ニ流レズ寛容ニ失セス至正且ツ至嚴ナル紀律ノ範圍内ニ於テ自由ヲ剝奪シ之レニ由ツテ四人ヲシテ遷善悔悟終ニ以テ良民ニ復歸セシムルノ責任ヲ有ス出獄人保護ノ事亦タ其責任トシテ之レカ普及ニ盡瘁スル所ナクンハアルヘカラス

監獄事務ハ統一ヲ期スルコトハ典獄主要ノ責任ニ屬ス然ルニ往々ニシテ或ハ監獄會計ノ事務ヲ以テ之ヲ典獄統督ノ外ニ置キ特ニ他ノ行政部内ノ官吏ヲシテ之ヲ管掌セシムルモノアルカ如キハ決シテ監獄事務統一ヲ期スル所以ノ道ニアラス獨リ統一ヲ期スル能ハサルノミナラス擢突共謀複雜、緩慢不紀律、不經濟等ノ弊害亦タ之レニ從ツテ伴生スルヲ免カレスヒ等ノ先例以テ鑑ミルヘシ或ハ又監獄醫務ヲ以テ別ニ典獄管督以外ニ獨立セシムルモノ少カラズ是レ亦タ百弊ノ籠

監獄官會議

肇スル所以ノ原由タラスンハアラサルナリ
 獄務諸般ノ統一ヲ期シ且ツ部下ノ吏員ヲシテ各々適法ニ其職任ノアル所ヲ執行シ併セテ又之レヲシテ其事務ニ訓練養成スル所アラシメ
 ンガ爲メニハ典獄ハ常ニ其傍ラニ監獄官會議ナル集合體ヲ設備スル
 コトヲ要ス監獄官會議ハ書記、看守長、監獄醫及ヒ教誨師ヲ以テ之ヲ組
 織シ典獄ハ則チ會長トナツテ議事ニ關スル一切ノ事項ヲ總轄ス、庶務
 遇囚其他治獄上諸般重要ノ事項ハ總ヘテ諮問案トシテ之ヲ本會議ニ
 提出シ官吏ヲシテ之レニ對シ各々其懷抱スル所ノ意見ヲ開陳セシメ
 其採ルヘキモノハ則チ之ヲ採リ不可ナルモノハ則チ之ヲ教訓ス其他
 又典獄ハ本會議ニ於テ一般官吏ノ知ルヲ要スル事項ニシテ説明ヲ要
 スヘキモノハ之ヲ説明シ尙ホ其主義意見ノアル所ヲ參酌シテ之ヲ敷
 演ス

書記

〔乙〕書記

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ又支署長トナツテ上官ノ指揮

事務ノ分掌

ヲ承ケ其支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督スルノ職務ヲ有
 ス(官制)十四年三月內務省達乙第十五號書記看守長以下分掌例ノ規定
 スル所ニ據ツテ之ヲ見レバ書記ハ在監人ノ名籍ヲ調理シ囚徒ノ携有
 物ヲ檢收シ工業ニ關スル庶用ヲ辨シ簿計其他ノ署務ヲ分掌スルモノ
 トスト之ヲ要スルニ書記ノ管掌ニ屬スヘキ主要ノ職務ハ文書ノ往復
 保存、吏員ノ身分、監獄ノ構造、名籍、刑期、願訴、特赦、假出獄、領置、給與、差入品、
 教誨、教育統計、會議、會計、經理、作業等ニ關スル事項則チ是レナリ
 監獄事務ノ分掌ハ之ヲ別ツテ四課第一課第二課第三課第四課トナシ其第一課及
 ヒ第三課ノ事務ハ書記ヲシテ之ヲ管掌セシム二十六年十一月內務大
 臣訓令第六七五號監獄
 署分課會計、經理、作業等ニ關スル事項ハ總ヘテ併一シテ之ヲ第三課勤
 務書記ノ主管トス、教育及ヒ教誨ニ關スル事項ヲ以テ之ヲ第一課勤務
 書記ノ主管ニ屬セシメタルコト吾人ハ其理由ノアル所ヲ知ルニ苦ル
 シマサルヲ得ス何トナレバ監獄則既ニ教誨則チ改過遷善ノ道ヲ講ス
 ルコトヲ以テ之ヲ教誨師ノ主管タラシムヘキ明文ヲ掲ケ分掌例亦タ

教誨及ヒ教育ニ關スル事項ヲ以テ之ヲ教誨師ノ職務タラシムヘキコ
 トヲ規定シアルヲ以テマダ更ラニ書記ヲシテ之レニ主管セシムルノ
 必要アラサルヲ以テナリニ就師ヲ改正官制ヨリ削除スル所アリ不可若
 シ夫レ直接ニ書記ヲシテ之レニ主管セシムルニアラサルモ唯々間接
 ニ第一課長勤務ノ書記ヲシテ之ヲ管理セシムルニ過ギズト謂ハン乎
 抑モ亦タ治獄上最モ必要機關ノ一ニ屬スル精神教養ノ事項ヲ輕蔑視
 スルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス精神教養ノ事他動的、大ニ之レガ
 振興ヲ努ムル所アルモ尙ホ遲々トシテ其効ノ舉カル能ハサルモノア
 ルヲ憂フ殊ニ我國ニ於テ最モ其甚シキモノアルヲ感ス然ルニ今ハ則
 チ此クノ如シ教誨否ナ監獄事業前途ノ爲メ深ク慨嘆ニ堪ヘサルナリ
 普國ニ於テハ理事ノ分掌ヲ四課^{業務、會計、醫、及ヒ戒護}ニ別チ書記、醫師、教誨師ヲ
 シテ各々獨立ノ一課ヲ組織セシム書記ハ帳簿、統計類ヲ處理シ^{但シ會計}
^{業務及ヒ一部戒護ニ在ラズ}及ヒ記録并ヒニ書類ノ往復ニ關スルノ事
 務ヲ主管シ^{會計、事務、及ヒ戒護}經理用度理事ハ在監人ノ給養ニ關スル用度事務及ヒ監獄

備品、消耗品等ノ管理ニ專任シ會計理事ハ監獄ノ金庫及ヒ計算ニ關ス
 ル事務ヲ管掌シ作業理事ハ監獄作業ニ關スル總ヘテノ事項及ヒ之レ
 ニ關スル帳簿計算ノ事務ヲ管掌スルモノトス之ヲ要スルニ各課互ヒ
 ニ劃然タル分掌ノ境界ヲ立テ各々其專任事務ノ舉カランコトヲ努ム
 其結果、獨リ事務ノ舉ガルヲ見ルノ利益アルノミナラズ監督亦タ之レ
 カ爲メニ輕便ヲ感シ微疵小瑕モ忽チ能ク之ヲ發見スルヲ得ルノ利益
 アリ、典獄ハ則チ其上ニ立ツテ常ニ統一ヲ揮操縱スル所アリ分掌、嚴
 ナルモ敢テ之レカ爲メ官吏ノ能力ヲ一部局ニ編成セシムルカ如キコ
 トナク其間、自ラマタ相融通スル所ナキニアラズ甲ハ能ク乙ノ分掌事
 務ヲ代辨シ丙、マダ丁ノ補欠ニ支障スル所アルヲ見テ整然、相紊レズ渾
 然相通々寔トニ以テ摸範トナスニ足ルヘキモノアリト信ズ我が分課
 標準ニ於テ會計、經理、作業等何レモ獨立重要ノ事務ヲ以テ之ヲ第三課
 ハ下ニ併合シ一ノ課長書記ヲシテ之レガ主管ノ責任ヲ充タシメント
 欲スルカ如キハ抑モ事ノ本末輕重ヲ過マルノ甚シキモノト謂ハサル

ヲ得、

看守長

〔丙〕 看守長

看守長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督スルモ
 ノトス(官制書記、看守長以下分掌例ノ規定スル所ニ據レハ看守長ハ(一)
 看守授業手、押丁ノ勤惰ヲ監督シ囚徒ノ出入、増減、病故及ヒ其犯則ノ有
 無ヲ稽查シ監房内外ノ洒掃ヲ査閲シ飲食ノ配與器具ノ點檢等ニ臨監
 ス(二)服役ノ四ニ課スル工業ノ科程ヲ典獄ニ稟議シ其作業ヲ督勵スル
 ノ職務ヲ有ス尤モ右分掌例規定スル所ノモノ、内ニハ分課標準等ノ
 發布ニ依リ多少變更ヲ見ルニ至リタルモノナキニ非ラス現今ニ於テ
 看守長主管ノ職務トスル所ハ、監獄ノ戒護、看守以下、戒護吏員ハ
 監督、試験、教習、配置、在監人ノ行狀、賞罰並ニ書信接見等ニ關スル事項即
 チ是レナリ、
 郵見ニ據レハ書記、看守長ノ區別ハ之ヲ廢シ單ニ書記若クハ看守長ナ
 ル一職名ノ下ニ之ヲ併一セシムルヲ適當ナリト信ス何トナレハ監獄

管理ノ事務ハ一トシテ廣義ノ意味ニ於ケル戒護事項ニ關係ヲ有セザ
 ルモノナク且ツ所謂戒護事務ト稱スル所ノモノ亦タ單獨ニ外部檢束
 ノ事項ノミニ偏局スル能ハサルヘキヲ以テナリ

看守長主管ノ事務ヲ細別スル所左ノ如シ

- (一) 在監人ノ檢束、監獄内部ノ紀律ヲ確保シ並ヒニ建造物ノ整備ヲ監督スルコト

- (二) 監房工場ニ於ケル在監人適法ノ配置ヲ管掌シ適實且ツ公平ニ在監人行狀ノ勘査ヲ行ヒ並ヒニ之レニ對スル賞罰執行ノ任ニ主
 管タルヘキコト

- (三) 看守志願者ノ採用試験ヲ執行シ合格上任者ノ教習ニ任ジ(書記
 モ亦タ教官ニ任セララル、コトヲ得)上官ニ對シテ其適否決定ノ意
 見ヲ提出スルコト

- (四) 看守ノ職務及ヒ品行ヲ監督シ且ツ之レヲシテ其職務ニ熟練セ
 シムルカ爲メニ常ニ周到慎密ナル點檢訓示ヲ施行スヘキコト

(五) 上官ニ對シ毎朝、在監人現在員異動表ヲ提出シ且ツ勤務中ニ於

ケル細大事故ノ有無ヲ報告スヘキコト

(六) 在監人書信及ヒ接見ニ關スル事項ニ主管スヘキコト

(七) 監房、工場其他監獄内外ノ靜謐、秩序及ヒ清潔ニ責任ヲ有スルコ

ト
書信ニ關スル事項ヲ以テ之ヲ看守長主管ノ事務ニ屬セシムルノコト
ハ吾人未タ俄カニ之ヲ贊成スル能ハス或ハ看守長ハ戒護及ヒ在監人
行狀勘査ノコトニ任スルカ故ニ從テ又之レニ直接ノ關係ヲ有スル書
信事項ニ主管セシムルノ必要アリト謂ハンカ然カモ貴重ナル書信檢
閲權ノ性質上ヨリ之ヲ見レハ看守長ヲシテ其幾分ニ關與セシムルコ
ト決シテ事体ノ宜シキヲ得タルモノナリトハ謂フヘカラス止ムナク
ハ寧ロ書記(第一課長若クハ教誨師ヲシテ之レニ主管セシムルヲ適
當ナリト信ス
之ヲ要スルニ看守長ノ職務ハ坐止的ニアラスシテ行動的ナリ、單獨

監獄醫及教誨師

看守ノ職務

ニアラスシテ合成体ナリ、巡邏查察ハ成ルヘク頻繁ナルヲ要シ夜間マ
タ不時ニ之ヲ執行スヘキコト勿論ナリ訓示警戒ハ機ヲ過マラスシテ
慎重且ツ懇切ニ之ヲ行ヒ幾百ノ衆アルモ行動ハ則チ同規一律ニ出ツ
ルヲ期シ監獄ヲシテ實ニ所謂靜ナルコト林ノ如ク動カサルコト山ノ
如クナラシムヘキコト看守長主要ノ任務ナリト謂フヘシ

(丁) 監獄醫及教誨師ノ職務

編纂上ノ便ヲ計リ監獄醫ノ職務ハ第十三章第一節ニ又教誨師ノ職務
ハ第十四章第二節ニ於テ記述スル所アルヲ以テ此ニハ之ヲ省略ス

(戊) 看守ノ職務

看守以下傭人分掌例ヲ以テ規定スル所ニ據ツテ之ヲ見ルニ看守ノ職
務ハ大体監獄ノ戒護ニ任スルニアリト謂フヲ得ヘシ今其要項ヲ擧ク
レハ第一、囚人ノ監察第二、獄則及ヒ教令ノ執行第三、監舎ノ警護第四、器
具ノ整理第五、押丁及ヒ授業手ノ視察等凡ヘテ外部ノ消極的ニ屬スル
職務ニ係ルモノ則チ是レナリ

看守ハ最も多ク且ツ密ニ囚人ニ直接スルモノナルカ故ニタトヒ勸化
教導ノ事ハ其任務ニ非ラストスルモ少クモ其身ヲ以テ常ニ囚人ノ龜
鑑タラシムルコトヲ務メスンハアル可ラスサレハ職務ニ服スルトキハ
勿論平素ト雖凡殊ニ言行ヲ慎ミ苟クモ剛勇慈愛、廉直、嚴正、勉強等ノ美
徳ヲ傷クルカ如キ所爲ナキヲ要ス若シ些少タモ汚醜ノ行爲アルトキ
ハ畜タニ其地位ノ尊嚴ヲ失墜スルノ恐レアルノミナラス其影相ハ忽
チ囚人ノ眼鏡ニ映シテ數倍ノ大ヲ呈シ刑ノ結果ハ偶マ罪惡ヲ養成ス
ルニ足リ改良感化ノ目的ハ終ニ之ヲ達スル能ハサルニ至ルヘキナリ

第一條

晝夜交番シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ

監房又ハ工場等ノ警守ハ豫メ一看守ノ受持ツヘキ場所ヲ一定シテ成
ルヘク屢々之ヲ交代セシメサルヲ善シトス是レ看守ヲシテ容易ニ在
監人ノ郷貫氏名、罪質、刑名、年齢其他ノ要項ヲ詳悉スルノ便ヲ得テ其
視察ヲ周到ナラシメンカ爲メナリ尤モ餘リ長ク一定ノ受持場ヲ擔當

セシムルモ亦タ得策ニアラス時々ハ交代ヲ命ジテ其囚人ト相親証ス
ルノ弊ヲ防キ且ツ凡ヘテノ看守ヲシテ結局全監ノ囚情ニ通曉スルニ
至ラシムルコト必要ナリ

第二條

看守長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ

監獄則ニ據レハ人員點檢ノコトハ唯々就役ノ際及ヒ歸監ノ時ニ限ルカ
如クナレバ監獄則第四十三條參看實際ニ於テハ尙ホ此他ニ點檢ヲ要
スルノ場合少カラス或ハ房内ニ於テシ或ハ房外ニ於テ之ヲ行フ而シ
テ其之ヲ行フノ場合ニ於テハ獨リ員數ヲ點檢スルノミヲ以テ充分ト
ナスヘカラス併セテ其人ヲ點檢スルコト亦タ必要ナリ是レ員數ハ備ハ
ルトモ或ハ他囚ノ私カニ其監房ヲ交換シ居ルヤモ計ラレサレハナリ

第三條

看守長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具ヲ點檢スヘシ

監房ハ時々嚴重ニ之ヲ檢査スルコト最モ必要ナリ彼ノ囚人ノ往々監房

ヲ破逸スルコアルハ畢竟スルニ之カ検査ヲ怠ルカ又ハ粗漏ニ付スルノ結果タラスンハアラスタトヒ左マテ堅牢ナラサルノ監房ト雖モ若シ頻々嚴重ニ之ヲ検査スルニ於テハ之ヲ破逸スルコト固トヨリ容易ナラサルヘシ況ンヤ堅牢ノ監房ニ於テヲヤ尤モ監房検査ノ目的ハ特リ利器等ヲ隱匿シ又ハ其他何等カノ方法ヲ以テ窃カニ破逸ヲ計畫スルノ非行ヲ防クニアルノミナラス其他マテ監房内ニ入ルヘカラサル凡ヘテノ不正品ノ有無ヲ檢シ併セテ監房構造ノ完否ヲ査閲スルニアリトス監獄則第九條ニ典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ云々トアリ本條ハ則チ之ニ據リ看守ヲシテ典獄又ハ看守長ノ指揮ヲ受ケ其立會ヲ得テ監房ヲ検査セシムルコトヲ規定シタルモノナリ故ニ其時ト度數ハ豫メ之ヲ一定シアルニアラス典獄若クハ看守長ニ於テ必要ノ時機ヲ見計ラヒ日夜不時ニ最モ有効ナル方法ヲ以テ最モ嚴密ニ之ヲ施行セシムヘキナリ若シ監房検査ヲ唯々儀式上タケニ止マラシムルカ如クナラハ寧ロ始メヨリ之ヲ施行セサルノ反ツテ安全ナルニ

如カサルナリ

常置ノ器具トハ監獄則第七十一條ニ列記スル所ノ貯水器飲器唾壺便器小帶洗手盆等ヲ皆稱シタルモノナリ

第四條

在監人ノ鄉貫氏名年齢罪質刑名等ヲ記帳スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長ノ檢閲ニ供スヘシ

此ニ在監人トアルハ各看守ノ警守受持場内ニ於ケル在監人ト解スルモ可ナランカ全監囚徒ノ鄉貫氏名年齢罪質等ヲ詳悉スルコト固トヨリ言フヘクシテ行フヘカラサルノ難事ナリト謂ハサルヲ得ス

看守ハ日々囚人ニ直接シテ其行狀ヲ視察スルモノナルカ故ニ常ニ其者ノ鄉貫氏名年齢罪質刑名ハ勿論身分職業性質及ヒ其他ノ身上ニ關スル要項ヲ詳悉シテ之ヲ熟知シ居ルコト必要ナリ若シ之ヲ詳悉スルニ非サレハ到底真正ノ行狀ヲ視察スルコト能ハサルヘシ又看守ハ毎日其視察シタル行狀ヲ手帳ニ詳記シテ看守長ノ檢閲ニ供スヘシ唯々某ノ

行狀ハ可ナリトカ又ハ否ナリトカ云フカ如キ簡單ナル記載ニテハ不都合ナリ宜シク其共ニ其狀況ヲ詳記スヘシ蓋シ看守ノ視察シタル所ノモノハ最モ有力ナル考據ト認ムヘキモノナレハナリ

第五條

在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ

本條ニハ在監人トアリテ次ノ第六條ニハ服役者トアリ然レモ其意義ニ於テハ別ニ廣狹ノ差異アルニ非スト信ス本條ニハ科程ノ了否ヲ點檢ス可シトアリ故ニ施行細則第四十七條ニ據リ午飯ニ就カシムルノ際其大半ノ了否ヲ點檢スルハ勿論尙ホ午後罷役ノ際ニモ更ラニ其一日全科程ノ了否ヲ點檢ス可キナリ若シ教令ニ違ヒ偷懈怠役等ノ事實アラハ宜シク獄則違犯ヲ以テ之ヲ處分スヘキ者ナリ尤モ科程檢査ハ特別處罰ヲ以テ目的トスルノミニアラス又之ニ據ツテ各四ノ科程ノ適否ヲ檢シ若シ輕キニ失スレハ之ヲ重クシ將タ過重ナレハ輕減スルノ道ヲ立テ尙ホ又服役ノ勉否ニ依リテ其品行ノ良否ヲ勘査スルニアリ

第六條

服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ

交換シ或ハ濫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ

此ニ服役者トアルハ作業ニ服スル凡ヘテノ在監人ヲ指稱シタルモノナリト思ハル若シ然ラハ服役ノ二字ハ少シク穩當ナラサルヤノ感ナキニ非ス作業ニ關セサル他事ヲ交談スルヲ禁スルハ勿論ノコナレトモタトヒ作業ニ關係アルコトニテモ囚人相互ノ交談ハ必要ナキ限り成ルヘク之ヲ制限スルノ精神ナルヘキナリ又濫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシトアレモ是レハ當然言フ迄モナキコトニテ寧ロ濫リニ其坐席ヲ離レシムルカ如キコトアルヘカラスト言フヲ適當ナリト信ス

第七條

新ニ入監スル者アルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後

監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

通身ノ搜檢ハ新入監ノ際及ヒ入監後監房ヲ出入スル時ニ於テ之ヲ行
フモノトス而シテ其入監ノ際ニ於ケルモノハ獨リ利器其他ノ夾帶ヲ
拒クヲ以テ目的トスルノミニアラス併セテ四人ノ相貌例ヘハ面體眉
毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘤黑痣癩風
天鯨創癩腋臭ノ有無及ヒ音聲ノ高低等凡ヘテ特殊ノ要點ヲ看察シテ
之ヲ各籍ニ記入スルカ爲ニ施行スルモノトス搜檢ノ一ハ最モ忽諾ニ
付スヘカラサル要件ニシテ其關係スル所極ハメテ大ナリ故ニ先キニ
十四年三月内務省乙第十五號達之ヲ以テ押丁ノ掌務トナセシ者ヲ改
メテ爾後看守本然ノ任務トナシ押丁ハ唯タ助手トシテ之レニ與ラシ
ムルトトナセシハ最モ其事體ノ宜シキヲ得タルモノナリト謂フヘシ
搜檢ハ最モ敏捷ニ熟練ニ且ツ綿密ニ之ヲ行ハサルヘカラス敏捷ナラ
サレハ時間ヲ浪費シ且ツ囚人ヲシテ徒ラニ寒風又ハ炎天ニ其身ヲ曝
ラシ爲メニ餘分ノ苦痛ヲ感セシムルノ恐レアリ又綿密ナラサレハ以

テ物品ノ隱蔽ヲ拒クニ足ラス終ニ搜檢ノ目的ヲ達スルコト能ザルナ
リ未決者殊ニ身分アル者ノ搜檢ハ殊ニ最モ注意シテ之ヲ行ヒ徒ラニ
其感覺ヲ害シ苦悶ヲ感セシムルカ如キヲナキヲ要ス

第八條

監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
監門守衛ハ其職亦タ輕シト云フヘカラス現ニ獨逸等ニ於テハ看守中
ノ上級ナル者ヲ撰ンテ此職ニ充ツルト謂ヘリ監門守衛ノ看守モ亦タ
其手帳ニ日々見聞スル所ノ出來事ヲ詳記シ以テ看守長ノ檢閱ニ供ス
ヘキモノナリ

第九條

監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
監房ノ開閉ハ看守ノ掌ル所ナレトモ一定ノ規程アルノ外ハ夜間晝間
トモ上官ノ命令アルニ非ラサレハ濫リニ之ヲ開閉スル能ハサルヲ勿
論ナリ

第十條

工場器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

工場器械庫其他ニアル物件殊ニ價直ノ貴キモノ若クハ危險ノ虞アルモノハ最も嚴重ニ之カ取締ヲナシ蓄タニ其散失ヲ防クノミナラス併セテ害用隱匿破損等ノ一ナカラシムルヲ要ス而シテ鑰匙ノ如キハ必ラス其置場ヲ一定シマタ消防器械ノ如キモ常ニ之ヲ點檢シテ其排列順序ヲ正クシ不時ノ使用ニ差支ヘナカラシムルヤウ注意セサルヘカラス

第十一條

炊場浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ヒナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

監獄ニ於テ最も恐ルヘキモノハ火災ナリ故ニ殊ニ此福害ヲ豫防スルノ工夫アルヲ必要ニシテ直接ニ其警戒ノ責務ヲ有スルモノハ看守ナリトス看守ハ此點ニ於テハ職權ノ許ルス限り最も嚴正ニ其監察權ヲ

實行スルヲ必要ナリ多ク火ヲ用フル場所即チ炊場浴場火工場等ノ如キハ殊ニ嚴密ニ之ヲ看視シ火燃質ノ物品ノ如キハ決シテ之ヲ其周圍ニ近接セシムヘカラス

第十二條

獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴

密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長ニ申告スヘシ

看守ノ要務ハ囚人ノ遵奉スヘキ獄則若クハ教令ノ監視ニ任スルニアルカ故ニ日々囚人ノ行狀ヲ視察スル際ニ於テハ併セテマタ犯則ノ有無ヲ偵察シ若シ犯則又ハ應禁物藏匿等ヲ認知シタルトキハ之レカ相當ノ處分ヲ求ムルカ爲メニ猶豫ナク其事實ヲ取糺シ成ルヘク確實ノ證據ヲ收舉シテ之ヲ看守長ニ申告スルヲ要ス但シ其取糺ヲナス際ニ於テハ最も心ヲ公平ニシ些少モ依怙愛憎ノ念慮アルヘカラサルナリ

第十三條

密室監禁者及屏禁閤室獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況

ヲ看守長ニ具申スヘシ

密室監禁ハ刑事訴訟法第八十七條乃至第八十九條ニ規定スル所ニシテ豫審判事カ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキ檢事ノ請求ニ由リ又ハ職權ヲ以テ拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ通例十日以内管束スル處分法ナリトス屏禁及閤室ハ監獄則第四十二條ニ據リ四人ニ對シ獨愼ハ同第四十三條ニ據リ十六歲未滿ノ四人及懲治人ニ對スル懲罰處分ナリトス而シテ是等ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ特別ノ視察ヲ要スル所以ノモノハ懲罰ニ依リ果シテ悔悟ノ狀ヲ表スルヤ否ヤ又ハ健康ヲ傷毀スル所ナキヤ否ヤヲ知悉スルニアリ故ニ典獄ハ其自身又ハ看守長等ノ視察シタル所ト看守ノ視察シタル所トヲ參考シテ或ハ醫師ヲシテ視察セシメ場合ニ由リテハ一旦其處罰ヲ中止スルコトアルヘク(監獄則第四十四條或ハ改悛ノ狀著シキハ處罰中ト雖モ之ヲ免除スルコト)同第四十八條アルヘキナリ尤モ看守ニ於テ視察シタル形況ハ格別ノ異狀ナキ限りハ其都度一々報告スルノ手數ヲ省キ看

守長巡回ノ際其視察事項ヲ詳記シタル手帳ニ就テ認知スルノ便法ヲ用フルモ亦タ可ナリト信ス本條ニ於テ少シク不完全ヲ感スルノ點ハ屏禁及ヒ閤室ノミヲ揭ケテ他ノ懲罰所分則チ減食施錠等ヲ列記セサルコト則チ是レナリ減食施錠等ノ處分ト雖モ其狀況ニ依リテハ或ハ一時之ヲ中止スルコトアルヘク或ハ免除又ハ假免スルコトアルヘキヲ以テ之レニ對シ特別ノ視察ヲ加フルコトマタ必要ナリト信ス故ニ本條ノ規定ヲ設ケタル精神ヨリ之ヲ見レハ減食又ハ施錠ノ處罰者ト雖モ他ノ處罰者ト等シク特別ノ視察ヲ加フヘキモノト認メテ可ナリト思ハル況ンヤ減食處罰者ノ如キハ之ヲ他ノ四人ト別異シテ拘禁スルニ於テヲヤ(施行細則第九十九條)

第十四條

戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

戒具トハ縛繩手錠連鎖等ノ類ヲ指シテ之ヲ稱ス戒具ハ成ルヘク之ヲ用フルノ機會ナカラシムヘキコトハ勿論ナレモ尤モ外役等ノ場合ハ此

限ニアラス其必要アルニ當ツテ之ヲ用ヒ業既ニ之ヲ用フル以上ハ充
分其効ナカラシメサルヘカラス是レ平生無事ノ日ニ於テモ日々點檢
シテ不時ノ使用ニ支障ナカラシムルヲ要スル所以ナリ舊監獄則ニテ
ハ在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用フルノ規程第
二十二條第二項ナリシカ新法ニ於テハ戒具ヲ用フルハ變例ニテ之ヲ
用ヒサルヲ本則トセリ(新法第十六條)故ニ従前ニ比スレハ實際戒具ヲ
用フル場合ハ其數ヲ減シタルナリ之ヲ用フルノ場合少ケレハ益々之
ヲ點檢シテ其損否如何ヲ點檢スルノ必要アルヘキナリ
戒具ノコトアリテ罰具例ヘハ帶鎖鉢ノ類(監獄則第四十五條)ノコトナ
ケレトモ是等ノ類モ時々點檢ヲ要スヘキコト勿論ナリト思ハル

第十五條

食物ノ配與獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會不正不良
ノ所爲ナカラシムヘシ

食物(若クハ藥品)ヲ配與シ衣類雜具差入品又ハ購求品等ヲ在監人ニ受

渡シスルコトハ押丁ノ職務本例第六十七條ナルカ故ニ看守ハ其場ニ
立會不正不良ノ所爲ナカラシムルヲ要ス蓋シ是等ノ場合ニ於テハ最
モ不正不良ノ所爲ノ行ハレ易キモノニシテ而カモ其結果ハ囚情ニ關
シ檢束上ニ影響スルコト最モ大ナルカ故ニ本体ヨリ之ヲ言ヘハ此ク
ノ如キ重大ノ職務ハ宜シク看守ヲシテ自ラ之ヲ掌ラシムルヲ至當ト
ナスヘキ程ノモノナリ唯タ實際之ヲ爲シ能ハサルヲ以テ便宜之ヲ押
丁ニ任スルノミサレハ此場合ニ於ケル看守ノ立會ハ自ラ之レニ手ヲ
下スマテニ嚴重ニ之ヲ監督セサルヘカラス

第十六條

在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ

看守ヲシテ接見及教誨ノ席ニ立會ハシムルノ趣旨ハ在監人ノ舉動ニ
注視シ上官ノ指揮ヲ受ケテ其席上ノ取締ニ任セシムルニアリト信ス
蓋シ接見ノ席ニ於テハ既ニ看守長ノ之レニ臨ンテ其狀況ヲ視察スル
アリ其教誨ノ席ニアツテモ教誨師カ其席ノ主人トナリ職權ヲ以テ教

誨ヲ施スアルヲ以テ看守ハ唯タ外部ノ取締ニ任シ併ハセテ其職務上ハ在監人ノ行狀ヲ觀察スルヨリ外ナキナリ故ニ此場合ノ立會ハ前條ノ立會トハ大ニ其性質ヲ異ニセルモノナリト了知スヘシ

第十七條

病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ

本條ノ立會モ亦タ其意前條ニ同シク病者ノ舉動ヲ注視シテ其外部ノ取締ニ任スルニアリテ固トヨリ醫治上ニ關シ彼レ此レノ容ルハ權アルニ非ラス醫治トハ診察治療及ヒ鉢質検査本例第四十一條等ヲ包含シテ之ヲ稱スルモノナリト知ルヘシ

第十八條

在監人中ニ急發病アルトキハ直ニ看守長ニ申告スヘシ

急發病者アレハ速カニ看守長ニ申告スヘキコト勿論ナレトモ一面マタ相當ノ手當ヲナシ且ツ臨機醫師ニ報告スルノ手續ヲナスモ越權トハ言フヘカラス蓋シ本條ニ於テ先ツ醫師ニ報告セシメサル所以ノモ

ノハ表面上看守カ醫師ニ命令ヲ下スノ權ナキヲ以テノ故ナルヘシト雖モ畢竟スルニ其目的トスル所ハ先ツ醫師ノ來診治療ヲ要スルニアルカ故ニ本條ノ文面ニ拘泥シテ徒ラニ其機ヲ失スルカ如キヲナカラシムルヲ要ス唯タ之レカ爲メニ本條規程ノ精神ニ戻リ分掌ノ紀律ヲ紊スカ如キヲナクンハ即チ可ナリ

第十九條

水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ

避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ

但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ救護ノ爲

メ一時房外ニ出スコトヲ得

水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ全監ノ取締ヲ嚴ニスヘキハ勿論ノコトナレトモ殊ニ遭難ノ最モ急迫セル場所ニ及フタケノ全力ヲ用ヒ先ツ在監人ヲ避ケシムルノ準備即チ一令ノ下ニ開房スルヲ得ヘキ手順ヲ整ヘ以テ上官ノ指揮ヲ俟ツヘク若シ之ヲ俟ツノ違マナキトキハ

救護ノ爲メ一時房外ニ避ケシムルヲ得ルモノトス
此ニ所謂上官トハ看守部長以上ノ者ニシテ要スルニ當直官吏中ノ上
級ニ居ルモノナリト云フノ意義ナルヘシト思ハル、上官ノ指揮ヲ得ス
シテ在監人ヲ房外ニ避ケシムルコトハ萬止ムヲ得サル急速ノ場合ニ
非サレハ之ヲ爲スヲ能ハサルハ勿論ナリ宜シク最モ注意シテ其機ヲ
誤マルカ如キコトナキヲ要ス

近火等ニテ其災ノ監獄ニ及フ虞ヒナキ場合ニ於テモ一層獄内ノ取締
ヲ嚴重ニセサルヘカラス何ントナレハ斯カル事變ノ際ニハ自然獄内
ノ驚愕及ヒ騷擾ヲ惹キ起シ爲メニ之ヲ好機會トシテ脱越暴動等ヲ企
ツルモノアルノ恐レアレハナリ、非常急劇ノ場合ニ於テハ最モ其舉動
ヲ慎重ニシ決シテ周章狼狽スルコトナキヲ要ス

第二十條

反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配
ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ

但事急速ニ出テ差擱キ難キトキハ直チニ追跡スルコトヲ得
反獄逃走等アルトキハ先ツ非常ノ合圖ヲナシ直チニ一面鎮壓捕獲ノ
手配ヲナシ一面其旨ヲ上官ニ報告スルモノトス尤モ非常ノ合圖ニテ
其變事アルコトヲ普ク全監内ニ知ラシムルニ足ルトキハ特ニ上官ニ
報告スルニ及ハサルヘキ歟、事急劇ニ出テ差置キ難キトキハ直チニ追
跡スルコトヲ得トハ本條但書ノ規定スル所ナレバ此場合ニ於テハ最
モ能ク其時機ヲ察スルコト必要ナリタトヒ事急劇ニ出テ直チニ追跡
スルトキハ其逸囚ヲ捕獲スルヲ得ルノ目的アリト雖モ若シ之カ爲メ
ニ他囚ヲ逃逸セシムルノ恐レアルハ先ツ追跡ヲ見合ハセ捕獲ノ手
配ヲ爲スニ止ムルヲ以テ却ツテ其宜キヲ得タルモノナリト思考ス

第二十一條

在監人ノ頭髮身軀衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノア
ルトキハ直ニ看守長ニ申告スヘシ

本條ニハ在監人ノ頭髮、身軀、衣類等ニ注目シ若シ垢染破損セシモノア

ルトキハ直チニ看守長ニ申告スヘシトアレトモ垢染又ハ破損ノ左マ
テ甚シキニ非サルモノハ其都度敢テ申告ヲ爲サシムルニモ及ハサル
ヘク唯タ其事項ヲ手帳ニ詳記シテ看守長ノ檢閲ニ供セシムルカ又ハ
看守長巡回ノ節特ニ口頭ヲ以テ其事實ヲ陳告セシムルノ便法ヲ用フ
ルモ亦タ差支ナカルヘシト思ハル

第二十二條

監房炊場浴場厠園工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ
監房炊場浴場厠園工場等ノ掃除ニハ多クハ四人ヲ使役スルコトナル
カ故ニ其立會ノ場合ニ於テハ最モ其視察ヲ嚴ニシ不潔ナカラシムヘ
キハ勿論併セテ亦タ不正不良ノ所爲ナカラシムルヤウ注意セサルヘ
カラス

第二十三條

押丁授業手ノ在監人ニ接スル状態ヲ視察シ若シ相狂ル、モノ
アルヲ認ムルトキハ直ニ看守長ニ申告スヘシ

看守ハ押丁授業手ニ對シ表面上其職務ヲ指揮監督スルノ權ヲ有セザ
レトモ(或場合ヲ除キ)其位置直接ニ押丁及授業手ノ上級ニアリテ且ツ職
務上ノ關聯ヲ有スルモノナルカ故ニ執務上種々ノ注意ヲナスヲ得ル
ハ勿論ナリ故ニ看守ハ常ニ押丁授業手ノ在監人ニ接スル状態ヲ視察
シ若シ相狂ル、モノアルヲ認ムルトキハ直チニ其旨ヲ看守長ニ申告
スヘキハ勿論ナレトモ若シ反對ニ苛酷ノ待遇ヲ爲スモノアルカ又ハ
其他何等カノ不都合アルヲ認ムルトキモ亦タ申告ヲ要スヘキモノナ
ルヘシ但シ是等ノ場合ニ於テハ最モ公平ニ且ツ最モ正確ニ其事實ヲ
詳悉スルコト必要ナリ何ントナレハ此申告ハ忽チ押丁等ノ進退ニ影
響スル程ノ價直アルモノナレハナリ尤モ事ノ極メテ輕易ナル場合ニ
於テハ只タ注意ヲ與ヘ將來ヲ戒ムルニ止ムルモ亦タ強テ差支ヘナカ
ルヘキ歟

第二十四條

監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直チニ看守長ニ申告スヘシ押丁

ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ
看守ハ監内ノ異狀則チ反獄逃走暴行等ノ企テ又ハ其他渾ヘテ異常ノ
狀態又ハ徵候アルヲ自ラ見聞シタルトキハ勿論押丁ノ報告又ハ在監
人等ノ密告ヲ得タルトキモ亦タ成ルヘク其事實ヲ確カメ迅速ニ之ヲ
看守長ニ申告スルヲ要ス蓋シ之ヲ未發ニ防クハ易スク之ヲ既發ニ復
スルハ難シ故ニ若シ踴躍緩漫其申告ノ機會ヲ失スルトキハ終ニ復タ
收拾スヘカラサルノ結果ヲ見ルニ至ラントス慎密ノ注意ヲ加フル所
ナクンハアルヘカラス

第二十五條

在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ之
ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカ
ラシムヘシ

在監人押送ノ際舊監獄則ニテハ戒具ヲ用フルヲ本則トナセシカ(第二
十二條)新法第十六條ニテハ反ツテ之ヲ以テ變例トセリ故ニ押送ノ任

ハ是ヨリ益々其勞ヲ増シ且ツ其實ヲ加ヘタリト謂フヘシ
押送ノ際ニ於テ看守ノ着目スヘキ要點ハ(第一)逃走(第二)共謀(第三)外人
トノ交通(第四)外人掠奪(第五)行路ノ妨害ヲ防キ及ヒ(第六)被押送者ノ體
面ヲ汚辱セサラシムルニアリトス本條ニハ單ニ路人ト聲語シ又ハ之
ヲ侮辱シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等ノイアルヘカラストアレ
トモ是ハ其要點ノ一二ヲ列舉シタル迄ニテ尙ホ此他ニモ注意スヘキ
要件アルヲ知ラサルヘカラス
押送途中ニアツテモ其被押送者ノ行狀ハ常ニ之レヲ觀察シ且ツ之レ
ヲ其手帳ニ詳記セサルヘカス或ハ言フ押送途中ノ行狀録ハ之ヲ典獄
ニ報告スヘキモノナルカ故ニ(施行細則第十三條)特ニ行狀録ヲ作ツテ
之ヲ詳記セサルヘカラスト然ルニ細則第十三條ニ所謂押送官吏トハ
警察遞傳ノ場合ニ於ケル巡查又ハ假留監ヨリ集治監又ハ甲集治監ヨ
リ乙集治監ニ押送スル場合ニ於ケル看守長ヲ指稱シタルモノニシテ
看守ハ此内ニハ包含セラレサルモノナリト思ハル故ニ看守ハ押送ノ

場合ニ於テモ渾ヘテ平日ノ如ク其所持ノ手帳ニ視察事項ヲ詳記シ以テ看守長ノ檢閲ニ供スルヲ以テ十分ナリト信ス

第二十六條

在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長ニ申告スヘシ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長ニ致スヘシ

在監人ヨリ願訴ヲナサント欲スル者アルトキハ先ツ其旨ヲ看守長ニ告知シ以テ其指揮ヲ俟ツヘキモノトス尤モ封書ニテ差出シタルトキハ其儘直チニ之ヲ看守長ニ傳致スヘキナリ謂ハレナク濫リニ願訴ヲ呈出スルモノト認メタルトキハ看守ニ於テ一應之ヲ説諭シテ取下ケシムルモ固トヨリ越權ノ所置トハ言フヘカラス但シ在監人ニ於テ之ヲ聞キ入レサルトキハ格別ナリトス

第二十七條

文字ヲ書スル能ハサル在監人ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

文字ヲ書スル能ハサル者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書スルコトハ其實繁ニ堪ヘサルノ事務ナルヘシト雖モ此事タル在監人ノ利益ニ關シテハ其影響スル所最モ大ニシテ且ツ權利ノ消長ニモ少カラサル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ決シテ之ヲ押丁等ニ委任シ得ヘキモノニ非ス宜シク看守ニ於テ自ラ其勞ヲ取り而カモ誠實ニ其意思ヲ代書スルコトヲ務ムヘキナリ

第八節 監獄官吏ノ一般義務

(甲) 服務紀律

監獄官吏ハ官吏服務紀律ノ規定ニ由リ

- (一) 天皇陛下及 天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡シ
- (二) 職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘク但其命令ニ對シ得見ヲ述ルコトヲ得
- (三) 職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ汚行ヲ禁シ威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務メ

監獄官吏ノ一般義務
服務紀律

- (四) 官司ノ機密ヲ恪守シ退職ノ後亦同レ
- (五) 本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス
- (六) 許可ナクシテ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
- (七) 許可ナクシテ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀其他ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス
- (八) 職務上關係アル者ノ饗燕ヲ受ルコトヲ得ス
- (九) 自己及家族ハ許可ナクシテ商業ヲ營ムコトヲ得ス
- (十) 取引會社ノ社員タルコト及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

(十一) 許可ナクシテ本職ノ外有給ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
 (十二) 浪費及過分ノ負債ヲナスコトヲ得ス

等ノ義務ヲ有ス監獄ノ職務ハ其性質上殊ニ動モスレハ輒チ社會ノ疑惑ヲ招致シ易スキ傾向ヲ有スルモノナルカ故ニ之レカ官吏ルヘタキ

所ノモノハ須ラク層倍慎重ナル注意ヲ以テ服務紀律ヲ恪守スルノ警戒ナカル可ラス

看守ニ對シテハ其採用ノ際特ニ左ノ諸件ヲ宣告シ尙ホ誓書ヲ徴シテ之レカ恪守ヲ宣誓セシム

- 一 看守タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事
- 一 看守タル者ハ在監人ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ實務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキコト
- 一 看守タル者ハ一旦奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコト決シテアルマシキコト
- 一 看守タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄專ラ品行ヲ正シクシ監獄官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキコト

其提出スル所ノ誓文ニ曰ク自書捺印セシムテ

誓文

今般何(廳府縣)看守志願仕候ニ付御採用ヲ蒙ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論在監人ニ對シテ決シテ相狎昵スルカ如キコトナク總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候様ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ監獄官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損致シ候様ノ所業決シテ仕ルマシク依テ誓文如件

明治 年 月 日

某 實印

監獄官吏殊ニ在監人ニ直接スル所ノ看守長以下總ヘテノ戒護吏員タルヘキ者ハ其身ヲ持スルコト最モ廉潔方正ニ其職務ヲ執行スルコト一ニ嚴肅純直ナルヲ要ス廉潔且ツ方正故ニ能ク其威嚴ヲ全フシ嚴肅且ツ純直故ニ能ク罪囚ヲ畏服反省セシムルコトヲ得ヘシ所謂嚴肅

トハ苛虐ノ謂ヒニアラス純直マ親タ昵ノ謂ヒニアラス或ハ苛虐ニ涉リ親昵ニ陷ルハ職務上過失ノ最モ大ナルモノナリト謂ハサルヲ得ス

上官ニ對シテハ從順ヲ旨トシ同僚ニ對シテハ和衷ヲ專ラトスヘシ上官ノ命令ニ抗抵シ同僚相反目スルカ如キコトノ重過失タルハ固トヨリ言フヲ俟タス然レモタ行刑其他監獄全體ノ利益ノ爲メ適當ト信スル所ノ意見ハ踴躍スル所ナク上官ニ對シテ之ヲ開陳スルヲ得ヘク否ナ之ヲ開陳セサルヘカラサルノ義務ヲ有ス且ツ又同僚中其汚行醜爲ノ監獄若クハ官吏ノ面目利害ニ關スヘキ者アリト認メタル場合ニ於テハ猶豫ナク其實事ヲ上官ニ具申スルヲ要ス隱蔽スルモノハ則チ職務冒瀆ノ過失タルヲ免カレヌ

監獄官吏タルヘキ所ノ者ハ如何ナル場合ニ論ナクマタ如何ナル事情アルヲ問ハス決シテ在監人ト私交ヲ結フカ如キコトアルヘカラス濫リニ在監人ト談話ヲ交ヘ恣マニ自家ノ用務ニ罪囚ヲ使役スルカ如キ

ハ是レマタ私交ノ一トシテ見ルヘキナリ
酒欲ハ最モ之ヲ限制スルヲ要ス如何ナル場合ニ論ナク決シテ酒氣ヲ
帶ヒテ勤務ニ従事スルカ如キコトアルヘカラス醉態ヲ街路ニ露ハス
コトマタ過失ノ一タルヘシ職務緘黙ノ義務ハ最モ嚴格ニ之ヲ遵守ス
ヘシ

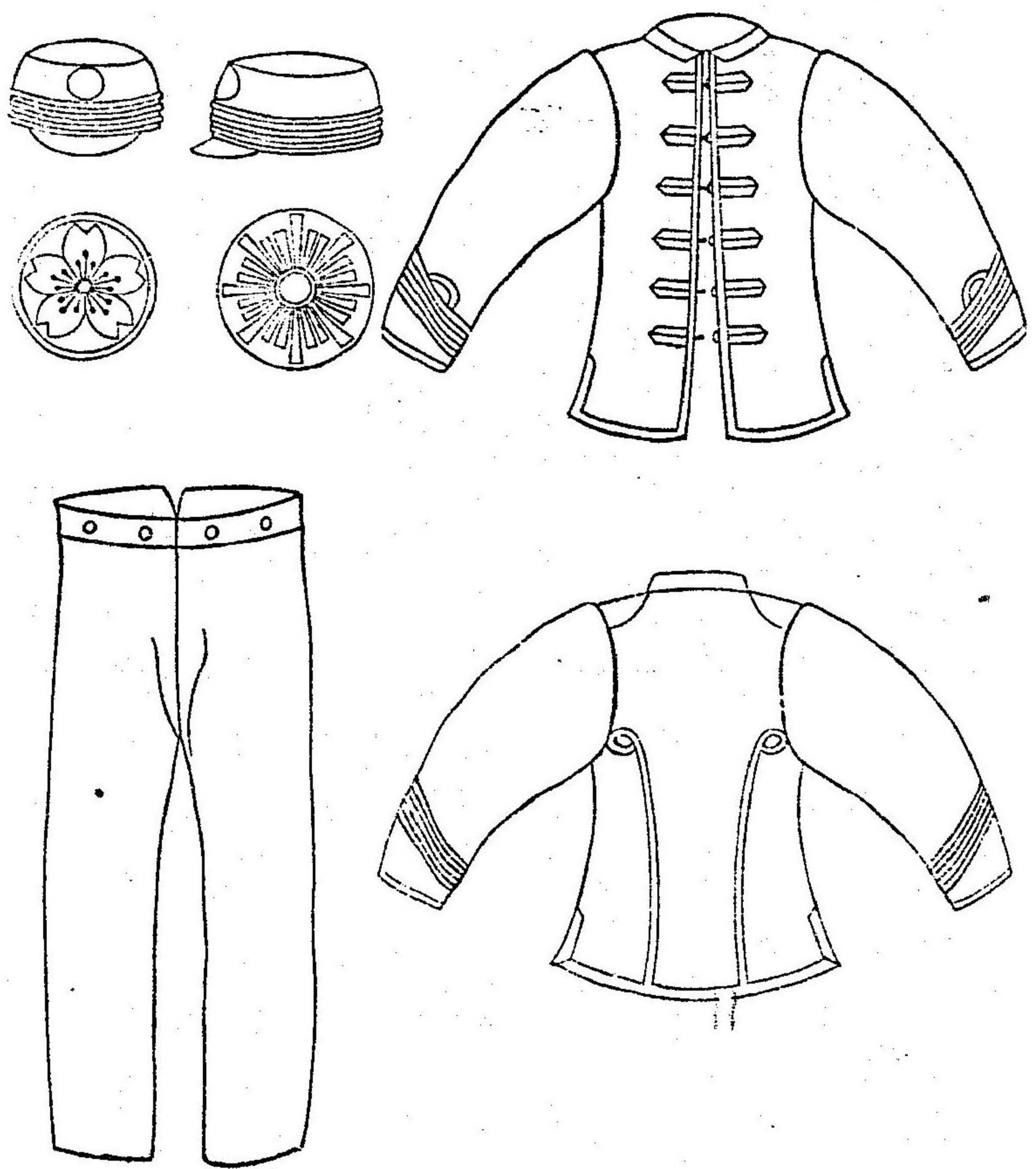
監獄官吏殊ニ工場擔當ノ看守ハ成ルヘク其ノ部内ニ於テ施行スル
所ノ作業ニ通曉スルノ義務ヲ有ス蓋シ自ラ通曉スル所ナクシテ他
ヲ督勵スルコト到底得テ爲シ得ラルヘカラサルコトナルヲ以テナ
リ

服制

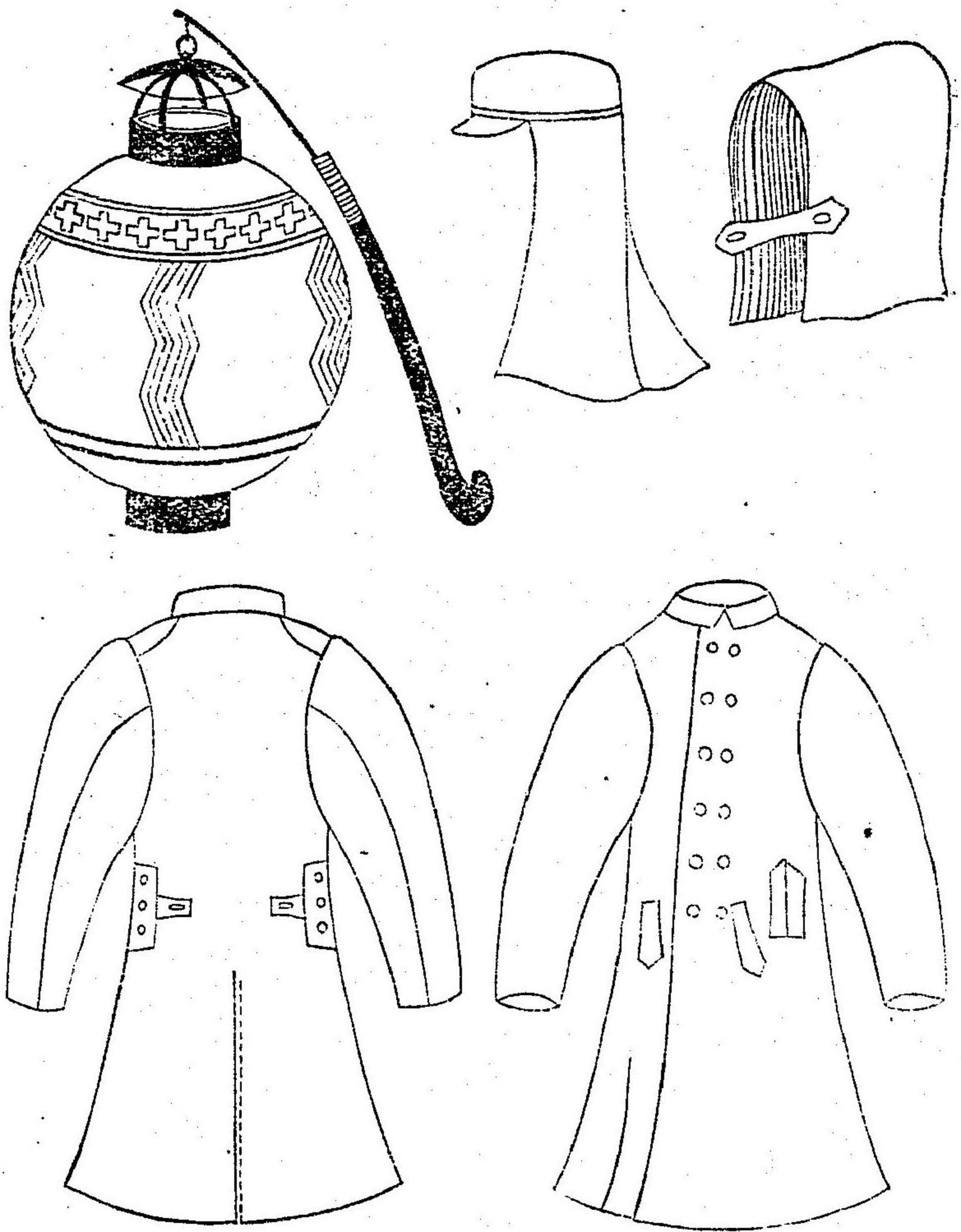
(乙) 服制

看守長及ヒ看守ハ勤務ニ際シ制服ヲ着用スルノ義務ヲ有ス
看守長及ヒ看守ノ服制圖式ハ左ノ如シ

看守長服制及提燈



第一篇 第六章 第八節 監獄官吏ノ一般義務



看守長服制

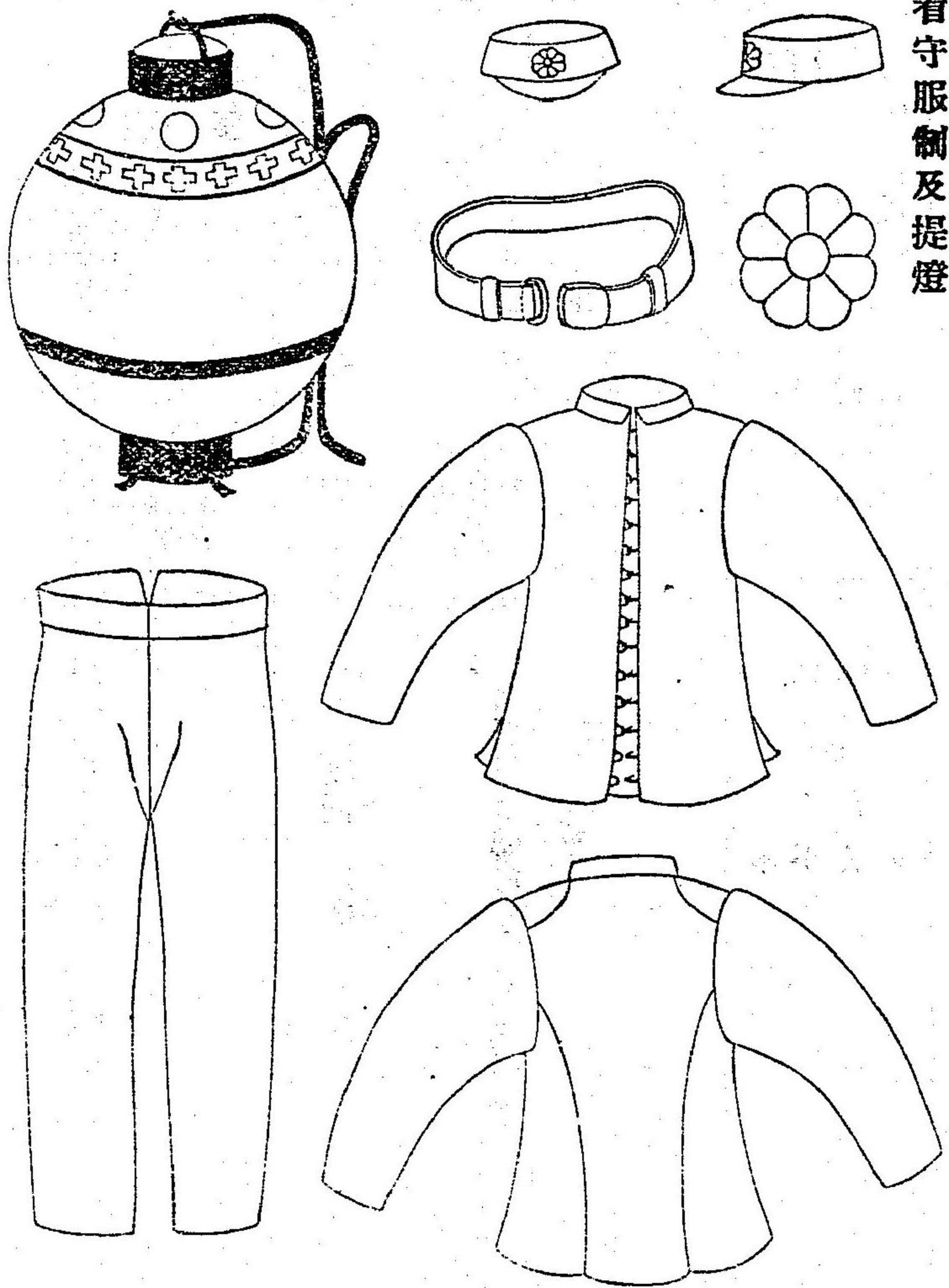
眞 鏡 <small>徑一吋三</small>	帽	章袖	章袴	章地	白地	質外	套同	釦	同地質	帽雨覆	同地質
金横線幅 <small>三分二條</small>	黒蛇腹 <small>ナシ</small>	紺	黒絨	無徽章	金櫻形	紺黒絨	無徽章	雨覆紺黒絨	日覆適	白	色
<small>但線紋ニハ同シ</small>											

全 提燈

黒横筋	幅八分	一寸五分	四方	三	所
同 朱十字	同 三分	同 五分	同 方	同 本	
同 豎山道	同	同	同	同	

第一篇 第六章 第八節 監獄官吏ノ一般職務

看守服制及提燈



典獄書記其他戒護吏ニアテナル所ノ監獄官吏ハ總ヘテ制服ヲ着用スルノ義務ヲ有セス然レモ其勤務ニ際シテハ成ルヘク通常禮服タル「フロツコート」若クハ少クモ黑色「モーニングコート」ヲ着用スルノ注意アルヲ要ス

各國ノ獄制ニ據ツテ之ヲ見ルニ多クハ總ヘテノ高級官吏ヲシテ制服ヲ着用スルノ義務ヲ負ハシムルモノ、如シ普國ニ於テハ司法省所轄ノ監獄官吏ハ總ヘテ制服ヲ着用スルノ義務ヲ有スルモ之レニ反シ内務省所轄部内ニアツテハ敢テ之ヲ強制セス蓋シ該部内ニ於ケル所ノ監獄官吏ハ多ク士官出身ノモノナルカ故ニ恒ニ整然タル服裝ヲ保ツニ馴レ以テ能ク紀律的外觀及ヒ執務ヲ全フシ得ル所アルヲ以テナリ、監獄ハ紀律ノ府其動作スル所ハ徹頭徹尾總ヘテ紀律的ナルヲ要ス是レ即チ監獄官吏制服ノ必要アル所以ニシテ其及ホス所ハ獨リ看守長及ヒ看守ノミヲ以テ足レリトナスヘカラス監獄ノ主長タル典獄ハ言フテ俟タス書記其他ノ吏員ヲ教誨師ハ附服ト雖モ亦之レヲシテ盡ク

一定ノ制服ヲ着用セシムスハアルヘカラス著者曾テ典獄制服ノ必要ヲ論シテ曰ク

典獄ノ制服

前略
監獄ハ紀律ノ府ナリ。整然タル社會ノ秩序ヲ紊リ嚴手タル國家ノ法規ヲ蔑如シタル者ヲ懲毖改良シテ正路ノ民ニ復歸セシムルヲ期スルモノハ即チ監獄ノ要務ナリ(中略)之レヲ導化スルノ法ハ唯タ監獄ヲ以テ滿目皆是レ肅然タル紀律的ノ境遇トナシ一舉手一投足モ渾ヘテ嚴正ナル紀律ノ命スル所ニ服行シ外部ノ必要ニ迫ラレテ終ニ本心ノ懺悔ヲ惹キ起スニ至ラシメ知ラス識ラスノ間ニ於テ命令服從ノ習慣ヲ遵養シ此習慣ヲシテ終ニ第二ノ天性タラシムルニアリ紀律ヲ以テ人ヲ導カント欲スレハ先ツ己レヲ紀律ノ位置ニ置カスンハアルヘカラス躬ヲ以テ嚴正ナル紀律ノ模範タラシムルコト必要ナリ制服ノ紀律ニ關係アルコト決シテ少小ニアラス彼ノ兵卒ヲシテ制服ヲ着用セシムル所以ノモノハ何ソヤ看守巡查ヲシテ兵

裝セシムル所以ノモノ何クニアル之ヲ率フル士官警部看守長ノ制服ヲ設クル果シテ何ノ必要アル將校若クハ警部長ヲシテ凜然凜然タル一定ノ制服ヲ着用セシムル所以ノモノ果シテ何等ノ必要カアル是レ豈ニ至正至嚴ナル紀律ヲ保維センカ爲メナルニ非スヤ典獄ハ實ニ監獄ニ於ケル所ノ將校ナリ然ルニ彼レニ必要アルモノ獨リ此ニ必要ナキノ理アラシヤ況ンヤ殊ニ嚴肅ナル紀律ヲ必要トスルノ監獄ニ於テヲヤ若シ夫レ將校ニシテ羽織袴ヲ着シ若クハ脊廣モノニングコートノ類ヲ着ケテ軍帽或ハ軍隊ニ臨ムコトアリトセン乎恰カモ是レ首腦ヲ屏去シタル形骸ノ如クサシモ整然タル軍隊ノ紀律モ忽チ之レカ爲メニ壞亂セラレ少クモ活動ノ生氣ヲ滅却スルニ至ルヘキハ論ヲ俟タス(中略)況ンヤ我國ニ於ケル典獄ノ多クハ未タ嚴肅ナル軍紀上ノ訓練養成ヲ經タルモノニアラサルニ於テヲヤ典獄ノ制服ヲ設クルコト實ニ目下焦眉ノ急務タラスンハアラス
紀律ト慈愛トハ擲突セス。典獄ヲシテ制服ヲ着ケシムルトキハ慈

愛ノ要素ハ紀律ノ爲メニ渾化セラレテ終ニ其痕迹ヲ止ムル能ハサルニ至ルヘシトハ反對論者ノ主張スル所ナリ然レモ是レ謂ハレナキノ杞憂ノミ上官制服ヲ着クルカ爲メニ慈愛ノ要素ヲ減却スヘシトナラハ彼ノ軍隊ナル一團結ハ渾ヘテ是レ殺伐殘戾ノ空氣ヲ以テ滿タサレスンハアルヘカラス彼ノ温乎タル良民ノ保護者ヲ以テ任スル警察官吏ノ如キモ亦タ殺氣凜然近ツクヘカラサル暴虎憑河ノ一類タラスンハアラス何トナレハ之ヲ綜該統督スル將校若クハ警部長ハ制服ヲ着ケタル殺伐無慈悲ノ人タルヘキヲ以テナリ是レ豈ニ事ノ實相ニ適シタルモノナランヤ三才ノ童子ト雖モ尙ホ能ク之ヲ判定スルヲ得ヘシ然ルニ獨リ監獄ノ長官タル典獄ヲシテ制服ヲ着ケシムルトキハ終ニ其和順ノ性質ヲ變シテ殘暴ニ至ラシムヘシトハ是レ豈ニ典獄ヲ小兒視シタル不敬ノ妄論ナルニ非スヤ(中略)且ツ今ノ時ニ方テ監獄ノ爲メニ憂フル所ハ嚴正ニ失スルニ非スシテ寧ロ優柔ニ過キルニアリ慈愛分子ノ欠乏ニアラスシテ剛毅分子ノ稀

小ナルニアリ之ヲ矯正スルノ手段トシテ幾分カ剛毅嚴正ニ傾クノ方法ヲ採ルコト固トヨリ不可ニ非ラス(若シ假リニ此傾キアリトセハ)中略(監獄ニ於テ慈愛分子ノ必要ナルコト勿論ナリト雖モ其愛ヤ公正明白ニシテ且ツ普及ナラサルヘカラス此愛ハ則チ所謂嚴正ノ要素ニシテ換言スレハ愛ハ嚴正ノ外ヲ出テスト謂フヲ得ヘシ嚴正ハ即チ整然タル紀律ノ内ニアツテ活動スルヲ得ヘシ紀律ヲ離レテ嚴正ナシ嚴正ノ外ニ一ノ愛モ存在セサルナリ故ニ曰ク紀律ト慈愛トハ毫モ相權突スル所ナシト
 典獄ハ文武兼攝ノ官職ナリ。典獄ハ戒護ト庶務ノ上ニ立テ監獄全體ノ管理ヲ綜攝統督スルノ職權ヲ有スルコト論ヲ俟タス然レモ文武兼攝ノ職務ナルカ故ニ戒護ニ固有ナル制服ヲ要セスト謂フニ至ツテハ其理由ノアル所ヲ知ルニ苦マサルヲ得ス戒護ト云フモ庶務ト謂フモ其監獄事務タルニ於テハ即チ一ナリ其秩然タル紀律ノ嚴肅ヲ要スルニ至テハ即チ一ナリ獨リ戒護ニ紀律ヲ必要トスルモ庶

務ニ紀律ヲ要セサルノ理アラサルナリ之ヲ一方ニ欠クトキハ終ニ全體ノ紀律ヲ壞亂スルニ至ルヘキコト理ノ最モ親易スキ所ナリ治獄ノ本體ヨリ之ヲ言ヘハ庶務モ亦タ戒護ノ事務ニ關與シ遇囚ノ事項ニ密接ノ聯絡ヲ保タサルヲ得ス然ラハ則チ之ヲ統督スル典獄ヲシテ紀律ノ中心タラシメサルヘカラサルコト亦タ明ラカナリ利劍ヲ握ルノ手ヲ以テ宜シク毛管ヲ把ラシムヘシ庶務ヲ剖理スルノ敏捷銳利ナルコト須ラク彼ノ利劍ヲ以テ物ヲ裁斷スルカ如クナラシムヘシ

外國ニ類例ナシト謂フハ誤謬ナリ 外國類例ノ有無ハ深ク問フヲ要セサル所ナリ設令ヒ類例ナキモ我レニ於テ其必要ヲ感スル上ハ之ヲ實行スルニ何ノ躊躇スル所カ之レアララン況ンヤ各國到ル所苟クモ獄制ノ完備ヲ以テ稱セラルヘノ國ニシテ典獄服制ノ規定アラサルハナキニ於テヤ獨リ此規定ナキモノヲ普國內務大臣ノ管轄ニ屬スル監獄トナス蓋シ之レカ規定ヲ設ケサル所以ノモノ偶然ニ

非ラス典獄ヲ始メ上等司獄官ノ列ニ伍スル所ノモノハ幾ント皆營ツテ多年職ヲ軍事ニ奉シタルノ人ニ非サルハナク秩然タル軍紀ハ既ニ業ニ其骨髓ニ徹シテ訓練養成セラレタルモノナルカ故ニ縱令ヒ制服ヲ着ケサルモ之レカ爲メ一步モ紀律ノ範圍ヲ超ユルカ如キコトアラサルヲ以テナリ(中略)典獄服制ノ規定アラサル所以ノモノハ單ニ前記ノ如キ理由ノミニアラス全クハ歷史上ノ關係即チ愛憐主義ノ遺物タラスンハアラス現行内務所轄ノ監獄制度ノ編制ニ與ツテ最モ力アリシ者ヲ前ノ「モアビット」ノ典獄某氏トナス某氏ハ熱心ナル愛憐(感化)主義ノ歸依者ニシテ一時ハ監獄ノ吏員ハ盡ク僧侶即チ宗教社會ノ人物ヨリ採用スヘシト迄ニ極端ノ議論ヲ主張シタルノ人ナリ故ニ獄制編成ノ當時一方ニ典獄服制論ヲ主唱シタル者アリシモ終ニ堅ク拒ンテ之ヲ容レス曰ク大僧正トモ謂フヘキ典獄其人ニシテ漫ニ威容ヲ裝フ所ノ軍服ヲ着ケ軍劍ヲ佩スルカ如キハ不當モ亦タ甚シト時勢一變迷夢全ク晴レテ監獄ハ嚴然タル規律節

務ニ規律ヲ要セサルノ理アラサルナリ之ヲ一方ニ欠クトキハ終ニ全體ノ規律ヲ壞亂スルニ至ルヘキコト理ノ最モ親易スキ所ナリ治獄ノ本體ヨリ之ヲ言ヘハ庶務モ亦タ戒護ノ事務ニ關與シ遇囚ノ事項ニ密接ノ聯絡ヲ保タサルヲ得ス然ラハ則チ之ヲ統督スル典獄ヲシテ規律ノ中心タラシメサルヘカラサルコト亦タ明ラカナリ利劍ヲ握ルノ手ヲ以テ宜シク毛管ヲ把ラシムヘシ庶務ヲ調理スルノ敏捷銳利ナルコト須ラク彼ノ利劍ヲ以テ物ヲ裁斷スルカ如クナラシムヘシ

外國ニ類例ナシト謂フハ誤謬ナリ 外國類例ノ有無ハ深ク問フヲ要セサル所ナリ設令ヒ類例ナキモ我レニ於テ其必要ヲ感スル上ハ之ヲ實行スルニ何ノ躊躇スル所カ之レアラシク況ンヤ各國到ル所苟クモ獄制ノ完備ヲ以テ稱セラル、ノ國ニシテ典獄服制ノ規定アラサルハナキニ於テヲヤ獨リ此規定ナキモノヲ普國內務大臣ノ管轄ニ屬スル監獄トナス蓋シ之レカ規定ヲ設ケサル所以ノモノ偶然ニ

非ラス典獄ヲ始メ上等司獄官ノ列ニ伍スル所ノモノハ幾ント皆嘗ツテ多年職ヲ軍事ニ奉シタルノ人ニ非サルハナク秩然タル軍紀ハ既ニ業ニ其骨髓ニ徹シテ訓練養成セラレタルモノナルカ故ニ縱令ヒ制服ヲ着ケサルモ之レカ爲メ一步モ規律ノ範圍ヲ超ユルカ如キコトアラサルヲ以テナリ(中略)典獄服制ノ規定アラサル所以ノモノハ單ニ前記ノ如キ理由ノミニアラス全クハ歷史上ノ關係即チ愛憐主義ノ遺物タラスンハアラス現行内務所轄ノ監獄制度ノ編制ニ與ツテ最モ力アリシ者ヲ前ノ「モアビー」ノ典獄某氏トナス某氏ハ熱心ナル愛憐(感化)主義ノ歸依者ニシテ一時ハ監獄ノ吏員ハ盡ク僧侶即チ宗教社會ノ人物ヨリ採用スヘシト迄ニ極端ノ議論ヲ主張シタルノ人ナリ故ニ獄制編成ノ當時一方ニ典獄服制論ヲ主唱シタル者アリシモ終ニ堅ク拒ンテ之ヲ容レス曰ク大僧正トモ謂フヘキ典獄其人ニシテ漫ニ威容ヲ裝フ所ノ軍服ヲ着ケ軍劍ヲ佩スルカ如キハ不當モ亦タ甚シト時勢一變迷夢全ク晴レテ監獄ハ嚴然タル規律節

制ヲ必要トスルノ今日トナリテハ普國ニ於テスラモ往々服制ノ必要ヲ唱道スルモノアリ司法大臣所轄ノ監獄制度ヲ新定スルニ當テ典獄服制ノ規定ヲ設ケタルハ蓋シ此新思想ノ勢力ノ然ラシメシ所ナリト云フ(下略)

禮服及通常服

看守長及看守ノ禮式

我國今日ニ於ケル看守長及ヒ看守ノ服制ハ獨リ以テ外觀ノ威容ヲ莊嚴ナラシムルニ足ラサルノミナラス經濟其他風雪時變等ノ際ニ於テ實際上ノ不便亦タ少小ニアラス殊ニ其體裁ニ於テ少クモ警察官吏ノ服制ニ遜色アルカ如キハ最モ事體ノ宜シキヲ得タルモノニ非ラス就中其帽制及ヒ劍制ノ如キハ大ニ之レカ改正ヲ加フル所アルヲ要ス看守長及ヒ看守ノ制服ハ禮服ト通常服ノ區別ナシ又看守制服ハ地質ノ制限ヲ置カス或ハ絨ヲ用フルモ或ハ小倉地ヲ用フルモ總ヘテ各地方ノ便宜タルヘシ

姿勢

ス典獄ハ禮式ヲ行フノ限リニアラス禮式ハ定制ノ服裝ヲナセシ人ニ行フヲ正例トシ單獨ノ禮式ハ服裝ノ如何ニ拘ハラス上官タルコトヲ認知シタルトキハ成ルヘク之ヲ行フコトヲ要ス禮式ハ別テ之ヲ最敬禮及ヒ敬禮ノ二種トナシ 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行ヒ内閣總理大臣各省大臣正式勅使及ヒ上官ニ對シテハ敬禮ヲ行フモノトス 制服着用者ハ常ニ其姿勢ヲ嚴正謹肅ニ保持スルコトヲ要ス蓋シ姿勢ハ敬禮編隊回轉等凡ヘテ紀律號令的動作ノ基礎トナルヘキ所ノモノナルヲ以テナリ嚴正謹肅ハ自然ニ出テ決シテ故意窮窟ハ状態ヲ呈スルカ如キコトアルヘカラス兩踵ハ一線上ニ之ヲ接觸セシメ兩足ヲ以テ稍々角度ヲ作ル丈ケ爪先ヲ平均ニ外部ヘ開カシメ膝部ヲ直伸シ腹部ハ正シク腰部ニ据ヘ胸部及ヒ體ノ上部ハ少シク前ヘ出シ左右ノ肩ハ平均ニ下ケ兩手ハ體ノ兩側ニ垂下シ兩掌ハ少シク外部ヘ開カシム頭ハ真直ニ伸ヘ願ハ前ニ突出スヘカラス但除リ引下ケテ前願ヲ眼ハ

前面ヲ直視シ決シテ視線ヲ地上ニ注クカ如キコトアルヘカラス
看守長及ヒ看守ハ常ニ制服及ヒ其屬具ヲ清潔且ツ完整ニ保ツノ義務
ヲ有ス不潔若クハ破綻ニ放擲スルカ如キコト蓋シ職務過失ノ一タル
ヲ免カレス

懲戒

(丙) 懲戒

監獄官吏職務上ノ過失ハ九年四月太政官達第三十四號官吏懲戒例ニ
據ツテ之ヲ處分ス官吏服務紀律ニ抵觸スルノ行為ハ渾ヘテ之ヲ職務
上ノ過失ト稱ス但シ其事ノ犯罪ニ涉ルモノハ懲戒例ヲ適用スルノ限
リニアラス
懲戒ノ法分ツテ之ヲ三種トナス誣責、罰俸、及免職即チ是レナリ誣責ハ
懲戒ノ輕キモノニ屬シ單ニ誣責書ヲ下付スルモノトシ罰俸ハ一月分
十分一乃至三月分ノ俸給ヲ奪フモノトシ免職ハ其職務ヲ罷免スルモノトス免
職ハ位記ノ返上ヲ付加シ又勳章及ヒ年金ヲ褫奪スルモノトス

官吏懲戒ハ權ハ本屬長官之ヲ有ス但シ典獄ニ對スルモノハ地方長官
ヨリ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀ヲ要シ其他ノ監獄官吏ニ關スル
モノハ總ヘテ地方長官ニ於テ之ヲ專行ス集治監ニ於テハ典獄ハ部
下ニ具狀シ看守以但地方長官ニ於テ監獄官吏判任官ヲ懲戒シタルト
キハ誣責ヲ除クノ外其他ノ處分ハ内務大臣ニ對シテ之ヲ報告スルモ
ノトス

看守ハ懲罰ハ九年八月内務省達乙第九十二號巡查懲罰例ニ準據シテ
之ヲ處分ス懲罰ノ法別テ之ヲ呵責、罰金、及ヒ免職トシ犯狀ノ職務ヲ耻
カシムルニ係ルモノハ免職シ其他職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失錯ス
ル者ハ其情狀ヲ審按シ俸給一ヶ月百分一以上一ヶ月以下ノ罰金ヲ科シ
輕キ者ハ呵責ニ止ム罰金ハ毎月ノ俸金ヲ扣除シテ完納セシム但月俸
ノ三分一ヲ過ルヲ得ス罰金未タ完納セサル中免職死亡等
ハ追徴スルコトヲ免ス
官物ヲ遺失及毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム
ルモノトス

精勤證書及ヒ
休暇

第九節 精勤證書及ヒ休暇

看守行狀方正勤務勉勵事務熟達且ツ奉職滿三年以上ニ及フトキハ典獄ノ具狀ニ依リ地方長官審査ノ上之レニ精勤證書ヲ授與スルモノトス集治監ニ於テハ典獄審査ノ上直チニ之ヲ授與ス精勤證書ハ獨リ名譽ヲ標置スルモノタルノミナラス之ヲ所有スル者退職後再任ヲ求ムルニ際シ無試験採用セラル、ノ特權ヲ有ス但官吏服務紀律ニ違背シ若クハ看守懲罰例ニ依リ月俸一ヶ月百分ノ二十以上ノ罰ヲ科セラレタル者及ヒ月俸百分ノ二十以下ノ罰金ト雖モ一年二回以上ニ及フ者並ヒニ奉職後刑法其他ノ法律規則ニ依リ處分ヲ受ケタル所ノモノハ設例ヒ前上ノ條件ヲ具備スルト雖モ精勤證書ヲ授與セラル、コト能ハサルモノトス精勤證書ハ受有後、行狀修マラス或ハ懲戒處分ヲ受クルガ如キコト之レアルトキハ事宜ニ依リ直チニ之ヲ沒收セラル、コトアルヘキナリ但過誤失錯ニ依リ處分ヲ受ケタル後勤務精勤セシ者ニハ其處分翌月ヨリ起算シ普通ノ要件ヲ具備スルニ至テ該證書ヲ授與スルコトアルヘク又退

休暇

職後ト雖モ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ直チニ該證書ヲ沒收スルモノトス

監獄官吏暑中、父母祭日其他普通、ハ渾ヘテ一般官吏ノ規定ト異ル所ナシ但看守ニ就テハ特ニ十八年七月内務省番外達巡查看守休暇概則ノ規定アツテ之レニ適用スルモノトス則チ皆勤一ケ年間ニ及フ者ハ三週間、其半ケ年ニ至ル者ハ壹週間ノ慰勞休暇ヲ賜與スルコトヲ得但休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス又非番、父母祭日、忌引及職務上負傷者傳染病流行ニ際シ職務上該患者ニ直接シ之カ爲メ感ノ染シタル者治療中ノ日數ハ職務上負傷者ノ例ニ準スノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セサルモノトス

第七章 監督權ノ所在

第一節 最上監督權ノ所在

監獄則第二條ニ日ク

監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

本條ハ即チ我國ニ於ケル監獄最上監督權ノ所在ヲ規定シタルモノト

第一篇 第七章 監督權ノ所在 第一節 最上監督權ノ所在

監督權ノ所在
最上監督權ノ所在
最上監督權

ス蓋シ、監獄ハ司法當然ノ事務トシテ司法大臣ノ所轄ニ屬スヘキモノナルヤ又ハ純然タル行政事務トシテ内務大臣ノ所轄ニ屬スヘキモノナルヤ將タ行政司法ノ混合事務トシテ内務司法ノ兩部ニ分屬若クハ或ル特種ノ監督官署ニ專屬スヘキモノナルヤハ問題ニ就テハ歐洲諸國ニ於テモ一時ハ盛ンニ區々ノ討議ヲ盡シタル所アリシモノ、如ク現ニ今日ニアツテモ或ハ監獄ヲ以テ司法大臣ノ監督ニ屬セシムルモノアリ或ハ内務大臣ノ管轄ニ屬セシムルモノアリ或ハ幾分ヲ内務省ニ屬シ幾分ヲ司法省ニ屬セシムルノ分轄法ヲ襲用スルモノアリ則チ佛國英國魯國伊太利等ニ於テハ内務大臣ノ所轄ニ屬シ瑞典和蘭白耳義及ヒ埃斯太利ニ於テハ司法大臣之ヲ管轄シ普國ニ在テハ管轄權ノ所在未タ全國ヲ通シテ一定スルニ至ラス其間ノ境界頗フル曖昧糢稜タルヲ免カレス(第一章監獄ノ沿革參看)之ヲ要スルニ獄制ノ統一ヲ計ルハ治獄上ノ最緊要務タリ既ニ統一ノ必要ナル以上ハ其最上監督權ノ一手ニ歸結セシムル所アルヲ要スルハ論ヲ俟タス我カ監獄則ニ於

テ、監獄ハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除ク(第五十二條)外渾ヘテ統一的内務大臣ノ管轄ニ專屬セシムルコトニ規定セシハ最モ事體ハ宜シキヲ得タルモノナリト謂フヘシ實際上亦タ爾カク組織スルヲ利便ニ適シタルモノナリト信ス蓋シ監獄ノ目的ハ要スルニ社會ノ公安ヲ維持シ刑罰權ノ實行ヲ確保スルニアルカ故ニ行政事務トシテ之ヲ内務大臣ノ所轄ニ歸一セシムルノ至當ナルヲ以テナリ著者曾テ監獄最上監督權所在ノ問題ニ就キテ論議スル所アリ今左ニ其全文ヲ掲ケテ讀者ノ參考ニ供ス

監獄ハ内務省ノ管理ニ屬スヘキモノナリヤ將タ司法省ノ所轄ニ屬スヘキモノナリヤノ問題ニ就テハ十數年前即チ監獄改良着手ノ際ニ當リ間々學者政治家等ノ間ニ區々ノ議論アルヲ見ル所ナリシカ今日ニ於テハ此ノ問題ノ如キハ左マテ重要ナルモノニアラストシテ亦一人ノ之ヲ願ルモノナキカ如シ尤モ彼ノ一部ハ内務省ニ屬シ一部ハ司法省ニ屬スト謂フカ如キ不都合ナル組織ノ行ハレツ、ア

ル獨逸等ノ國ニアツテハ監獄改良上管理權ノ統一ヲ期スルノ必要ヨリ或ハ時トシテ兩派各々其ノ所見ヲ固執シテ相論争スルモノアルヲ見ル蓋シ要ハ唯タ管理權ノ統一ヲ期スルノ一點ニアリテ其所
在ノ内務省ナルト司法省ナルトハ實際強テ關係ナキモノ、如シ縱シ多少便否ノ關係之レアルニモセヨ現ニ統一的ニ内務省ニ屬シツ、アルモノヲ司法省ニ移シ又ハ司法省ニ屬シツ、アルモノヲ内務省ニ移スマテニ強テ制度ノ變更ヲ爲スヘキ程ノ必要ナキコトハ有識者ノ確認シテ疑ハサル所ナリ然リト雖若シ此ニ絶對的ニ監獄ハ内務ニ屬スヘキヤ將タ司法ニ屬スヘキヤノ問題ヲ提出シテ其ノ答辯ヲ求ムルニ於テハ監獄ハ理論上及實際上内務省ノ最上監督權ノ下ニ屬セシムルヲ以テ當然且便利ナリト答フルニ躊躇セサルナリ予曾テ言ヘルコトアリ曰ク監獄改良ハ今日ニ於テ改良前世紀ノ紀念物トシテ保存セラル、モノハ彼ノ司法監督權ノ下ニ監獄ヲ管理スルハ制度即チ是レナリト實ニ彼ノ司法省所轄ノ制度ハ前世紀ノ

遺物ナリ改良ニ適セサルノ制度ナリ早晚改正ノ必要ヲ見ルニ至ルヘキ不完全ノ組織ナリト斷言セサルヲ得ス

刑法及監獄沿革ノ史乘ヲ閱ミスル者ハ必ラス知ラン往古ニアツテハ刑獄ト聽訟トハ殆ント同一ノ意義ヲ有ス罪囚ヲ拘禁スルノ場所ハ一ニ聽訟斷獄司即チ司法官ノ管掌ニ屬セシメタルコト各國皆其軌ヲ同フセサルハナキヤ蓋往昔制度簡樸ノ世ニアツテハ聽訟等ノ事亦タ今日ノ繁密ノ如クナラス囚徒ノ如キモ少數ニシテ其ノ少數ノ囚徒ハ都ヘテ未決審判中ノモノニ係リ罪決スレハ即チ管杖、入獄、放逐、徒流、贖、死刑等生命身體及財產ニ對スル簡單ナル刑ヲ執行シテ之ヲ獄外ニ放遣スルニ過キサリシカ故ニ監獄ヲ以テ之ヲ司法官管轄ノ下ニ屬セシムルモ左マテ不都合アラサリシノミナラス實際ニ於テハ反ツテ便益ヲ感スル所ノ制度タリシナリ然ルニ時勢ノ變遷ハ漸ク法制組織ノ複雜ナルヲ致シ法網密ナルニ從ツテ罪囚モ亦タ次第ニ其ノ數ヲ加ヘ殊ニ一タヒ刑法ニ於テ自由刑ナル新刑ヲ創

定シ大ニ其ノ施行ノ領域ヲ擴充シタルヨリ以來治獄ノ事今日ニ於
 テハ復タ昔日ノ簡略單純ナルカ如キ能ハス單ニ罪囚ノ身體ヲ監禁
 スルニ過キサリシ所ノ場所モ今ハ監禁ノ外尙多數ノ囚徒ニ對シテ
 長期間自由剝奪ノ刑ヲ執行セサルヘカラサルニ至リ曾テ腦力ヲ費
 サスシテ管掌スルコトヲ得シ所ノモノモ今日ニ在テハ行刑専門ノ
 知識ヲ具備シタル者ニアラザレハ即チ能ク之ヲ操縦スル能ハス且
 發達シタル近世國法學ノ定論ニ據リ行政事務ト司法事務トハ成ル
 ヘク之ヲ劃別スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ彼ノ純然タル行政事務
 (Verwaltungsact)ニ屬スヘキ監獄事務ヲハ行政官廳即チ內務省所轄ノ
 下ニ歸セシムヘキハ實際ニ便ニ且道理ニ適スルコト分明ナルニ至
 レリ歐洲諸國中白耳義和蘭瑞典埃斯太利等諸國ニ於テ尙司法省所
 轄ノ舊制度ヲ襲用シテ改正セサル所以ノモノハ一ハ白耳義和蘭瑞
 典ノ如キ其ノ國域ノ小ナルカ爲メニ左マテ改正ノ必要ヲ感セサル
 ト一ハ埃斯太利ノ如キ獄務改良ニ對シ割合ニ熱心ナラサルカ爲メ

ニ原由シ且前段ニモ述ヘタルカ如ク今日トナリテハ既ニ獄務諸般
 ノ事稍々完全ノ域ニ達シタルヲ以テ差向改メテ內務省ニ轉屬セシ
 ムルノ必要モアラサルカ故ニ所轄ノ何レニ屬スルトハ復タ深ク顧
 ミル所アラサルニ由ルモノ、如シ我國ニ於テハ曾ツテ監獄ヲ以テ
 刑部省(大寶律)檢非違使(天長時代以降)六波羅ノ廳(貞永式目)代官町奉
 行(徳川時代)刑部省(明治三年)司法省(明治四年)等即チ當時ノ司法官廳
 ニ全屬若クハ分屬セシメタルモノヲ改メ明治九年ニ至リ全然內務
 省所轄ノ下ニ轉屬シ次テ明治十四年發布ノ監獄則ニ於テ明文ヲ以
 テ陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノ、外監獄ハ都ヘテ內務卿ノ管轄ニ屬
 スルモノタルコトヲ規定スルニ至レリ(監獄則第二條)監獄制度ノ改
 良ニ適應シタル英斷ノ措置ナリト謂フヘシ此ノ改正ハ如何ニ近世
 國法學ノ旨義ニ適シタルモノナリヤ如何ニ監獄改良上ニ利益ヲ與
 ヘタルモノナリヤ又如何ニ將來、斯ノ改良事業ノ上ニ便宜ヲ與フヘ
 キモノナルヤハ必スシモ識者ヲ俟テ後ニ之ヲ知ラサルナリ何者ノ

痴漢ヲ今日ニ當リ再ヒ司法省所轄ノ舊制ニ逆回シ敢テ監獄制度ノ改良進歩ヲ障害セント試ムル痴言固トヨリ齒牙ニ掛クルノ價直ナシト雖身斯ノ事業ニ從事スル者豈一言辨スル所ナカルヘケンヤ予輩固トヨリ三權鼎立ノ舊主義ヲ主唱セント欲スルモノニ非ス然レトモ國法既ニ行政司法各々其ノ管掌スル所ノ官署ヲ劃立シタル以上ハ行政權ヲ以テ成ルヘク司法權ヲ侵犯セシメサルト同時ニ司法部局ヲシテ行政干涉ノ區域ヲ成ルヘク制限セシムルコト亦タ甚必要ナリ若シ監獄事務ヲシテ之ヲ司法省管轄ノ下ニ屬セシメン乎司法省ニ於テハ此ノ事務ノ爲メ特ニ一ノ行政部局ヲ設ケスンハアルヘカラス何トナレハ司法官ヲシテ此ノ事務ヲ管理セシメンコトハ實際ニ於テ爲シ能フヘキコトニアラサルヲ以テナリ既ニ司法省ニ於テ特別ノ部局ヲ設ケテ之ヲ管理スル以上ハ此點ニ於テモ監獄事務ハ最早狹義ノ司法事項(Rechtssach)ニ非スシテ司法部内ニ於ケル行政事務ナルコト知ルヘキナリ況ンヤ監獄事務ハ其ノ性質ニ於テ

始メヨリ行政事項ニ屬スヘキモノナルニ於テヤ之ヲ行政總括ハ職權アル内務大臣管轄ノ下ニ屬セシムルハ事理ノ最モ明白ナルモハニアラスヤ

或ハ裁判ト行刑トハ合一ヲ要ストノ前提ヨリ司法官ト監獄官トハ同一人物ナルヲ要ストノ意見ヲ抱クモノアリト雖是ハ實際爲シ能フヘカラサルノ空想ニシテ反ツテ司法ノ嚴正確實ヲ紊亂スルモノト謂フヘキナリ縱令ヒ假リニ司法官ヲシテ監獄事務ヲ管掌セシムルコトヲ得ルトスルモ各司法官カ其ノ獨立ノ資格ヲ以テ裁決シタル所ノ事件ニ對シ一々之レカ執行ニ任セシメ能ハサルヘキヲ以テ到底司法官ト監獄官トハ同一人物ナルヲ要ストノ旨義ハ之ヲ貫徹シ得ヘキニアラサルナリ或ハ又檢察官ヲシテ監獄事務ヲ管掌セシムルコト彼ノ埃斯太利ノ如クナラシムヘシト謂フ者アリ然ルニ是レ恰カモ爭訟ノ敵手ヲシテ事件ノ結末ヲ付ケシムルニ同シク審タニ法理ニ適セサルノミナラス實際亦タ行刑ノ公正ヲ期スルノ道ニ

ア○ラ○サ○ル○ナ○リ○ス○ク○ノ○如○ク○既○ニ○監○獄○事○務○ヲ○以○テ○之○ヲ○司○法○官○ニ○モ○亦○タ
檢○察○官○ニ○モ○兩○ツ○ナ○カ○ラ○管○掌○セ○シ○ム○ヘ○キ○モ○ノ○ニ○非○ス○ト○セ○ハ○司○法○省○ニ
於○テ○之○ヲ○統○轄○セ○シ○ム○ル○ノ○必○要○ハ○殆○ン○ト○一○モ○之○ヲ○見○出○ス○コ○ト○能○ハ○サ
ル○ナ○リ

論者曰ク監獄ヲ内務省ノ監督ニ屬セシムルトキハ刑ノ原告者ト刑
ノ執行者トノ間互ニ連絡ナキカ爲メ刑ノ目的ヲ達スル能ハスト(法
學新報第八號石渡法學士稿監獄論參照)予ヲ以テ之ヲ見レハ是レ實
ニ杞憂ノ言タルニ過キサルノミ若シ果シテ宣告ト執行ト連絡相通
セサルカ如キコトアリトセン乎是レ監獄ハ内務省監督ノ下ニ屬ス
ルカ爲メニアラスシテ執行官其人ヲ得サルニ依ル尙クモ執行官
ニシテ其人ヲ得サルトキハ縱令ヒ司法省ニ於テ之ヲ監督スルモ
其結果ハ即チ同シク連絡相通セサルニ終ランノミ單ニ司法省ニ屬
シタルノミノ故ヲ以テ宣告ト執行ト忽チ相連絡スルヲ期シ得ヘシ
トハ思惟スルコト能ハサルナリ論者又曰ク監獄官ハ裁判官カ刑ノ

宣告ヲナシタル眞意ハ那邊ニ在リテ存スルヤヲ知ラス只何年何ケ
月ノ刑ニ處ストノ宣告文ヲ見其日時間被告人(?)ヲ獄舎ノ内ニ繋留
シ或ハ勞役ヲ取ラシムルニ過キス現今ノ如キニ制度相分離セル有
様ニテハ到底彼ノ犯罪撲滅ノ目的ヲ以テ刑ヲ宣告シ之ヲ執行スル
カ如キハ望ムヘカラサルナリ云々ト嗚呼論者ハ刑ノ宣告ヲ爲シタ
ル眞意ヲモ辨ヘスシテ能ク監獄官タル職任ヲ盡クシ得ヘシト信ス
ルカ行刑専門ノ學科ハ何ノ必要アツテ之ヲ講究セサル可ラサルカ
又方今如何ニ進歩シツ、アルヤヲ知ラサルカ刑ト行刑トノ關係ヲ
辨識セサルカ如キ者ニシテ如何ソ能ク監獄官吏タルヲ得ヘケンヤ
又論者ハ監獄官ヲ以テ單ニ裁判宣告文ヲ一見シテ其日時間罪囚ヲ
繋留シ或ハ勞役ヲ取ラシムルカ如キ極メテ簡略ナル事務ヲ管掌ス
ルニ止マルモノト誤解シアルカ如クナリト雖是ハ畢竟自ラ監獄ノ
事ニ暗ラキヲ證明スルモノニシテ斯カル幼稚ノ思想ヲ抱ケハコソ監
獄ヲ以テ司法省ノ監督ニ屬セシムヘシト謂フカ如キ淺薄ナル議論

ヲ試ムルニ至ルナレ予輩寧ロ其ノ愚ヲ憐レマスンハアラサルナリ
 論者又曰ク我國ノ制度ニ依レハ内務省ハ監獄ヲ監督スト雖或ル犯
 罪人ニ對シ特赦上奏ノ權ハ實ニ司法大臣ニ屬ス即チ他人ノ管轄内
 ニアル人物ニ對シ特赦ノ上奏ヲ爲ス者ナリ司法大臣ノ下ニ立ツテ
 運動スルモノハ檢事ナリト雖檢事ハ平常監獄事務ニ與カラサレハ
 監獄内ノ事情ニ通曉セス犯罪人ニシテ果シテ特赦ヲ與フヘキモノ
 ナルヤ否ヤハ一ニ内務省ノ指揮ニ屬スル監獄官ノ意見ニ依頼セサ
 ルヘカラス云々ト如何ニモ特赦上奏權ハ司法大臣ノ掌握スル所ナ
 リト雖是ハ固トヨリ當然之ヲ掌握スヘキ理由アツテ然ルモノニシ
 テ(特赦ハ確定裁判ニ對スル最高更正法トモ謂フヘキモノニシテ純
 然タル司法權ノ範圍ニ屬スルモノナルヲ以テナリ)此ノ稀有ノ場合
 ニ對スル干涉權アルノ故ヲ以テ監獄全隸ノ事務ヲハ盡ク司法大臣
 監督ノ下ニ屬セシムヘシト謂フノ論據トナスニハ足ラサルナリ況
 シヤ我監獄制度ニ於テハ論者カ杞憂スルカ如キ獨リ監獄官ノ意見ニ

依頼シテ經由官署タル檢事ニ於テ事實ヲ詳悉セサル等ノコトナカ
 ラシムルカ爲メニ檢事ヲシテ常ニ監獄ノ事情ニ通曉スルヲ得セシ
 ムルノ道ヲ開キ置クニ於テヲヤ否ナ檢事ハ獨リ經由官署トシテノ
 ミナラス行刑(狹義ノ)官署トシテモ亦タ當然監獄ノ事情ニ通曉セサ
 ルヘカラサルノ義務アルニ於テヲヤ若シ果シテ檢事ニ於テ誠實ニ
 其ノ義務ヲ盡ス以上ハ論者カ所謂一ニ内務省ノ指揮ニ屬スル監獄
 官ノ意見ニ依頼セサルヘカラス云々ト云フカ如キ患ヒアルヘキノ
 道理アラサルナリ試ミニ特赦上奏權ノアル故ヲ以テ司法大臣ノ監
 督ニ屬セシムルコトトセン乎行刑ノ一部ナル監視若クハ特別監視
 ノ警察權ノ下ニ操縦セシメサルヘカラサルヲ如何セント欲スルカ
 他日若シ我國ニ於テモ獨乙刑法等ノ適正ナル主義ヲ採用シテ監視
 ハ罪囚在監中ノ行狀ニ依リ監獄官ノ意見ヲ參酌シテ行否ヲ定ムル
 コト、ナスノ點ニ至リ若シ論者ノ口氣ヲ借テ行政官署ハ平常監獄
 ノ事務ニ與カラサレハ監獄内ノ事情ニ通曉セス犯罪人ニシテ果シ

テ監視ヲ免スヘキモノナルヤ否ヤハ一ニ司法官ノ指揮ニ屬スル監獄官ノ意見ニ依頼セサルヘカラスト抗爭スル者アラハ論者ハ果シテ如何ナル辭ヲ以テ之レニ答ヘント欲スルカ特赦ハ稀有ノ事ニシテ監視ハ常事ナリ此點ニ於テモ亦タ論者ハ其論據ノ極メテ薄弱ナルヲ會悟スヘキナリ

且夫レ監獄ノ目的即チ犯罪豫防撲滅ノ事ハ獨リ監獄其レ自身ノミノ作用ヲ以テ能ク貫徹シ得ヘキニ非ス他ノ行政事務即チ救貧感化、慈善、警察等ノ事項ト共ニ同統一系ノ關係ヲ以テ相並行セサルヘカラサルモノナルカ故ニ實際上、監獄事務ハ此ノ關係諸般ノ事項ヲ統括スル所ノ内務大臣管掌ノ下ニ屬セシムルニアラサレハ到底其ノ目的ヲ達スルニ適切ナル措置ヲ施シ他ノ關係事項ト支拂セスシテ常ニ同統一系ノ連鎖ヲ保全シ得ヘキニアラサルナリ是ヲ以テ觀ルモ監獄ノ内務所屬タラサルヘカラサルコト火ヲ觀ルヨリ尙明カナリト謂フヘジ云々

會
編務監督委員

内務大臣ハ其監督權執行ノ機關トシテ内務省中ニ警保局、巡閱官及ヒ監獄評議委員ヲ置キ獄務諸般ノ事項ヲ處理セシム則チ警保局ニ於テハ特ニ一課ヲ置テ監獄ニ關スル事項ヲ專掌セシメ巡閱官ハ監獄則ノ規定第四條ニ依リ隨時毎年少クモ一回内務官吏ニ任命シ親シク各監獄ノ實際ニ就キ殊ニ其檢束感化、賞罰衛生、構造、經費統計、服務等ノ張弛整否ニ關スル狀況ヲ查察セシメ又便宜監獄評議委員會ヲ開テ監獄ノ建築、囚人ノ作業其他監獄ニ係ル諸般重要ノ事項ヲ審議セシム委員ハ警保局長、縣治局長、内務省參事官一人、内務書記官一人、内務技師四人、生二人、衛司法省參事官、裁判官檢事ノ内二人、典獄一人及ヒ法學博士一人ヲ以テ之ヲ組織シ警保局長ヲ以テ委員長トス

歐米諸國ノ内ニハ特ニ官吏行政及司法官吏及人民議員、地主、工業家、醫師僧侶等ヲ以テ組織スル所ノ獄務監督委員會ナルモノヲ設ケテ之ヲ最上監督權ニ附屬セシムルモノアリ該會ハ始メ北米合衆國諸州ニ於テ之ヲ創設シ佛國、獨逸、白耳義等諸國亦タ相次イテ之ヲ襲用セリ其意

蓋シ一面ニハ監督ノ公明改良進歩ノ助成ヲ期シ一面ニハ監獄事務ヲシテ成ルヘク社會公共ノ事業ニ關聯スル所アラシメント欲スルニアリ然ルニ其實驗上ノ成績ハ一モ豫期ノ如クナル能ハス之レカ爲メ反ツテ一面ニハ監獄官吏ノ威嚴及ヒ行務ヲ害シ一面ニハ治獄改良ノ進歩ヲ阻格スルコト少カラズ終ニ今日ニ於テハ大概既ニ之ヲ廢絶シ少クモ一般ノ非認スル所タルヲ免カレサルモノ、如シ尤モ我國今日ノ如キ監獄事業ノ尙ホ未タ幼稚稱ノ境遇ニアルノ間殊ニ改良前途ニ横ハル種々ノ障害物(例ヘハ監獄費國庫支辨問題ノ如キ)アルノ場合ニ於テハ政略上或ハ中央獄事調査委員會ノ如キモノヲ組織シ民間一部ノ有力者等ヲ交ヘテ之レカ委員トナシ一方獄事關與ノ必要ニ迫ラシメツ、兼テ又獄事上ノ知識ヲ養成セシムルコト或ハ策ノ宜シキヲ得タルモノナルヘキカ但シ其性質ハ飽クマテ調査的組織トナシ決シテ監督ノ性質ヲ有セシメサルヲ得ス

司法大臣ハ其職權ノ獄務ニ密着ノ關係ヲ有スルモノ少カラス是レ則

直接監督權ノ所在

テ監獄則(第四條第三項及第四項)ニ於テ其所屬官吏タル裁判官及檢察官ヲシテ監獄ヲ巡視セシムルノ規定ヲ設ケタル所以ニシテ司法大臣ハ監獄ニ對シ常ニ間接的監督權ヲ有スルモノナリト謂フヘシ直接監督權若クハ其代理權(判事又ハ檢事)ノ視查ニ係ルモノ之ヲ巡閱ト稱シ間接監督權若クハ其代理權(判事又ハ檢事)ノ視查ニ係ルモノ之ヲ巡視ト稱ス巡閱權ヲ有スルモノハ獄務ノ内部ニ侵入シテ査閱監察スルノ權ヲ有シ巡視權ヲ有スル者ハ唯タ監獄管理ノ摸樣ヲ參觀視查スルノ權ヲ有スルニ止マルモノトス

内務省ニ於テハ假出獄免幽閉監視免除監獄建築作業科程ノ標準其他監獄則並ニ施行細則規定スル所ノ事項ニ關シ監獄管理官廳ノ申請ヲ認可シ尙ホ又管理事務其他在監人ノ異動ニ就テハ日報週報半年報、年報等ヲ徴シテ其實況ヲ監察スルモノトス

第二節 直接監督權ノ所在

監獄則第三條ニ曰ク

第一篇第七章 第二節 直接監督權ノ所在

集治監モ北海道ニ在ル及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府之ヲ管理ス

本條ハ即チ監獄直接監督權ノ所在ヲ規定シタルモノニシテ集治監及假留監假留監集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツカスハ内務大臣直接ニ之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ廳府縣長官ヲシテ之ヲ管理セシム所謂管理トハ直接ニ指揮監督スルハ意義ニ之ヲ解スヘシ

巡閱申報及ヒ裁決ヲ以テ管理權ノ作用トナス則チ廳府縣長官ハ每年少クモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱シ監獄則第四條又時々若クハ定期申報ヲ徵シテ監獄事務ノ功課ヲ查察督勵シ日常處理ノ事項ハ監獄ノ發議ニ依リ裁決ヲ與ヘテ之ヲ奉行セシム尤モ或ル事項ニ就テハ典獄ヲシテ之ヲ專行セシム代理若クハ委任事項ト稱スルモノ即チ是レナリ委任事項ノ範圍ハ地方ニ依リ廣狹相同シカラスト雖モ漫ニ之ヲ制限スルハ治獄ノ敏活ヲ期シ監獄ノ威信ヲ保ツ所以ノ旨趣ニ反スルモノト謂フヘシ地方長官其所轄ノ監獄ヲ巡閱シタルトキハ内務大臣ニ對シ

テ所見ノ事況ヲ申報スルモノトス
監獄則第五條ニ曰ク

府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得監獄ノ狀況ハ成ルヘク普通人民ヲシテ之ヲ參觀セシメサルコトヲ要ス何トナレハ漫ニ之ヲ許可スルトキハ之ヲ爲メニ監獄ノ紀律行刑ノ眞面目ヲ阻害セラルハニ至ルヲ免カレサレハナリ尤モ其事由ト人物ノ如何ニ依リテハ之レカ參觀ヲ許可スルコト反ツテ監獄及行刑ノ利益トナルヘキコトモアルヘキヲ以テ斯クノ如キ場合ニ於テハ便宜典獄ニ於テ參觀ノ允許ヲ與フルモ妨ケナシ但甲ニ許ストキハ乙ニ向ツテモ亦之ヲ拒絕スル能ハス其結果終ニ監門ヲ開テ公衆自由ノ出入ヲ許可セサルヘカラサルノ勢ヒニ至ルヘキヲ以テ監獄ハ須ラク時ト場合ヲ考察シテ慎重ノ注意ヲ加フル所ナクンハアルヘカラス然ルニ府縣會議員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ監獄費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議スルノ權ヲ有スルモノナルカ故ニ時々監獄ノ實際ニ就テ其費途

ヲ實シ且ツ之レニ關聯スル管理ノ實況ヲ查察參考スルノ必要アルコト勿論ナリ是レ即チ府縣會議員ニ對シテハ特ニ監獄參觀ヲ許ルスハ變例ヲ規定シタル所以ニシテ條文所謂巡見トハ其意義參觀ト云フニ同シク毫モ監督ノ性質ヲ其内ニ有スルモノニアラス且ツ巡見即チ參觀ナルヲ以テ之ヲ請フ者アル場合ニ於テハ典獄ハ先ツ監獄取締上必要ノ制限(例ヘハ時間ヲ限定シ日出前日没後若クハ執務時限前後ニハ之ヲ許サ、ルノ類)ヲ以テ之ヲ承認スルヲ要ス議者或ハ府縣會議員ノ巡見ヲ以テ監獄監督權ノ一作用ノ如クニ誤解スルモノアルヲ以テ聊カ此ニ論及シテ以テ其疑惑ヲ解ク日本監獄法講義本條ヲ注スルノ一節ニ曰ク

本條ノ規程アル以上ハ典獄ハ之レニ據リ唯タ參觀ヲ承認スルノ權アルニ止マリ當然之ヲ許否スルノ權ナキコト明ラカナリ是レ府縣會議員ハ其議權ヲ以テ獄制ノ完良ヲ計ル上ニ於テ監獄ノ實況ヲ參觀スルコト彼我ノ便益少カラサルヲ認メタレハナリ

ト當局者宜シク又漫ニ其職權ヲ弄シテ撞突ヲ起スカ如キコトナカラシムルノ注意アルヲ要ス

第二篇 各論

第一章 收監

第一節 收監手續

收監手續

監獄ニ收監スヘキ所ノモノハ之ヲ別ツテ囚人、刑事被告人、懲治人、別房留置人及ヒ携帶乳兒トシ更ラニ囚人ヲ細別シテ徒刑囚、流刑囚、懲役囚、禁獄囚、禁錮囚、拘留囚及ヒ民事囚トス徒刑囚及ヒ流刑囚ハ集治監及ヒ假留監ニ於テ、懲役囚、禁獄囚、禁錮囚、拘留囚及ヒ徒刑ノ女囚ハ地方監獄ニ於テ、民事囚及ヒ刑事被告人ハ拘留監及ヒ留置場ニ於テ、別房留置人ハ各監獄ニ於テ携帶乳兒ハ其母囚ヲ拘禁スル所ノ監獄ニ於テ、懲治人ハ懲治場ニ於テ之ヲ收監シ尙ホ又拘留囚及ヒ罰金換刑ノ禁錮囚ハ便宜之ヲ留置場警察署ニ拘禁スルヲ得ルモノトス監獄則第一條第五項監獄ニ於テハ何等ノ事故アルニ拘ハラヌ渾ヘテ其規定以外ノ者ヲ收禁スルコトヲ得サルモノトス但シ押送途中ニ係ル一般ノ囚人ヲハ沿道警察署内ノ留置場ニ於テ收監シ十五年二月太政官達第十號囚人護

送手續又餘罪發覺ノ爲メ刑事審問中ニ係ル囚人ヲハ便宜集治監ニ於テ之ヲ拘禁シ其他假留監ノ都合ニ依リ該監典獄ノ通知ニ從ヒ地方監獄ニ於テ一時徒刑及ヒ流刑囚ヲ收監シ置クハ十七年内務省乙第三十號達格別トス

收監ニ關スル監獄則及ヒ監獄則施行細則ノ規定ニ曰ク

監獄則

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收書ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

施行細則

第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內

ニ於テ通身ヲ檢査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房內揭示ノ事項ヲ説示スヘシ

第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

(二) 項略ス

第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

今左ニ是等ノ諸條項ヲ概括シテ收監ニ關スル手續ノ梗概ヲ説述スヘシ

收監ノ要件

(甲) 收監ノ要件

一、文書

新タニ收監スル所ノモノハ運クモ收監ノ當時必要ノ文書即チ囚人及懲治人ニ對シテハ宣告書及ヒ執行指揮書、刑事被告人ニ對シテハ令狀、即チ拘引狀若クハ拘留狀ノ具備アルヲ要ス其他又或ル他ノ監獄ヨリ收受スル場合ニ於テハ通例身上簿、領置目錄、押送途中行狀録等ノ文書

アルヲ必要トナスト雖是等ノ文書ハタトヒ其具備ヲ欠クモ直チニ以テ身柄收禁ヲ拒絕スルノ理由トハナスコト能ハサルナリ其令狀若クハ宣告書及執行指揮書ヲ關如スルモノニ至ツテハ如何ナル事情アルニ論ナク全然之ヲ收監スルコトヲ得サルモノトス蓋シ監獄ニ於テハ此文書アルヲ俟ツテ始メテ其囚人懲治人若クハ刑事被告人トシテ適法ニ收監スヘキモノナルコトヲ確メ得ヘキヲ以テナリ我カ監獄則ニ於テハ執行指揮書ノ明記ナシト雖囚人及ヒ懲治人ニ對シテ之レカ具備ノ必要ナルハ刑事訴訟法第三百二十條ノ規定ニ據ツテ明瞭ナリ但シ監獄署ニ送付スル所ノ宣告書ハ總ヘテ謄本ヲ以テ之レニ充テ檢事局ニ於テ之ヲ執行スルモノトス
 携帶乳兒ハ收監ニ就テハ別ニ文書ハ具備スルヲ必要トセス苟クモ監獄則ノ規定ニ適合スル所ノモノハ總ヘテ監獄ニ於テ直チニ之ヲ收監スルコトヲ得監獄則第七條ニ曰ク
 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡三歳ニ至ル迄之ヲ許

乳兒收監

別房留置人ノ收監

ス
 乳兒ハ實子ト養子トヲ問ハス又母囚ノ入監當時ニ携帶スルト否トヲ論セス苟クモ其齡三歳以下ニシテ母囚之ヲ乳養センコトヲ請願シ且ツ母囚ニ於テ實際乳養スルヲ得ルノ生力アリト認めタル場合ニ於テハ總ヘテ之ヲ許可スヘキモノトス
 別房留置人ノ收監ニ就テハ特ニ之レカ爲メ直接文書ハ具備スルヲ必要トセス刑法附則ノ規定ニ適合スル所ノモノハ總ヘテ監獄ニ於テ直チニ之ヲ其別房ニ留置スルヲ得ルモノトス而シテ其之レニ適合スルヤ否ヤハ宣告書ニ就テ之ヲ知悉ス尤モ新タニ他ヨリ入監スル所ノモノハ必ラス宣告書ノ添付アルヲ必要トシ且ツ相當送付官衙ノ照會アルヲ要ス刑法附則第三十二條ニ曰ク
 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

若シ夫レ事體ノ正面ヨリ之ヲ言ヘハ其住居旅費又ハ引取人ノ有無ハ
 獨リ本人ノ申告又ハ現在ノ狀況ニ由テ判定ヲ下スノミニ止マラス豫
 ハ警察署又ハ市町村役場等ノ公衛ニ照會シテ之レカ實否ヲ確メス
 ハアルヘカラス何トナレハ罪四多數ノ内ニハ或ハ故意ニ住居旅費又
 ハ引取人ヲ隱蔽シ好シテ自ラ監獄ニ衣食セント欲スル者ナキヲ保セ
 サレハナリ若シ或ハ實際住居アリ旅費アリ又ハ引取人アル所ノ者ヲ
 拘禁スルカ如キコトアリトセハ監獄ハ不知ヲ以テ口實トシ違法ニ無
 關係者ヲ監禁シ不正ニ監獄費ヲ支出シタルハ責ヲ免カレ能ハサルハ
 論ヲ俟タス故ニ別房留置人收監ノ場合ニ於テハ設令ヒ表面或ル一定
 ノ文書ヲ必要トスルノ規定ナキモ少クモ相當公衛ノ證明書又ハ引取
 人ナキコトアルヲ要スルコトナルヘシト信ス
 罰金換刑禁錮囚ノ收監ニ就テハ命令書及ヒ收監請求書ノ添付アルヲ
 要ス
 相當文書ノ添付ナキ所ノモノハ如何ナル事情アルニ論ナク之ヲ收監

引致者

二、引致者

スルヲ得サルヲ本則トス普國ノ獄制ニ據レハ相當官衛若クハ警察官
 署ヨリ送付シ來リタル所ノ者ニ限り取締ノ爲メ假リニ之ヲ監獄ニ收
 禁スルヲ得セシム但假收監ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ監獄署長
 ヲリ其旨ヲ監督官署府縣廳ニ上申シ該官署ノ指揮ヲ受クルヲ要ス
 二、引致者
 收監ニ引致ヲ要スルモノ之ヲ引致收監ト稱シ引致ヲ要セサルモノ之
 ヲ自告收監ト稱ス自告收監トハ裁判官ニ於テ便宜或ル種類ノ囚人ニ
 對シ通例短期刑ノ者若クハ逃走等ノ愛ヒ指定ノ期日迄ニ自身監獄ニ
 出頭シテ收監ヲ求ムヘキコトヲ命令スル場合ニ生スル所ノモノニシ
 テ其意蓋シ成ルヘク無用ニ人身ヲ拘縛シ若クハ引致スルノ手數及ヒ
 經費ヲ省略セント欲スルニアリ普國等ニ於テハ專ハラ此方法ヲ適用
 セリ我國ニ於テハ收監ハ總ヘテ引致ノ方法ニ依ルヲ必要トシ其引致
 ナクシテ來監シタル所ノモノハ設令ヒ必要文書ヲ携帯スルモノナリ
 ト雖モ監獄ハ之レニ依ツテ收監ヲ許容スルヲ得サルモノトス

收監ノ時間

三、時間

收監ノ時間ハ日出後及ヒ日没前ナルヲ要ス其日出前若クハ日没後ニ於ケル所ノモノハ監獄ハ之レカ收監ヲ拒絶スルヲ得ルモノトス是ハ囚人護送手續(第五條)ノ規定ニ據ツテ見ルモ明ラカナルノミナラス監獄取締上ノ爲メニモ亦タ當サニ此制限アルヘキヲ至當トス普國ニ於テハ收監ハ通例執務時間以内ナルヲ要シ其時間外ニ涉ル所ノモノハ監獄之レカ收監ヲ拒絶スルヲ得ルモノトス

入監者領收

四、領收

入監者アルトキハ典獄先ツ必要ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致者ニ交付スルモノトス文書査閲ノ際ニ於テ典獄ハ併セテ又入監者ノ人物ヲ檢閲シ其果シテ文書ニ適合スル所ノモノナリヤ否ヤヲ確認スルヲ要ス若シ人違ヒ等アル場合ニ於テ他ニ明確ナル反證ノアラサル限り典獄ハ終ニ其責任ヲ免カル、コト能ハサル者トス領收證ニハ領收ノ年月日及時間ノ明記アルヲ要ス

收監拒絶ノ理由

(乙) 收監拒絶ノ理由

前記收監ノ要件ヲ充タシタル所ノ者ハ監獄ハ總ヘテ之レカ收監ヲ拒絶スル能ハサルモノトス然ルニ歐洲諸國殊ニ普國等ノ獄制ニ據レハ普通收監ヲ拒絶スルノ理由トシテ尙ホ疾病、懷孕、泥酔、不潔等ノ條件ヲ以テ之レニ加フ

疾病ノ拒絶

一、疾病

收監ヲ拒絶スル所ノ疾病トハ危篤ニ陥リ、傳染病ニ罹リ若クハ收監ニ依リ著ルシク症候ヲ不良ナラシムル恐れアル者ヲ指シテ之ヲ稱ス精神病者ノ如キモ亦タ通例之ヲ收監セサルヲ本則トス尤モ右ノ疾病アル刑事被告人ニ就テハ監獄ニ於テ相當措置ノ出來得ラル、限り成ルヘク之ヲ收監スルノ變例ヲ取ルモノ、如シ蓋シ精神病者ノ收監ニ益ナキハ謂フヲ俟ダス危篤ニ陥リ又ハ不良ニ進ムノ恐れアル病者ヲ收監スルカ如キモ是レマダ監獄拘禁ノ本旨ニ對シテ歎焉タル所ナキニ非ラス其傳染病者ヲ收監スルカ如キニ至ツテハ獨リ禍害ヲ監獄全體

懷孕ノ拒絕

ニ傳播スルノ恐レアルノミナラス公衆衛生法ノ上ニ於テモ亦タ最モ不法ノ措置ナリト謂ハサルヲ得ス之ヲ以テ收監拒絕ノ一理由トナスコト最モ事理ノ宜シキヲ得タルモノナリト謂フヘシ

二、懷孕

普國ニ於テハ懷胎ノ婦女其七ヶ月以上ニ涉ル所ノ者ハ特ニ檢事ノ請求アル場合ノ外總ヘテ行刑ノ爲メニ之ヲ監獄ニ收禁スルコトヲ得サラシム(千八百八十三年五月及ヒ八十四年六月發布ノ内務大臣訓令)是ハ獨リ人身保護ノ仁旨ニ出ツルノミニアラス一ハ以テ彼ノ往々ニシテ監獄ヲ分娩所ト爲スカ如キ横着者ノ入監スル者アルヲ豫防セント欲スルノ旨意ニ出ツ是レ亦タ適當ノ措置ト謂フヘシ

泥酔及不潔ノ拒絕

三、泥酔及ヒ不潔

泥酔シテ入監スル所ノ者ハ監獄ノ規律ヲ害スルコト少カラス故ニ一時之レカ收監ヲ拒絕スルヲ得ルモノトス尤モ其引致收監ニ係ル所ノ泥酔者ハ一時假リニ之ヲ收監シ其醒覺ヲ俟テ引致者ニ對シ事由ヲ糺

問シタル上ニ於テ之ヲ領收スルヲ例規トス但其事由ハ領收後之ヲ管官署ニ具申スルモ而シテ其不潔者ノ收監ヲ拒絕スル所以ノモノハ普國ニアツテハ入監者ノ清潔ヲ保タシムルコトヲ以テ押送主務ノ官署即チ警察署ノ管掌事務トナスカ爲メニ當該官署ニ於テ其義務ヲ充タサ、ル所ノ者ハ監獄ニ於テ之ヲ收監スルコト能ハサルヘキヲ以テナリ若シ之レカ收監ヲ認容シタルトキハ其清潔ニ關スル費用(浴湯費洗濯費等)ヲ以テ警察官署ニ之レカ賠償ヲ要求スルモノトス

我國ニ於テハ別ニ疾病、懷孕等ヲ以テ收監拒絕ノ條件トナスノ規定アルヲ見ス故ニ規則上ノ表面ヨリ之ヲ言ヘハ設令ヒ傳染病者等ニシテ顯然、危害ノ監獄ニ迫リツ、アルヲ認ムルモ監獄ニ於テハ(規定ノ要件ヲ具備スル以上)必ラス之ヲ收監セサルヲ得サルモノ、如シ是レ豈ニ公衆衛生法ノ旨趣ニ適シタルモノナランヤ尤モ著者曾テ監獄則施行細則第七十六條ヲ解説スルノ一節ニ曰ク

前略 鄙見ニ依レハ他ノ傳染病ハ兎モ角若シ虎列刺等ナランニハ監